



山形県埋蔵文化財センター調査報告書第140集

堀端遺跡・塙ノ上遺跡発掘調査報告書



堀端遺跡・塙ノ上遺跡

発掘調査報告書

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第140集



財団法人 山形県埋蔵文化財センター

2005

財団法人 山形県埋蔵文化財センター



ほり ばた い せき まま の うえ い せき

堀端遺跡・塙ノ上遺跡

発掘調査報告書

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第140集

平成17年

財団法人 山形県埋蔵文化財センター



序

本書は、財団法人山形県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施した、堀端遺跡・塙ノ上遺跡の調査成果をまとめたものです。

堀端遺跡・塙ノ上遺跡は、山形県南部に位置する長井市にあります。長井市は、長井盆地に広がり、山形県の母なる川最上川が、長井市のほぼ中央を北流しています。長井市周辺地域は、近年の調査から、最上川に関連した人々の動きが、早くから盛んに行われていたことが明らかになってきています。

この度、県営ほ場整備事業(担い手育成型)宮原地区に伴い、工事に先だって堀端遺跡・塙ノ上遺跡の発掘調査を実施しました。

堀端遺跡・塙ノ上遺跡調査では、奈良時代から平安時代の堀で囲まれた施設を確認することができました。堀で囲まれた施設は、半径約1km以内に2ヶ所あり、堀の内側には大型の建物、外側には竪穴建物や畝が見つかりました。遺跡周辺は、古代長井郷と呼ばれた地域ですが、堀端遺跡・塙ノ上遺跡は、長井郷の営みと深く係わる施設であると考えられます。

埋蔵文化財は、祖先が長い歴史の中で創造し、育んできた貴重な国民的財産といえます。この祖先から伝えられた文化財を大切に保護するとともに、祖先の足跡を学び、子孫へと伝えていくことが、私たちの重要な責務と考えます。その意味で、本書が文化財保護活動の啓発・普及、学術研究、教育活動などの一助となれば幸いです。

最後になりましたが、調査においてご協力いただいた関係各位に心から感謝申し上げます。

平成17年3月

財団法人 山形県埋蔵文化財センター

理事長 日野 雅夫

本書は、県営は場整備事業（担い手育成型）宮原地区に係る「堀端遺跡・塙ノ上遺跡」の発掘調査報告書である。

既刊の年報、調査説明資料などの内容に優先し、本書をもって本報告とする。

調査は山形県置賜総合支庁産業経済部西置賜農村整備課の委託により、財団法人山形県埋蔵文化財センターが実施した。

出土遺物、記録類は、報告書作成終了後、山形県教育委員会に移管する。

調査要項

遺跡名	堀端遺跡 塙ノ上遺跡
遺跡番号	堀端遺跡 平成12年度新規登録 塙ノ上遺跡 平成12年度新規登録
所在地	山形県長井市中道一丁目・中道字塙ノ上
調査委託者	山形県
調査受託者	財団法人山形県埋蔵文化財センター
受託期間	平成15年4月1日～平成17年3月31日
現地調査	平成15年5月7日～平成15年9月3日
調査担当者	調査第一課長 野尻 崑 主任調査研究員 黒坂雅人 調査研究員 高桑弘美（調査主任） 副調査員 関口正昭
調査指導	山形県教育庁社会教育課文化財保護室
調査協力	山形県置賜総合支庁産業経済部西置賜農村整備課 長井市教育委員会 長井市農林課 山形県教育庁置賜教育事務所

凡　例

- 1 本書の作成は、高桑弘美・間口正昭が担当した。
- 2 遺構図に付す座標値は、平面直角座標系第X系（日本測地系）により、高さは海拔高で表す。また、方位は座標北を表す。
- 3 本書で使用した遺構・遺物の分類記号は下記のとおりである。

S B…掘立柱建物	S T…堅穴建物	S A…柱穴列	S K…土坑
S P…柱穴	S D…溝	S G…河川	S X…性格不明遺構
E P…遺構内ピット	E L…カマド	P…土器	S…礫
W…木	R P…登録土器・土製品	R W…登録木製品	
R Q…登録石器・石製品			

- 4 遺物観察表寸法の（ ）内数値は、図上復元による推定値、〔 〕内数値は残存値を示している。
- 5 本分中の遺物番号は、遺物実測図・遺物観察表・写真図版とも共通のものとした。写真図版等の○-△は、図版第○図△番を指す。写真図版中、遺物番号の無いものは、出土地点を示す。
- 6 土層断面図・遺物観察表の色調の記載は、1997年農林水産省農林水産技術会議事務局監修の「新版標準土色帖」に拠った。
- 7 発掘調査及び本書を作成するにあたり、下記の方々からご協力、ご助言をいただいた。ここに記して感謝申し上げる。

川崎利夫氏・竹田純子氏・三上喜孝氏・宮本長二郎氏・村木志伸氏・山本賢一朗氏・吉田歎氏
- 8 委託業務は下記のとおりである。

基準点測量委託業務	株式会社菅野測量設計事務所
遺構写真測量委託業務	朝日航洋株式会社
理化学分析委託業務	株式会社パリノ・サーヴェイ

目 次

I	調査の経緯	1
II	遺跡の概要	2
III	軽石遺跡	3
IV	塙ノ上遺跡	7
V	自然科学分析	12
VI	まとめ	27

報告書抄録 卷末

表

表1 遺物観察表 96

図 版

第 1 図	遺跡位置図	28	第 24 図	遺物実測図（7）S P	53
第 2 図	長井盆地の地形分類図	30	第 25 図	遺物実測図（8）遺構外	54
第 3 図	字切り図	31	第 26 図	塙ノ上遺跡遺構配置図	55
第 4 図	調査区概要図	32	第 27 図	E 区 S B304・309, S A864	57
第 5 図	基本層序（1）	33	第 28 図	E 区 S B848	58
第 6 図	基本層序（2）	34	第 29 図	F 区 S B846・847, S A863	59
第 7 図	基本層序（3）	35	第 30 図	F 区 S B846・847, S A863	60
第 8 図	堀端遺跡・塙ノ上道路遺構配置図	36	第 31 図	G・I 区 S B860・861, S A862	62
第 9 図	堀端遺跡遺構配置図	37	第 32 図	H 区 柱穴	63
第 10 図	A 区 S A 1, S K 9・95	39	第 33 図	I 区 S T773	64
第 11 図	C・D 区 土坑	40	第 34 図	I 区 S T774	65
第 12 図	C 区 S T58・S B109	41	第 35 図	I 区 S T774	66
第 13 図	C 区 S T58	42	第 36 図	I 区 S T749	67
第 14 図	C 区 S B109	43	第 37 図	I 区 S T749	68
第 15 図	C 区 S B60	44	第 38 図	I 区 積状遺構・土坑	69
第 16 図	C 区 S B60	45	第 39 図	E 区 S K413・697	70
第 17 図	C 区 区画施設 S D80	46	第 40 図	E 区 S K301・302・314・376・399	71
第 18 図	遺物実測図（1）S T58	47	第 41 図	E・G 区 区画施設全体図	72
第 19 図	遺物実測図（2）S T58	48	第 42 図	G 区 区画施設	73
第 20 図	遺物実測図（3）S T58	49	第 43 図	E 区 区画施設	75
第 21 図	遺物実測図（4）S T58	50	第 44 図	E 区 柱穴列	78
第 22 図	遺物実測図（5）S T58	51	第 45 図	E 区 S X303	79
第 23 図	遺物実測図（6）S T58・S K・S D	52	第 46 図	E 区 河川	80

第 47 国	遺物実測図(9) S T774	81	第 55 国	遺物実測図(17) S X303	89
第 48 国	遺物実測図(10) S T774	82	第 56 国	遺物実測図(18) S X303	90
第 49 国	遺物実測図(11) S T774	83	第 57 国	遺物実測図(19) S X303	91
第 50 国	遺物実測図(12) S T749・S K806～808	84	第 58 国	遺物実測図(20) S X303	92
第 51 国	遺物実測図(13) S T749・S K806～808	85	第 59 国	遺物実測図(21) S X303	93
第 52 国	遺物実測図(14) S T749・S K・S D	86	第 60 国	遺物実測図(22) S X303	94
第 53 国	遺物実測図(15) S K・S D	87	第 61 国	遺物実測図(23) 遺構外	95
第 54 国	遺物実測図(16) S P	88			

写真図版

写真図版 1	軸端遺跡・埴ノ上遺跡全景	写真図版24	埴ノ上遺跡遺構
写真図版 2	軸端遺跡・埴ノ上調査区全景	写真図版25	埴ノ上遺跡遺構
写真図版 3	軸端遺跡遺構	写真図版26	埴ノ上遺跡遺構
写真図版 4	軸端遺跡遺構	写真図版27	埴ノ上遺跡遺構
写真図版 5	軸端遺跡遺構	写真図版28	埴ノ上遺跡遺構
写真図版 6	軸端遺跡遺構	写真図版29	埴ノ上遺跡遺構
写真図版 7	軸端遺跡遺構	写真図版30	埴ノ上遺跡遺構
写真図版 8	軸端遺跡遺構	写真図版31	埴ノ上遺跡遺構
写真図版 9	軸端遺跡遺構	写真図版32	埴ノ上遺跡遺構
写真図版10	軸端遺跡遺構	写真図版33	埴ノ上遺跡遺構
写真図版11	軸端遺跡遺構	写真図版34	埴ノ上遺跡遺構
写真図版12	軸端遺跡遺構	写真図版35	埴ノ上遺跡遺構
写真図版13	S T58出土遺物	写真図版36	調査説明会等
写真図版14	S T58出土遺物	写真図版37	S T774出土遺物
写真図版15	S T58出土遺物	写真図版38	S T774・S T749・S K出土遺物
写真図版16	S T58出土遺物	写真図版39	S T749・S K出土遺物
写真図版17	S T58出土遺物	写真図版40	S K・S D出土遺物
写真図版18	S T58・S D・S P出土遺物	写真図版41	S D・S P出土遺物
写真図版19	S P・遺構外出土遺物	写真図版42	S X303出土遺物
写真図版20	S T・S P・遺構外出土遺物	写真図版43	S X303出土遺物
写真図版21	軸端遺跡 S T58・	写真図版44	S X303出土遺物
	埴ノ上遺跡 S T774出土遺物	写真図版45	S X303出土遺物
写真図版22	埴ノ上遺跡遺構	写真図版46	S X303・遺構外出土遺物
写真図版23	埴ノ上遺跡遺構	写真図版47	遺構外出土遺物

I 調査の経緯

1 調査に至る経過

堀端遺跡は、長井市教育委員会が平成12年9月に実施した宅地造成に伴う試掘調査において発見された。堀端遺跡周辺で県営は場整備事業が計画されたため、平成12年度に県教育委員会が、遺跡詳細分布調査を実施した。その際、堀端遺跡の西側に遺物の分布が確認され、その範囲が塚ノ上遺跡の名称で新規登録された。県教育委員会は、平成13年4月に、再度分布調査を実施し、塚ノ上遺跡の範囲が約120m四方に及ぶことが明らかとなった。

平成12年度
新規登録

これらの遺跡詳細分布調査の結果をもとに、県営は場整備事業にかかる遺跡の保存協議が行われ、水路・道路の設置部分、水田基盤が深い部分等、工事で遺跡が破壊される範囲について、緊急発掘調査の対象となった。調査は、財團法人山形県埋蔵文化財センターが県教育委員会から委託を受けて、平成15年度に行なった。

2 調査の概要

(1) 現地調査(第4図)

現地での調査は、平成15年5月7日から9月3日の間に行なった。調査は、工事工程との調整を計りながら、堀端遺跡と塚ノ上遺跡を交互に実施した。

平成15年度
現地調査

調査の開始にあたり、堀端遺跡と塚ノ上遺跡に共通の調査用方眼(グリッド: G)を設定した。グリッドは、国土座標とともに 5×5 mを単位とした。国土座標平面直角座標系第X系: X = -210000, Y = -71300を0-0Gとし、東西軸は西から東へ、南北軸は南から北に、アラビア数字による番号を割り当てた。調査区をA～I地区に分けて呼称した。堀端遺跡はA～D区、塚ノ上遺跡はE～I区に当たる。遺構・遺物の登録は、堀端遺跡は1～300、塚ノ上遺跡は301～を割り当て登録した。

調査は、重機による表土除去・面整理・遺構プラン検出・遺構精査・記録という工程で進めた。調査の成果がまとまった時点で、現地に於いて調査説明会を開催した。A・B・E・F・G・H区の調査が終了した平成15年7月12日に説明会を行なった。地元の方々をはじめとして150名の参加を得た。

調査説明会
150名参加

(2) 整理作業

整理作業は、平成15年度～平成16年度の間、遺物の整理と記録類の整理に分けて進めた。

平成15～16年度
整理作業

遺物の整理は、洗浄・ネーミング・復元・遺物抽出・実測・トレース・写真撮影・出土点数集計・収納の順に行った。遺物ネーミングは、「ホリバタ 出土位置」・「塚ノ上 出土位置」で各々を行い、出土位置は現場で付したものそのまま採録している。遺物には、整理中に実測番号と報告書掲載番号を追加してネーミングした。

報告書掲載遺物の抽出は、遺構ごとに行なった。抽出した遺物について、実測および写真撮影を行なった。容器類は原則として、1/2以上遺在するものは、完形実測を行い、1/2未満のも

のは、反転実測を行った。実測した遺物については、すべて報告書に掲載している。報告書には、各遺跡の遺構ごとに掲載した。遺物の収納は、報告書掲載遺物は図版ごとに、その他の遺物は遺構ごとに行なった。

記録類の整理は、写真整理・図面登録・遺構の抽出・トレイスの順に進めた。図面は、調査区ごとに登録し、建物を中心に抽出した。現地で確認できた建物については、報告書にすべて掲載したが、再考の余地を残す。

報告書版組作業と並行して、本文執筆を行った。

II 遺跡の概要

1 遺跡の立地と環境

堀端遺跡・塙ノ上遺跡は、山形県南部、西置賜郡長井市に所在する。遺跡は長井盆地のほぼ中央に位置し、西に朝日岳を臨む。遺跡の北東約3kmで、朝日岳より東流する野川が、吾妻山地を源として北流する最上川に合流する。遺跡は、野川右岸の河間低地に立地し、標高205～207mを測る。東に堀端遺跡、西に塙ノ上遺跡が位置し、両遺跡は接している。堀端遺跡は、東西1.7km、南北1.3km、塙ノ上遺跡は、東西・南北約1.2kmの広さで、地目は水田・畑地・宅地である。

長井郷 遺跡の所在する長井市周辺は、古代置賜郡長井郷と呼ばれた地域である。長井郷は、野川・白川流域に広がると考えられる。近年、南台遺跡・堀切遺跡・小山遺跡など、長井市内の古代集落遺跡の調査が相次いで行われている。また、堀端遺跡・塙ノ上遺跡の南東に位置する今泉地区には、蛇崩遺跡・今泉金山遺跡・加賀塙遺跡などの須恵器生産窯が点在することが明らかになっている。長井郷に隣接する遺跡が、調査によって徐々に解明されはじめている。

2 基本層序（第5～7図）

堀端遺跡・塙ノ上遺跡の基本層序は、I～III層からなる。I層は耕作土、II層は奈良・平安時代包含層、III層は奈良・平安時代遺構基盤層で、奈良・平安時代の遺構はIII層上面で検出した。各調査区の状況は次の通りである。

A区（第6図 i～i'）およびE区東（第6図 j～j'）では、I層黒褐色砂質シルトが堆積する。明瞭なII層の堆積が確認されず、III層灰オリーブ色砂質シルトが薄く堆積する。このIII層は、西側に移るにつれて安定する。

B・C・D区（第5図）では、I層暗灰黄色・黒褐色砂質シルトが堆積する。II層は、黒褐色粘土～砂質シルト・暗灰黄色砂質シルトが、10cm前後の厚さで堆積し、III層オリーブ色粘土質シルト・オリーブ黄色砂質シルト・黄褐色砂質シルトが安定して堆積する。

E・F・G区（第5・6図）では、I層黒～暗褐色砂質シルトが堆積する。II層は、E区西側（第7図）で黑色粘土質シルトが、5cm前後の厚さで認められるのみである。この層は、遺物が多数含まれている。III層は、オリーブ黄色～黄褐色砂質シルトで安定している。G区北側

に移るにしたがって、砂質感が強くなる。

H区（第5図）は、I層暗灰黄～褐色砂質シルトが、堆積する。II層は黒～黒褐色粘土質シルトが、5cm前後堆積する。遺物の混入はほとんど見られない。III層は、オリーブ～オリーブ黄色粘土質シルトが堆積するが、H区北～西側では、10～20cmの円環の混入が認められる。

3 遺構の分布（第4・8図）

遺跡は、河間低地に広がる。現地表は、標高205.5～206.8mを測り、水田・畠地・宅地として利用されている。遺構は、主に畠地および宅地周辺に分布している。遺構検出面の標高は、堀端遺跡205.8m前後、塙ノ上遺跡206.2m前後を測り、南西から北東に緩やかに傾斜している。遺構の分布は、C区およびE区西側～F区東側で集中し、基盤層（基本層序III層）の広がりと密接に関係する。一方、A区西壁～E区東端には、砂層・泥炭層が堆積する河川があり、基盤層の安定が認められない。この周辺は、奈良・平安時代には湿地帯になっており、遺構の分布は稀薄である。この湿地帯を境として、東側に堀端遺跡、西側に塙ノ上遺跡が展開する。

堀端遺跡の今回の調査区では、C区に遺構・遺物の集中が見られるが、他の調査区は稀薄である。遺跡東側の宅地化された部分については、遺構・遺物が少ないことが、長井市教育委員会による分布調査の結果で示されている。これらの状況から、堀端遺跡の中心部分は、C区の南北に広がると想定される。

塙ノ上遺跡の今回の調査区では、F区東側からE区西側、G区、I区に遺構の集中が見られるが、H区は稀薄である。塙ノ上遺跡の中心部分は、現在宅地となっているE区の北側に広がると想定される。また、I区で検出された歟が、東側で削平を受けていることが観察され、本来I区東側に遺構が伸びていたことが想定される。

今回の調査では、單一面の検出面に止まり、立面での遺構の分布は不明である。各区の基本層序の観察、A区・H区の深掘り調査においても奈良・平安時代の包含層（基本層序II層）以外の文化層は確認されていない。縄文時代・江戸時代の遺物が出土しているが関連する遺構は検出できなかった。

III 堀端遺跡

1 検出された遺構

検出された遺構は、掘立柱建物・堅穴建物・区画施設・溝・土坑・柱穴などである。

(1) 堅穴建物

C区東側で1棟検出された。

S T 58（第12・13図）

検出位置は、C区東側65・66・31・32Gである。調査区北壁に接しており、堅穴建物全体の約1/3の検出である。検出された平面規模は、南東辺3m、南西辺1.5mを測る。北壁面の土層観察から、上面は耕作等により削平されていることが解る。覆土は4層からなり、焼土・炭

化物粒の混入が多い。焼土混入層は堅くしまり、中央部分では、炭化物混入層をサンドイッチ状に挟み込む。壁面は、緩やかに立ち上がり、約30cmの高さで遺存する。床面は、中央部分に黄色粘土の貼り床があり堅くしまる。南東辺東端では、S P 94・S K 99擾乱を受けるが、その覆土および周辺に焼土が確認できることから、南東辺にカマドが構築されていた可能性が高い。柱穴は、S P 101がS T 58に関連する可能性が高い。S B 109との重複関係があるが、S B 109が新しい。

S B 109と重複
遺物は、中央から南東辺に密集する。須恵器・土師器・黒色上器が多量に出土した。
床面出土のものは少なく、S T 58埋没過程の廃棄による遺物と考えられる。

(2) 挖立柱建物

西面
C区東側で2棟検出された。A区では、柱穴列S A 1が検出されているが、東側に広がり掘立柱建物になる可能性が高い。

S B 60 (第15・16図)

検出位置は、C区東側61~63・30~32Gである。北側は調査区北壁に接し、南側は擾乱を受けている。柱穴13基を検出し、建物全体のおおよそ4/5になるとみられる。検出された部分から想定される平面構造は、3間×3間で、西面廊が付くとみられる。しかし、廊と考えられるE P 70~72が、他の柱穴より大型で深い傾向を示し、廊構造については検討の余地を残す。廊部分を含む平面規模は、南北9m、東西辺7.5mを測る。柱間寸法は南北1.2m、東西0.9m、建物と廊間は1.2mである。建物は、8度西に傾く。北壁面に接するE P 69・108の土層観察から、上面は耕作等により削平されていることが解る。柱穴の平面形態は、隅丸方形を基調とし、円形・不整形がある。検出面からの深さは、50cm前後を測る。覆土は2~4層からなり、炭化物粒・10cmの円礫が混入する。円礫は基盤層に含まれるもので、柱建立の際に埋め戻されたと考えられる。柱痕跡は、土色の変化および円礫の空白部分として把握することができ、柱材は径15cm前後と推定される。抜き取り痕跡は確認できない。柱穴の壁面は急激に立ち上がり、底面は平坦である。他の遺構との重複関係は認められない。

遺物は、須恵器・土師器の小破片が出土した。時期の特定ができるものはない。S P 66北側包含層より須恵器蓋(24-1)が出土した。

S B 109 (第12・14図)

S T 58と重複
検出位置は、C区東側65~67・30~32Gである。北側はS T 58と重複し、南側は擾乱を受けている。柱穴8基を検出したが、建物全体の構造は不明である。検出された部分から想定される平面構造は、2間×3間以上である。しかし、南東のS P 187が軸線から東側にずれている点や、南北の調査区が限られる点等、建物構造については検討の余地を残す。検出された平面規模は、東西辺6m、南北辺6.5mを測る。柱間寸法は南北1.2~1.5m、東西2.5mである。建物は、10度西に傾く。柱穴の平面形態は、隅丸方形を基調とし、円形・不整形がある。検出面からの深さは、20cm前後を測る。S P 84の覆土は2層からなり、柱痕跡が確認された。S P 103・106では、S B 60と同様に、10cm前後の円礫が、柱建立の際に埋め戻された状態が観察できる。柱材は径15cm前後と推定される。抜き取り痕跡は確認できない。柱穴の壁面は急激に立ち上がり、底面は平坦なものと、S P 103~105のように四部を有するものがある。S T 58との重複関係があり、S B 109が新しい。

遺物は、S T58と重複関係にあるS P84・89から須恵器残片（24-3）・蓋（24-5）、黒色土器無台坏（24-4）が出土した。また、S P107から出土した須恵器壺（24-10）が、S T58上位層で検出したSK93出土遺物と接合関係にある。これらの遺物は、S T58に由来する遺物の可能性がある。

（3）区画施設

C区中央で1基検出された。

S D80 (第17図)

検出位置は、C区東側63・64-31・32Gである。調査区北壁に接し、南側は擾乱を受けており、検出された長さは6.6mを測る。長軸は、5度西に傾く。覆土は4層からなる。2層の黒色砂質シルトを基調とする溝状の掘り込みに、1層の黒色砂質シルトで確認できる円形-不整形の掘り込みが行われたと理解できる。円形の掘り込みは柱痕跡、不整形は柱抜き取り痕の可能性が考えられる。溝状構造にみられる掘り込みは、塗ノ上遺跡G区の区画施設と類似する。他の遺構との重複関係は確認できない。遺物は、出土していない。

塗ノ上遺跡
区画施設と類似

（4）溝

C区東端で1条検出された。

S D88 (第9図)

検出位置は、C区東側67-30-32Gである。調査区北壁に接し、検出された長さは6.8m、最大幅2.3mを測る。長軸は、5度西に傾く。覆土は暗黒色砂質シルト1層からなる。壁は緩やかに立ち上がり、底面はやや丸みを帯びる。他の遺構との重複関係は確認できない。遺物は、須恵器有台坏・壺、黒色土器無台坏ほかが出土した。固化できない破片も多数出土しており、堀端遺跡では、S T58に次いで遺物がまとまって出土した遺構である。

（5）土坑

B・C・D区で検出された。D区東側に集中がみられる。おもな土坑について記す。

S K9 (第10図)

検出位置は、B区東側55-32Gである。平面形態は円形である。規模は径1.1m、深さ0.1mを測る。壁は緩やかに立ち上がり、底面は平坦である。覆土は、1層で人為堆積とみられる。

S K73 (第11図)

検出位置は、D区東側66-67-32Gである。南・西側は調査区壁に接し、全体構造は不明である。深さ0.3mを測る。壁は緩やかに立ち上がり、底面は平坦である。覆土は、1層で人為堆積とみられる。

S K74 (第11図)

検出位置は、D区東側66-67-32Gである。西側は調査区壁に接し、全体構造は不明である。深さ0.2mを測る。壁は緩やかに立ち上がり、底面は平坦である。覆土は、1層で人為堆積とみられる。北側に隣接するSK76も類似する。

S K75 (第11図)

検出位置は、D区東側66-67-32Gである。平面形態は円形である。径0.7m、深さ0.2mを測る。壁は緩やかに立ち上がり、底面は平坦である。覆土は、SK74に類似する。

S K77 (第11図)

検出位置は、D区東側67-31・32Gである。東側は調査区壁に接し、全体構造は不明である。深さ0.2mを測る。壁は緩やかに立ち上がり、底面は平坦である。覆土は、SK74に類似する。

SK85(第11図)

検出位置は、D区北側58・59・44・45Gである。南側は調査区南壁に接する。平面形態は梢円形である。検出された規模は東西2.65m、深さ0.1mを測る。壁は緩やかに立ち上がり、底面は平坦で、中央部分に凹みがある。覆土は、1層で人為堆積とみられる。

SK93(第12図)

検出位置は、C区東側66-31Gである。ST58・SP200と重複する。平面形態は梢円形で中央部が膨らむ。規模は長軸1m、短軸0.7m、深さ0.2mを測る。壁は緩やかに立ち上がり、底面は平坦である。覆土は、黒褐色シルトでST58覆土1・2層、焼土が粒状に混入する。重複関係は、SK93→ST58→SP89である。

SK95(第10図)

検出位置は、C区西側60-32Gである。平面形態は梢円形である。規模は長径2.0m短径1.6m、深さ0.46mを測る。壁は急激に立ち上がり、底面は平坦である。西側に緩やかな段が付設する。覆土は、3層で人為堆積とみられる。

SK99(第12図)

検出位置は、C区東側66-31Gである。北側は調査区壁に接し、西側はST58・SP89と重複する。全体構造は不明である。深さ0.2mを測る。壁は緩やかに立ち上がり、底面は平坦である。覆土は、黒褐色シルトでST58覆土1層が粒状に混入する。重複関係は、SK99→ST58→SP89である。

2 出土した遺物

遺物は、奈良時代・平安時代・江戸時代の遺物が出土した。出土箱数は、整理箱8箱である。遺物には、土器・木製品・石製品・磁器がある。各遺物についての詳細は観察表に譲り、まとまりのみられるST58出土遺物(第55~60図)について記す。

須恵器無台坏・有台坏・稜輪・蓋・甕・壺・土師器無台坏・双耳付坏・甕・黑色土器無台坏・鉢等、多様な器種が出土した。

須恵器無台坏は、底部切り離しが、回転ヘラ切りである。寸法は、口径13.5cm~15.5cm、器高3.5~5.5cmを測る。18-1・4・5は、口径が15cm前後で、底径が8cm前後の箱形を呈し、底部が厚い特徴である。18-6・9は、全体に薄い作りで体部が外傾する。18-1・4・5に比べ、18-6・9はロクロナデが細かく、底部のヘラ切り痕が明瞭に残る。両者の胎土は緻密で、焼成状態も良い。これらの須恵器に共通する土師器無台坏は、小形で厚い作りの(19-6・7)、口径が15cm超えるもの(19-8)がある。また、これらとともに黒色土器も一定量含まれる。

土師器甕は、器高20cm未満の小形と30cmを超える大形がある。甕の調整は、外面タテナデ、口縁部および内面ヨコナデが施され、底部に木葉痕が残る。

9世紀初頭 SK58出土の遺物は、須恵器無台坏の形状から、9世紀初頭と考えられる。

19-21は、内外面黒色処理された黒色土器鉢である。内外面丁寧なミガキが施される。

須恵器の貯蔵具は、遺跡全体からの出土数が少ない。

A区23-28Gから木製品25-15が出土した。丁寧に加工され、端部に括れを持つ。墨の付着が認められることから木簡の可能性が高い。

木 簡

IV 埴ノ上遺跡

1 検出された遺構

検出された遺構は、掘立柱建物・竪穴建物・区画施設・溝・戻・土坑・柱穴・河川などである。

(1) 竪穴建物

I区で3棟検出された。

S T773 (第33図)

検出位置は、I区北側34-35Gである。平面形態は隅丸方形を呈する。検出された平面規模は、長軸4.4m、短軸3.3mを測る。北西と南東で擾乱を受ける。黒色粘土質シルトの広がりで平面プランを検出したが、床面の確認はできなかった。南辺西寄りに、焼土・炭化物粒の堆積が認められることから、この位置にカマドの付設が想定される。建物長軸は真北を指す。遺物は、土師器小破片が出土した。

S T774 (第34・35図)

検出位置は、I区北側35-35Gである。平面形態は隅丸方形を呈する。検出された平面規模は、長軸4.4m、短軸3.3mを測る。南西で擾乱を受ける。覆土は、黒色粘土質シルトを基調とし、黄褐色粘土質シルト等の斑な混入があり、人為的な堆積とみられる。壁面はやや急に立ち上がり、深さ15cm前後遺存する。床面は平坦で、北側に貼り床が確認できる。貼り床の範囲を中心に、黒褐色の汚れが北側に広がりアンペラの可能性がある。カマドは南辺西寄りに検出された。両袖は遺存するが、煙道部は擾乱を受ける。袖部は粘土が張り付けられ、右袖には礫が埋め込まれている。両袖およびその周辺に炭化物の分布、カマド前面に焼土の堆積が認められる。建物長軸は真北を指す。遺物は、カマド周辺に密集する。両袖中央に被熱痕跡のある土師器長脛甕3個体が出土した。S T774の出土遺物は床面直上の出土状況を示し、良好な一括資料といえる。

ア ニ ベ ラ

一 描 資 料

S T749 (第36図)

検出位置は、I区北側34-35-32-33Gである。平面形態は隅丸方形を呈する。検出された平面規模は、長軸4.4m、短軸4.1mを測る。北西と中央東寄りに擾乱を受ける。黒褐色粘土質シルトの広がりで平面プランを検出したが、硬化した床面の確認はできなかった。東・西・北面には壁とみられる緩やかな立ち上がりがある。SK806-808・824・826・859と重複し、土坑がS T749より新しい。カマドの位置は不明である。建物長軸は西に20度傾く。SK806-808から多数の遺物が出土するが、S T749覆土と限定できるものは須恵器・土師器小破片のみの出土である。

(2) 堀立柱建物

E区3棟、F区1棟、G区1棟、I区1棟が検出された。H区では柱穴群を検出したが、堀立柱建物を確認することができなかつた。

S B304 (第27図)

検出位置は、E区36・37-27Gである。重複しない柱穴12基を検出したが、平面構造1間×2間のS B304とS B309の2棟の建物と判断した。平面規模は一辺2.9mを測る。柱間寸法は東西2.5m、南北1.25mである。建物は、8度西に傾く。柱穴の平面形態は、楕円形を基調とし、不整形もある。検出面からの深さは、25cm前後を測る。覆土は2層からなる。E P305は柱痕跡が明瞭に残り、柱材は径8cm前後と推定される。E P308・801では抜き取り痕跡状の掘り込みが認められる。柱穴の壁面は急激に立ち上がり、底面は平坦である。他の遺構との重複関係は認められない。

S B309 (第27図)

検出位置は、E区36・37-27Gである。平面規模は一辺2.9mを測る。柱間寸法は東西2.5m、南北1.25mである。建物は、10度西に傾く。柱穴の平面形態は、楕円形を基調とし、不整形もある。検出面からの深さは、20cm前後を測る。覆土は2層からなる。柱痕跡は不明瞭である。柱穴の壁面は急激に立ち上がり、底面は平坦である。S B304との重複関係は不明である。建物位置がほとんど変わらないことから、時期差のない立て替えとみられる。S B309は、柱穴の規模がS B304より小さくなる。

S B848 (第28図)

検出位置は、E区25・26-25・26Gである。柱穴8基を調査し、調査区外の北隅についてはプランの検出のみ行った。建物全体の構造は不明であり、北西に伸びる可能性が残る。検出された部分から想定される平面構造は、2間×3間以上である。検出された平面規模は、南東辺4.2m、南北辺4.5m以上を測る。柱間寸法は1.8mである。建物は、15度西に傾く。柱穴の平面形態は、楕円形を基調とし、不整形がある。検出面からの深さは、25~45cm前後を測る。S P397・402・403・696では、柱痕跡が確認された。柱材は径15cm前後と推定される。柱穴の壁面は急激に立ち上がり、底面には円形の凹部を有するものがある。S D398がS B848柱穴間に建物軸と平行に位置する。S P404・417と接するが重複関係は不明で同時期の可能性がある。

S B860 (第31図)

検出位置は、G区31・32-28・29Gである。平面構造3間×1間を想定したが、北面2基は未検出であり、検討の余地を残す。南側に区画施設が隣接し、軸線が一致することから、関連する建物の可能性がある。柱間寸法は東西0.7m、南北1.05mである。建物は、20度西に傾く。柱穴の平面形態は、円形を基調とし、楕円形もある。検出面からの深さは、10cm前後を測る。柱穴の壁面は急激に立ち上がり、底面は平坦である。他の遺構との重複関係は認められない。

S B861 (第31図)

検出位置は、I区33・34-33Gである。平面構造は2間×2間である。平面規模は東西3m、南北1.4mを測る。柱間寸法は東西1.5m、南北1.25mである。建物は、25度西に傾く。柱穴の平面形態は、円形を基調とし、楕円形もある。検出面からの深さは、10cm前後を測る。柱穴の壁面は急激に立ち上がり、底面は平坦である。他の遺構との重複関係は認められない。

S B846 (第29図)

検出位置は、F区23・24・24・25Gである。平面構造は2間×2間の総柱である。南側に伸びる可能性が残る。S P559・560・562は近現代の溝に擾乱を受ける。平面規模は南北3.8m、東西3.5mを測る。柱間寸法は1.5mである。建物は、21度西に傾く。柱穴の平面形態は、楕円形を基調とし、不整形もある。検出面からの深さは、30cm前後を測る。柱痕跡は不明瞭で、抜き取り痕とみられる掘り込みがある。柱穴の壁面は急激に立ち上がり、底面はU字形を呈する。

S B847 (第29図)

検出位置は、F区23・24・25・26Gである。平面構造は2間×2間の総柱である。平面規模は南北4.2m、東西3.8mを測る。柱間寸法は1.5mである。建物は、21度西に傾く。柱穴の平面形態は、楕円形を基調とし、不整形もある。検出面からの深さは、30cm前後を測る。柱痕跡は不明瞭で、抜き取り痕とみられる掘り込みがある。柱穴の壁面は急激に立ち上がり、底面はU字形を呈する。

S B846とS B847は建物軸、柱間寸法、柱穴平面形態・掘り方・覆土・抜き取り痕等に類似しており、同時期に並立していたものとみられる。また、S P605・616・687・688を構造材として、S B846とS B847が連結していた双倉の可能性も考えられる。S P606・607は連結部への出入り口支柱の位置にあたる。しかし、S B846とS B847周辺にみられる小柱は、建物建立時の足場構造材の柱穴（麻柱）との見方もあり（第29図、宮本長二郎氏のご教示による）、なお検討の余地を残す。

倉柱

(3) 区画施設 (第41~43図)

E区西側からG区にかけて検出された。25~26G部分で調査区北壁に接し、30~34G部分で擾乱を受けており全体構造は不明である。現在宅地の調査区北側に伸びるとみられる。平面形態は、方形を基調とし、南東角で鍵なりに屈曲する。屈曲部は削平を受けているが、小柱穴の連続でプランを確認した。南面では2条平行し、東面では緩やかに蛇行する。南面の2条は、28~24G、28~25Gで各々途切れしており、出入り口の機能が想定される。また、S D407東端とS D408西端にやや大型の柱穴が付設しており、門等の出入り口に関連する施設とみられる。27~25GのS D412とS D410の重複部分では、S D412→S D410が確認できる。これは、單に構築順を示すことも考えられるが、S D412からS D407に区画施設の拡張を行った可能性がある。S D412の北側に位置し、S D409に連結するS D411とS D412の重複関係は不明であり、S D411の機能については検討が必要である。検出された長さは、西面13.7m、南面24.5m、東面南半10.5m、東側屈曲南面9.0m、東面北半25.6mを測る。西面軸線は、25度西に傾く。東面では、溝状の掘り込みに、円形～不整形の掘り込みが行われたと観察でき、柱穴状のプランが連続している部分は溝が削平を受けたと理解できる。一方、南面・西面では溝幅が東面に比べ広く、溝への掘り込みは不明瞭である。連続した掘り込みまたは抜き取り痕が考えられる。東面と南面の違いは、南正面を強く意識して構築された現れとみられる。溝状構造にみられる掘り込みは、堀縁遺跡C区の区画施設S D80と類似する。他の遺構との重複関係は確認できない。

張

南正面

(4) 破 (第38図)

I区で検出された溝状遺構群が検出された。検出位置は、33~36~28~34Gである。幅0.1~0.3m、深さ0.2m前後を測る。長軸は、20度西に傾く。覆土は黒色粘土質シルトを基調とし、

褐色砂質シルトが混入する。U字状に掘り込み、連続する点から歓と判断した。歓は、削平を受けているI区中央部および縁辺部に伸びることが考えられる。

(5) 土 坑

E・I区で検出された。おもな土坑について記す。

S K 301・399 (第40図)

検出位置は、E区東側39-24Gである。S K 399→S K 301の重複関係がある。平面形態は楕円形である。規模はS K 301長軸1.65m、短軸0.90m、深さ0.05m、S K 399長軸1.25m、短軸1.20m、深さ0.10mを測る。壁は緩やかに立ち上がり、底面は平坦である。プラン検出時点では、1基と判断したが、2枚の炭化物層から、2基の土坑と判断した。焼土は検出されず、機能は不明である。

S K 314・376 (第40図)

検出位置は、E区西側28-29-24Gである。区画施設出入り口南東に位置する。S K 314→S K 376の重複関係がある。平面形態は楕円形である。規模はS K 314長軸2.00m、短軸1.25m、深さ0.10m、S K 399長軸1.50m、短軸1.25m、深さ0.05mを測る。壁は緩やかに立ち上がり、底面は平坦である。床面の一部に、炭化物の堆積がある。被熱面は確認できないが、S K 376覆土に焼土粒が混入する。機能は不明である。

S K 413 (第39図)

検出位置は、E区西側27-28-26Gである。平面形態は楕円形で、西側が膨らむ。規模は長軸1.6m、短軸1.2m、深さ0.6mを測る。壁は凹凸で、底面はU字状になる。覆土は人為堆積とみられる。

S K 697 (第39図)

検出位置は、E区西側29-30-26Gである。平面形態は楕円形で、西側が膨らむ。規模は長軸1.5m、短軸1.4m、深さ0.5mを測る。壁は凹凸で、底面は平坦である。覆土は人為堆積とみられる。

S K 413とS K 697は掘り方、規模に類似性が認められる。両土坑の最深部を結ぶ軸線は、区画施設 S D409と平行である。両土坑を柱穴とする建物の可能性もあるが、北側は調査区外で不明である。両土坑の最深部間は5mを測る。

S K 302 (第39図)

検出位置は、E区中央36-26Gである。平面形態は楕円形で、規模は長軸0.95m、短軸0.85m、深さ0.2mを測る。壁は緩やかに立ち上がり、底面は平坦である。覆土は、1層で人為堆積とみられる。

(6) 落ち込み (第45図)

区画施設前面にS X 303が検出された。検出位置は、E区東側29-33-23-24Gである。南側は調査区壁に接し、全体構造は不明である。平面形態は不整形で、深さ0.2mを測る。壁は緩やかに立ち上がり、底面は平坦である。覆土は、自然堆積とみられる。S X 303は堅穴建物以外に遺物がまとまって出土した地点である。遺物は、須恵器の供膳具が多く、底部に漆が付着したものや、捏ね鉢等特殊な遺物が多い。区画施設前面に位置することや、遺物の内容から、遺物の廃棄行為の廃棄行為が意図的に行われた空間と考えられる。

(7) 溝（第46図）

E区東側で、S D841が検出された。検出位置は、43-23~26Gである。幅1.0m、深さ0.1mを測る。壁は緩やかに立ち上がり、底面は平坦である。覆土は、黒褐色砂質シルト1層で、奈良・平安時代の包含層を含む（第6図）。長軸は真北を指す。

(8) 河 川（第46図）

E区東側で、S G850が検出された。検出位置は、44-45-24~28Gである。幅17.0m、深さ0.9m以上を測る。壁は緩やかに立ち上がり、底面は東側が深くなる。覆土は、灰オリーブ色砂質シルトを基調とし、炭化粒や自然木を含む（第6図）。奈良・平安時代の基盤層の下面で検出されたことから、奈良・平安時代以前の河川と判断した。

2 出土した遺物

遺物は、縄文時代・奈良時代・平安時代の遺物が出土した。出土箱数は、整理箱22箱である。遺物には、土器・石器・木製品・石製品がある。各遺物についての詳細は観察表に譲り、まとまりのみられる資料について記す。

(1) S T774出土遺物（第35・47~49図）

須恵器無台坏、土師器無台坏・甕、黒色土器鉢、砥石、円碟が出土した。

須恵器無台坏は、回転ヘラ切り（47-1~4）と回転糸切り（47-5）の底部切り離しがある。回転ヘラ切りの寸法は、口径14cm前後と16cmを超えるものに分かれ。底部の切り離し、体部ロクロナデは丁寧に施され、全体に厚い作りの印象である。47-5は、底部破片のため寸法は不明である。これらの須恵器に土師器無台坏（47-6・7）が共伴する。土師器無台坏の寸法は、口径14cm前後の須恵器無台坏に類似する。47-6・7は、体部がやや内傾し、外面体部にケズリ、口縁部外間にナデが施される。47-6はミガキが施され、口縁端部を方形につくり出す。

土師器甕は、器高15cm未満の小形と30cmを超える大形がある。甕の調整は、外面タテナデ、口縁部および内面ヨコナデが施され、底部に本葉痕が残る。

48-2は、外面黒色処理された黒色土器甕である。外面丁寧なミガキが施される。

S T774出土の遺物は、須恵器無台坏の形状から、9世紀初頭と考えられる。

9世紀初頭

(2) S K806出土遺物（第36・50・51図）

須恵器無台坏（50-4・8）、土師器無台坏（50-9）、土師器甕（50-6・7）が出土した。

須恵器無台坏は、底部切り離しが回転糸切りで、口径15.5cmを測り、全体に歪みがみられる。この須恵器に共伴する土師器無台坏は、体部が内湾し薄く、器高が5cmを超える。S K806出土の遺物は、須恵器無台坏の形状から、S T774に後続し9世紀前半と考えられる。

9世紀前半

(3) S X303出土遺物（第55~60図）

須恵器無台坏・有台坏・双耳付坏・蓋・甕・壺・程ね鉢、土師器無台坏・甕・高坏・筒形土器、黒色土器無台坏・高坏等、多様な器種が出土した。

須恵器無台坏は、回転ヘラ切りと回転糸切りの底部切り離しがある。S T774出土遺物、S K806出土遺物と寸法が類似するものが含まれる。また、須恵器無台坏・有台坏には、底部に墨書きが施されるもの、墨が付着するもの、漆が付着するものが多数ある。

須恵器の貯蔵具は、遺跡全体からの出土数が少ない。

V 自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

1 堀端遺跡の自然科学分析

(1) はじめに

堀端遺跡は山形県長井市中道に所在し、野川右岸の河岸段丘上、標高205-207mに立地する。本遺跡の西側には奈良・平安時代以前の旧河川が確認されており、奈良・平安時代は低湿地が広がっていたと考えられている。この旧河川の西側に塗上遺跡が隣接しており、両遺跡は旧河川を挟んだ東西の小高い場所に位置する。調査の結果、9世紀前半を中心とする集落跡であり、本遺跡からは堅穴建物、掘立柱建物、溝、柱穴などが検出されている。

本報告では、堅穴建物の覆土、およびその上下層準を対象として、集落が機能していた頃の古植生に関する情報を得ることを目的として、花粉分析を実施する。

(2) 試 料

S T 5 8 試料は、堅穴建物とされるST58を中心として、下位の地山、ST58の貼床および覆土、上位の耕作土およびその基盤層から採取されている。分析を行った試料は、ST58の貼床（試料番号1）、覆土（試料番号2,3）、ST58を覆う耕作土基盤層（試料番号4）、その上位の耕作土（試料番号5）、ST58貼床直下の地山（試料番号6）、およびこれらの試料採取地点より約3m離れた地点の地山（試料番号7）の、計7点である。

(3) 分析方法

試料約10gについて、水酸化カリウムによる泥化、篩別、重液（臭化亜鉛：比重2.3）による有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物質の除去、アセトリシス（無水酢酸9：濃硫酸1の混合液）処理による植物遺体中のセルロースの分解を行い、物理・化学的処理を施して花粉を濃集する。残液をグリセリンで封入してプレパラートを作成し、400倍の光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査し、出現する全ての種類について同定・計数する。

結果は同定・計数結果の一覧表、および主要花粉化石群集の層位分布図として表示する。図中の木本花粉は木本花粉総数を、草本花粉・シダ類胞子は総数から不明花粉を除いた数をそれぞれ基準として、百分率で出現率を算出し図示する。

(4) 結 果

結果を表1、図1に示す。図表中で複数の種類をハイフンで結んだものは、種類間の区別が困難なものを示す。なお、木本花粉総数が100個体未満のものは、統計的に扱うと結果が歪曲する恐れがあるので、出現した種類を+で表示するにとどめておく。

地山の試料では、試料番号7から花粉化石が豊富に産出する。木本花粉ではマツ属が多産し、スギ属、ハンノキ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属などを伴う。草本花粉ではイネ科が多く産出し、アカザ科ヒユ科、ヨモギ属などを伴う。また、栽培種であるソバ属の花粉もわずかながら認められる。試料番号6では花粉化石の産出が少なく、木本花粉ではマツ属、スギ属

表1 花粉分析結果

種類	試料番号	耕作土		ST58			地山	
		耕作土 5	耕作土 基盤層 4	覆土 3	2	貼床 1	6	7
木本花粉								
ツガ属		3	-	-	-	-	-	1
トウヒ属		1	-	-	-	-	-	1
マツ属単球管束亞属		1	1	-	-	-	-	1
マツ属複球管束亞属	42	33	1	-	-	-	2	63
マツ属(不明)		3	38	1	-	-	5	87
スギ属		-	10	-	-	1	3	25
ヤナギ属		1	-	-	-	-	-	-
サワグルミ属		1	-	-	-	-	-	-
クルミ属		-	2	-	-	-	-	4
クマシデ属-アサガ属		-	1	-	2	-	1	2
カバノキ属		-	2	-	-	-	-	2
ハンノキ属	18	2	-	1	-	-	2	8
ブナ属		6	2	-	-	-	1	11
コナラ属コナラ亞属		11	2	-	1	3	2	10
クリ属		12	-	-	-	1	-	5
ニレ属-ケヤキ属		1	7	-	-	4	1	4
グミ属		2	2	-	-	-	-	-
ウコギ科		1	-	-	-	-	-	-
トネリコ属		1	-	-	-	-	1	-
草本花粉								
ガマ属		1	-	-	-	-	-	-
イネ科	89	94	11	14	15	23	132	
カヤツリグサ科	124	24	-	1	-	1	11	
サンエイタデ節-ウナギツカミ節		6	4	1	-	-	-	1
ソバ属		16	4	-	-	-	4	1
アカザ科-ヒユ科		5	18	-	-	-	2	26
ナデシコ科		10	-	-	-	-	2	7
カラマツウ属		1	-	-	-	-	-	-
アブランナ科		10	2	-	-	-	-	1
キカシグサ属		2	-	-	-	-	-	-
アリノトウゲサ属		1	-	-	-	-	-	-
セリ科		2	-	1	-	-	-	1
シソ科		1	-	-	-	-	-	-
ヤエムグラ属-アカネ属		1	-	-	-	-	-	-
ヨモギ属		26	68	4	10	39	7	36
オナモミ属		-	-	-	-	-	-	1
キク亜科		3	5	-	1	1	2	5
タンポポ亜科		4	-	-	-	-	-	1
不明花粉		12	15	-	1	2	2	8
シダ類胞子								
ヒカゲノカズラ属		-	1	-	-	-	-	-
他のシダ類胞子		779	361	31	72	40	40	327
合計								
木本花粉		104	102	2	4	9	18	224
草本花粉		302	219	17	26	55	41	223
不明花粉		12	15	0	1	2	2	8
シダ類胞子		779	362	31	72	40	40	327
総計(不明を除く)		1185	683	50	102	104	99	774

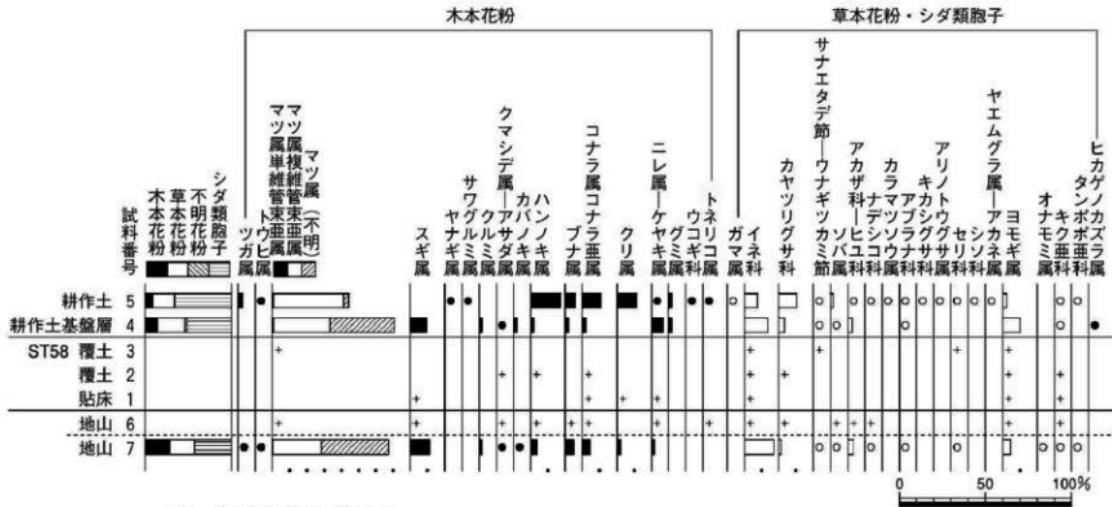


図1. 花粉化石群集の層位分布

出現率は、木本花粉は木本花粉化石総数、草本花粉・シダ類胞子は総数より不明花粉を除く数を基数として百分率で算出した。なお、●○は1%未満、十は木本花粉100個体未満の試料について検出した種類を示す。

などが、草本花粉ではイネ科、ヨモギ属などが検出される。

S T 58の貼床および覆土である試料番号1-3では、花粉化石はほとんど検出されず、木本花粉ではマツ属、クマシデ属-アサダ属、コナラ属、ニレ属-ケヤキ属などが、草本花粉ではイネ科、ヨモギ属などがわずかに産出するのみである。

S T 58覆土を覆う耕作土基盤層の試料番号4、および最上位の耕作土とされる試料番号5では、花粉が産出するものの豊富とはいはず、かろうじて定量解析ができる程度である。試料番号4についてみると、木本花粉ではマツ属が多く産出し、スギ属、ニレ属-ケヤキ属などを伴う。草本花粉ではイネ科、ヨモギ属が多く産出し、カヤツリグサ科、アカザ科-ヒユ科などを伴う。最上位の試料番号5をみると、木本花粉ではマツ属が多く産出し、ハンノキ属、コナラ属、クリ属、ブナ属などを伴う。草本花粉ではイネ科、カヤツリグサ科が多く、ソバ属、ヨモギ属などを伴う。

S T 58 の
花粉化石は微量

(5) 考 察

地山とされる試料番号7をみると、マツ属（複雑管束亞属を含む）が多産する。マツ属複雑管束亞属（いわゆるニヨウマツ類）は生育の適応範囲が広く、尾根筋や湿地周辺など他の広葉樹の生育に不適な立地にも生育が可能である。また、極端な陽樹であり、やせた裸地などでもよく発芽し生育することから、伐採された土地などに最初に進入する二次林の代表的な種類でもある。マツ属の急増は日本各地で知られており、その原因は自然干渉の結果としての二次林や植林が増加したためとされている。しかし、既存の研究結果によると、東北地方におけるマツ属の増加時期は約400年前後とされている（たとえば波田、1987など）。これは、本遺跡の年代観が8世紀後半から9世紀中頃とされていることと矛盾する。ここで、試料番号7採取層準は、試料番号4採取層準である耕作土基盤層に直接覆われており、花粉群集組成をみても両試料は近似する。これらのことを考慮すると、地山とされる試料番号7採取層準は、後代の耕作に伴う擾乱の影響を受けていると考えられ、当時の植生を反映していないことが推測される。

他の1点の地山とされる試料番号6、その直上のS T 58貼床（試料番号1）、およびS T 58覆土（試料番号2,3）からは、花粉化石がほとんど検出されなかった。花粉化石-シダ類胞子の産出状況が悪い場合、元々取り込まれる花粉量が少なかった、あるいは、取り込まれた花粉が消失した、という2つの可能性があげられる。少なくとも貼床などは人為的な影響が強いことから、花粉などが層内に取り込まれにくかった可能性がある。また、一般的に花粉やシダ類胞子の堆積した場所が、常に酸化状態にあるような場合、花粉は酸化や土壤微生物によって分解・消失するとされている（中村、1967；慈永・山内、1971）。遺構覆土などは、好気的環境下で堆積したことが考えられることから、堆積時に取り込まれた花粉、シダ類胞子も、その後の経年変化により分解・消失したと考えられる。

耕作土基盤層（試料番号4）では複雑管束亞属を含むマツ属が多産し、スギ属、ニレ属-ケヤキ属などを伴う。最上位の耕作土（試料番号5）では、同じくマツ属複雑管束亞属が多産するものの、ハンノキ属、ブナ属、コナラ属コナラ属、クリ属なども比較的多く認められる。マツ属は先に述べたように二次林としての特色が強い種類であることから、周辺低地や丘陵縁辺などに二次林や植林として生育していたと推測される。また、ハンノキ属はヤナギ属、サワゲ

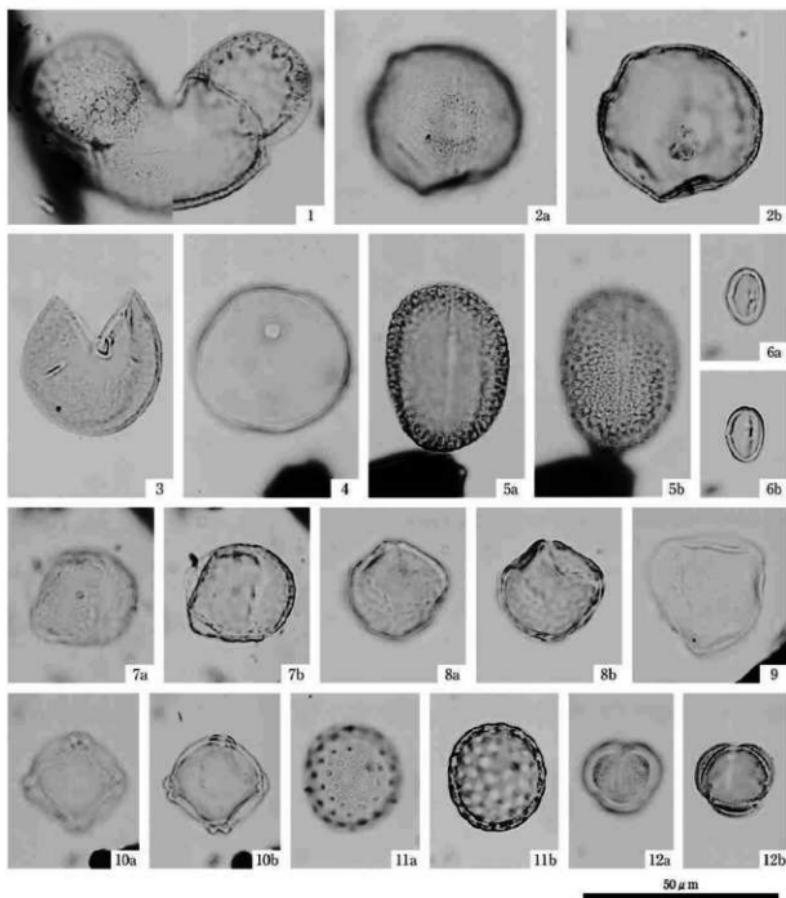
ルミ属、ニレ属-ケヤキ属などとともに河畔や低湿地に林分を作る種を含む分類群であり、ブナ属は冷温帶性落葉広葉樹林の主要構成要素である。本地域周辺の潜在自然植生をみると、河畔や低地ではハンノキ-ヤチダモ群集、エゾイタヤ-ケヤキ群集、後背山地ではチシマザサ-ブナ群団とされている（宮脇編著、1987）。よって、概ね近世以降の遺跡周辺の低地や野川などの河畔にはハンノキ属などが生育し、後背山地ではブナ属を中心とした冷温帶性落葉広葉樹林が成立し、部分的にスギ属、ツガ属などの針葉樹も生育していたと推測される。また、クリ属はブナ帯下部での代償植生でもあることから、コナラアヤ属などとともに後背山地の標高の低い場所や丘陵部などに林分を形成していた可能性がある。また、遺構が機能していた古代頃の植生も、マツ属をのぞけば概ね類似した植生が成立していた可能性がある。

草本類についてみると、イネ科、カヤツリグサ科、ヨモギ属などが多く認められる。ヨモギ属は、サナエタデ節-ウナギツカミ節、アザ科-ヒユ科、アブラン科、キク亜科などとともに比較的開けた明るい場所を好む種を含む分類群であることから、周間にこれらが生育する草地が存在したと考えられる。また、イネ科、カヤツリグサ科、ガマ属などは周囲の湿地部などに生育していたものに由来すると推測される。なお、栽培種であるソバ属の花粉も認められることから、周辺域でのソバ栽培の可能性も指摘される。

引用文献

- 波田 善夫、1987、松くい虫被害対策として実施される特別防除が自然生態系に与える影響評価に関する研究
－松くい虫等被害に伴うマツ林生態系の擾乱とその動態について－、資料集、日本自然保護協会、41-49。
宮脇 昭（編著）、1987、日本植生誌 東北・至文堂、605p.
中村 純、1967、花粉分析、古今書院、232p.
德永 重元・山内 審子、1971、花粉・孢子・化石の研究法、共立出版株式会社、50-73.

図版1 花粉化石



1. マツ属（地山；7）
 2. ブナ属（地山；7）
 3. スギ属（地山；7）
 4. イネ科（地山；7）
 5. ツバ属（地山；7）
 6. クリ属（地山；7）
 7. コナラ属コナラ亜属（耕作土；5）
 8. ニレ属-ケヤキ属（地山；7）
 9. カヤツリグサ科（地山；7）
 10. ハンノキ属（耕作土；5）
 11. アカザ科（地山；7）
 12. ヨモギ属（地山；7）

2 埼ノ上遺跡の自然科学分析

(1) はじめに

埼ノ上遺跡は山形県長井市中道に所在し、野川右岸の河岸段丘上、標高205-207mに立地する。本遺跡の東側には奈良・平安時代以前の旧河川が確認されており、奈良・平安時代は低湿地が広がっていたと考えられている。この旧河川の東側に堀端遺跡が隣接しており、両遺跡は旧河川を挟んだ東西の小高い場所に位置する。調査の結果、9世紀前半を中心とする集落跡であり、本遺跡からは堅穴建物、掘立柱建物、堀の跡と考えられる溝に囲まれた施設、柱穴、土坑、河川跡などが検出されている。

本報告では、S X 303断面より採取された土壌を対象とし、集落が機能していた頃の古植生に関する情報を得ることを目的として花粉分析を実施する。また、堅穴建物や土坑内に認められた炭化層・炭化物を対象とし、当時の植物利用状況に関する情報を得ることを目的として樹種同定を実施する。

(2) 古植生推定

A 試料

S X 303断面は上位より1-8層に分層されており、1-4層は盛土、5,6層はS X 303のⅡ層の一部とされている。試料採取地点では1-7層が堆積しており、7層以下が地山とされる。

花粉分析用いる試料は、地山の7層、遣構覆土の5層、盛土基盤土の4層の計3点である。

B 分析方法

試料約10gについて、水酸化カリウムによる泥化、篩別、重液（臭化亜鉛：比重2.3）による有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物質の除去、アセトリシス（無水酢酸9：濃硫酸1の混合液）処理による植物遺体中のセルロースの分解を行い、物理・化学的処理を施して花粉を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作成し、400倍の光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査し、出現する全ての種類について同定・計数する。

結果は同定・計数結果の一覧表、および主要花粉化石群集の層位分布図として表示する。図中の木本花粉は木本花粉総数を、草本花粉・シダ類胞子は胞子から不明花粉を除いた数をそれぞれ基数として、百分率で出現率を算出し図示する。

C 結果

結果を表1、図1に示す。図表中で複数の種類をハイフンで結んだものは、種類間の区別が困難なものを示す。なお、木本花粉総数が100個体未満のものは、統計的に扱うと結果が歪曲する恐れがあるので、出現した種類を+で表示するにとどめておく。

S X 303 の
花粉化石は微量

5層では花粉化石の産出状況が悪く、定量解析を行えるだけの個体数を得ることができなかつた。木本花粉ではマツ属、ハンノキ属、ブナ属などが、草本花粉ではヨモギ属、イネ科などが検出される。

残りの2試料からは花粉化石が産出するものの豊富とはいえず、かろうじて定量解析が行える程度である。7層では、シダ類胞子が多産し、ゼンマイ属が多く認められる。花粉化石群集を見ると、マツ属が多産し、ハンノキ属、ブナ属、ニレ属-ケヤキ属なども多く産出する。草本花粉の産出は少なく、イネ科、カヤツリグサ科、ヨモギ属などが認められる。

表1 花粉分析結果

種類	試料番号	S X 303		
		4層	5層	7層
木本花粉				
モミ属		2	—	—
トウヒ属		—	2	—
マツ属松属管束亚属		3	—	5
マツ属(不明)		29	3	45
スギ属		2	1	5
サワグルミ属		8	—	3
クルミ属		2	—	—
クマシデ属-アサガホ属		1	—	2
カバノキ属		1	—	—
ハンノキ属		16	8	15
ブナ属		16	5	16
コナラ属コナラ亜属		10	—	1
ニレ属-ケヤキ属		12	—	13
モチノキ属		2	—	1
ブドウ属		—	—	1
シナノキ属		—	—	1
ウコギ科		—	—	2
ツツジ科		—	—	1
草本花粉				
イネ科		69	8	11
カヤツリグサ科		6	—	10
クワ科		—	—	2
サンエタデ節-ウナギツカミ節		1	—	—
アカザ科		1	1	1
ナデシコ科		1	—	1
カラマツソウ属		—	—	1
キンポウゲ科		—	—	1
アブラナ科		1	—	1
バラ科		—	—	1
マメ科		1	—	—
ツリワネソウ属		1	—	—
オオバコ属		1	—	—
ヨモギ属		131	74	25
キク亜科		2	1	—
タンポポ亜科		2	—	—
不明花粉		10	—	7
シダ類胞子				
ヒカゲノカズラ属		—	1	1
ゼンマイ属		2	—	89
他のシダ類胞子		286	21	594
合計				
木本花粉		104	19	111
草本花粉		217	84	54
不明花粉		10	0	7
シダ類胞子		288	22	684
総計(不明を除く)		609	125	849

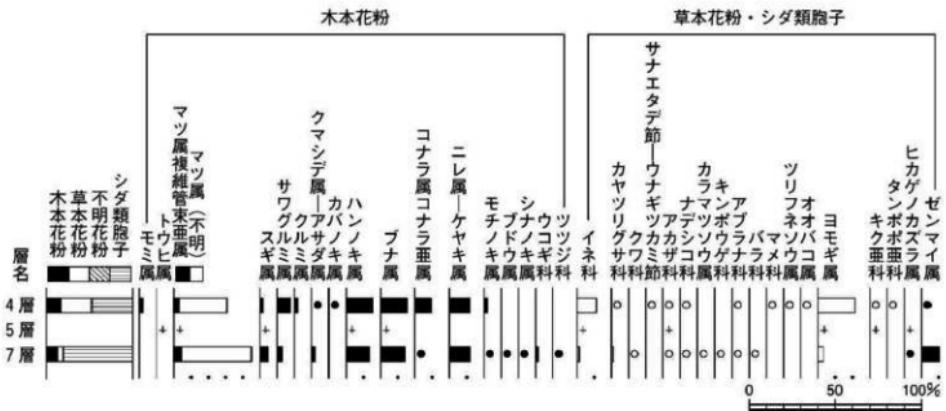


図1. 花粉化石群集の層位分布

出現率は、木本花粉は木本花粉化石総数、草本花粉・シダ類胞子は総数より不明花粉を除く数を基数として百分率で算出した。なお、●○は1%未満、十は木本花粉100個体未満の試料について検出した種類を示す。

4層では、草本花粉とシダ類胞子が多く産出する。草本花粉では、イネ科、ヨモギ属が多く産出し、カヤツリグサ科などを伴う。木本花粉では、マツ属がもっと多く産出し、ハンノキ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、ニレ属-ケヤキ属などを伴う。

D 考 察

地山とされる7層ではシダ類胞子が多産し、花粉化石群集では木本類の割合が多い。木本類ではマツ属が多産し、ハンノキ属、ブナ属、ニレ属-ケヤキ属などを伴う。多産するマツ属のうちアカシヤ属まで同定できたものは、全て複雑管束亞属であった。マツ属複雑管束亞属（いわゆるニヨウマツ類）は生育の適応範囲が広く、尾根筋や湿地周辺など他の広葉樹の生育に不適な立地にも生育が可能である。また、極端な陽樹であり、やせた裸地などでもよく発芽し生育することから、伐採された土地などに最初に進入する二次林の代表的な種類でもある。マツ属の急増は日本各地で知られており、その原因は人間による自然干渉の結果として二次林や植林が増加したためとされている。しかし、既存の研究結果によると、東北地方におけるマツ属の増加時期は約400年前後とされている（たとえば波田、1987など）。本遺跡の年代観を考慮すると、今回得られた結果は既存の研究結果とはやや矛盾する。また、他の試料と比較すると、盛土とされる4層の木本花粉群集と類似することから、7層では後代の擾乱の影響や上層からの落ち込みがある可能性が考えられる。よって、珪藻分析などにより堆積過程も検討することが望まれる。

5層からは花粉化石がほとんど検出されず、木本類ではマツ属、ブナ属、ハンノキ属などが、草本類ではイネ科、ヨモギ属などがわずかに認められる。花粉化石・シダ類胞子の産出状況が悪い場合、元々取り込まれる花粉量が少なかった、あるいは、取り込まれた花粉が消失した、という2つの可能性があげられる。一般的に花粉やシダ類胞子の堆積した場所が、常に酸化状態にあるような場合、花粉は酸化や土壤微生物によって分解・消失するとされている（中村、1967；篠永・山内、1971）。今回の場合、どちらの要因が強いかを判断することは困難である。やはり珪藻分析などを行い、どのような環境下で堆積したかを検討する必要がある。

盛土基盤上とされる4層では複雑管束亞属を含むマツ属が多く産出し、ハンノキ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、ニレ属-ケヤキ属、サワグルミ属などを伴う。マツ属は先に述べたように二次林としての特色が強い種類であることから、周辺低地や丘陵縁辺などに二次林や植林として生育していたと推測される。また、ハンノキ属、ニレ属-ケヤキ属は、サワグルミ属、クルミ属、クマシデ属-アサダ属などとともに河畔や低湿地に林分を作る種を含む分類群であり、ブナ属は冷温帯性落葉広葉樹林の主要構成要素である。よって、本層堆積時には、遺跡周辺の低地や野川などの河畔にハンノキ属、ニレ属-ケヤキ属、サワグルミ属などが生育し、後背山地ではブナ属を主体としコナラ属などを伴った冷温帯性落葉広葉樹林が成立し、部分的にモミ属、スギ属などの針葉樹も生育していたと推測される。本地域周辺の潜在自然植生をみると、河畔や低地ではハンノキ-ヤチダモ群集、エゾイタヤ-ケヤキ群集、後背山地ではチシマザサ-ブナ群集とされている（宮脇編著、1987）。今回の結果は、潜在自然植生とも調和的である。また、遺構が機能していた古代頃の植生も、マツ属をのぞけば概ね類似した植生が成立していた可能性がある。

草本類についてみると、イネ科、ヨモギ属が多産する。ヨモギ属は、キク亜科、タンボボ亜

科などとともに比較的開けた明るい場所を好む種を含む分類群であることから、周囲の草地に生育していたと考えられる。また、イネ科には比較的湿潤な場所を好む種も含まれることから、カヤツリグサ科などとともに周囲の湿地部などに生育していたと推測される。

(3) 木材利用状況

A 試料

試料は、堅穴建物、土坑などから出土した炭化材 9 点（試料番号 11-19）である。各試料の樹種同定結果と共に表 2 に記す。

B 分析方法

木口（横断面）・極目（放射断面）・板目（接線断面）の 3 断面の剖断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織を観察し、その特徴から種類を同定する。

C 結果

樹種同定結果を表 2 に示す。

表 2 樹種同定結果

す。試料番号 12 は道管が認められることから広葉樹材であるが、細片で保存状態が悪く、道管配列の形態などが観察できなかったため、種類の同定には至らなかった。また、試料番号

番号	遺構	地点・層位	試料名	樹種
11	S T773 E L	I 区		樹皮
12	S T774 E L	燒土	炭化物	広葉樹
13	S K301 E 3	炭下層		不明
14	S K301 E 8			オニグルミ
15	S K399	炭下層		トチノキ
16	S K314		炭化物 A	カエデ属
17	S K314		炭化物 A-2	カエデ属
18	S K314		炭化物 B	樹皮
19	S K376		炭化物 C	樹皮

11, 18, 19 は、樹皮のみで木材は認められなかった。試料番号 13 については、組織が全く観察できず、不明とした。その他の試料は、落葉広葉樹 3 種類（オニグルミ・カエデ属・トチノキ）に同定された。各種類の解剖学的特徴などを記す。

・オニグルミ (*Juglans mandshurica* Maxim. subsp. *sieboldiana* (Maxim.)

Kitamura) クルミ科クルミ属

散孔材で、道管径は比較的大径、単独または 2-4 個が放射方向に複合して散在し、年輪界付近でやや急に管径を減少させる。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、1-4 細胞幅、1-40 細胞高。

・カエデ属 (*Acer*) カエデ科

散孔材で、管壁は薄く、横断面では角張った楕円形、単独および 2-3 個が複合して散在し、晩材部へ向かって管径を漸減させる。道管は單穿孔を有し、壁孔は対列～交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、1-5 細胞幅、1-30 細胞高。細胞壁の厚さが異なる 2 種類の木繊維が木口面において不規則な紋様をなす。

・トチノキ (*Aesculus turbinata* Blume) トチノキ科トチノキ属

散孔材で、管壁は厚く、横断面では角張った楕円形、単独または 2-3 個が複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、内壁にはかかるらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、単列、1-15 細胞高。階層状配列は明瞭ではない。

D 考察

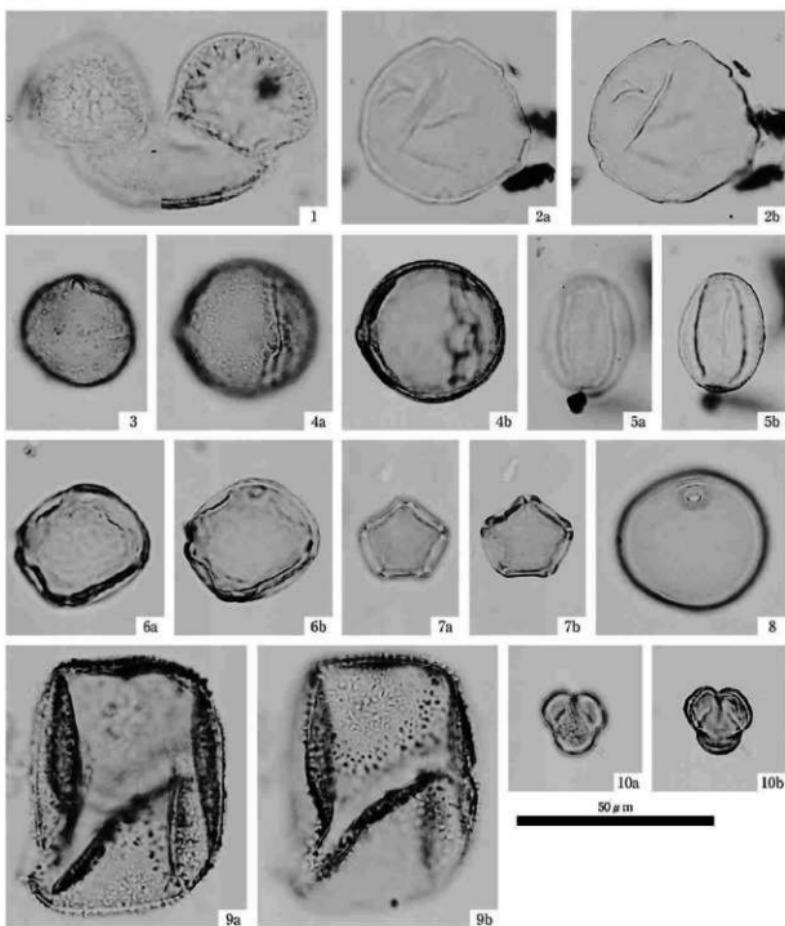
今回分析対象とした炭化材は、竪穴建物や土坑などから出土している。炭化していることから火を受けたことは明らかであり、燃料材などの一部が炭化・残存した可能性がある。種類不明や樹皮が多いが、広葉樹材3種類が認められ、これらの広葉樹材が利用されていたことが推定される。試料数が少ないため、遺構による種類構成の差異などについては不明であるが、SK314から出土した炭化材が2点ともカエデ属であることは、同一個体に由来することを反映した結果かもしれない。また、樹皮については、意図的に使用したものではなく、使用した木材が樹皮付きであり、樹皮だけが剥離して炭化・残存したことが推定される。

SK301、SK399から確認されたオニグルミやトチノキは、谷沿いなどの適湿地によく生育している種類であり、カエデ属の中にもそうした場所に生育する種類が含まれる。本遺跡で行った花粉分析結果からもクルミ属などが検出されていることから、これらの樹種は遺跡周辺の河畔や谷沿いなどに生育していたと考えられる。よって、周辺において容易に入手が可能であったこれらの木材を、燃料材などとして利用したことが推定される。

引用文献

- 波田 善夫, 1987, 松くい虫被害対策として実施される特別防除が自然生態系に与える影響評価に関する研究
－松くい虫等被害に伴うマツ林生態系の擾乱とその動態について－, 資料集, 日本自然保護協会, 41-49.
- 宮脇 昭 (編著), 1987, 日本植生誌 東北・至文堂, 605 p.
- 中村 純, 1967, 花粉分析, 古今書院, 232 p.
- 徳永 重元・山内 毅子, 1971, 花粉・孢子・化石の研究法, 共立出版株式会社, 50-73.

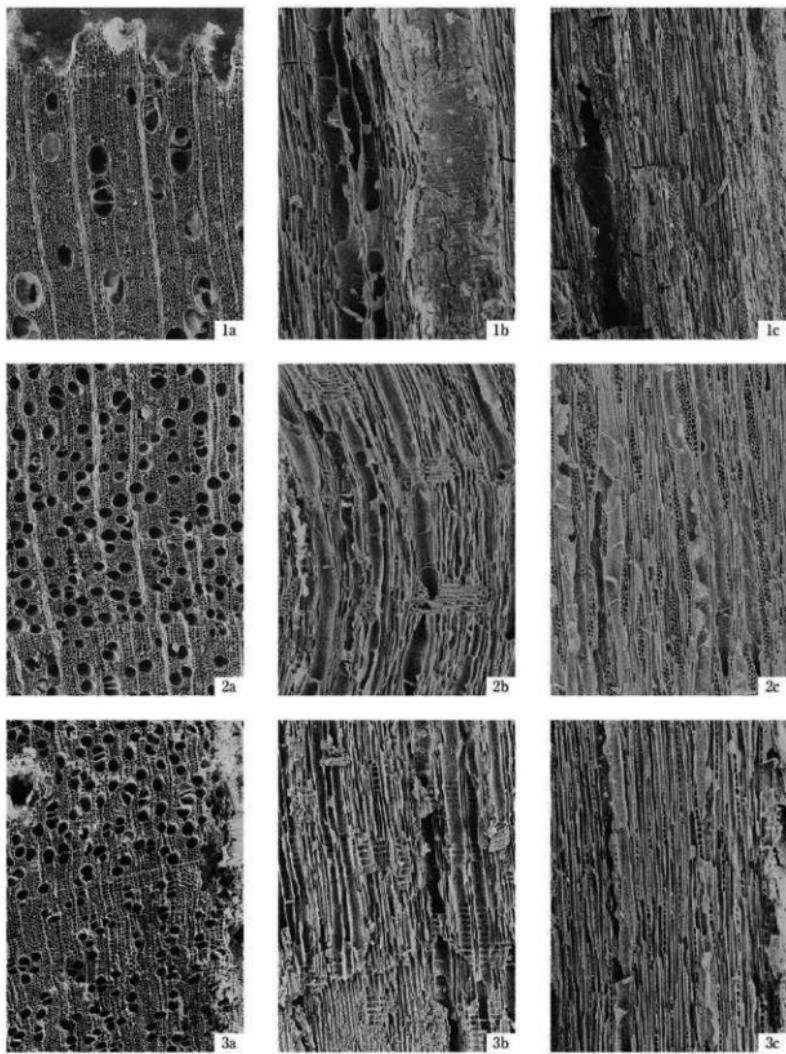
図版1 花粉化石



1. マツ属 (SX303; 4層)
2. サワグルミ属 (SX303; 4層)
3. スギ属 (SX303; 7層)
4. ブナ属 (SX303; 7層)
5. コナラ属-コナラモチ属 (SX303; 4層)
6. ニレ属-ケヤキ属 (SX303; 7層)
7. ハンノキ属 (SX303; 7層)
8. イネ科 (SX303; 7層)
9. ゼンマイ属 (SX303; 7層)
10. ヨモギ属 (SX303; 7層)

2. サワグルミ属 (SX303; 4層)
4. ブナ属 (SX303; 7層)
6. ニレ属-ケヤキ属 (SX303; 7層)
8. イネ科 (SX303; 7層)
10. ヨモギ属 (SX303; 7層)

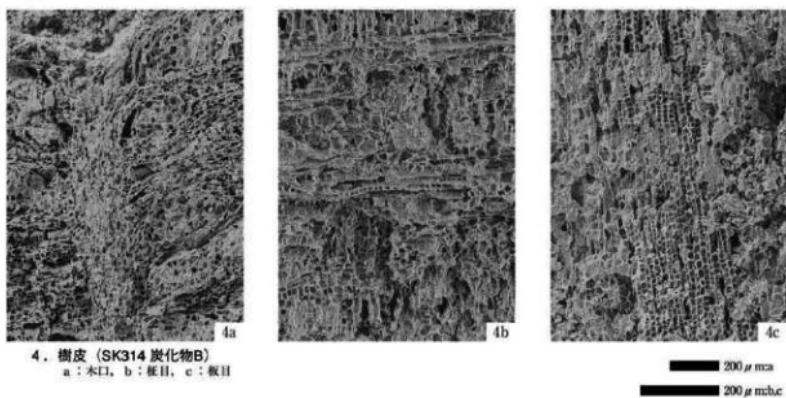
図版2 炭化材(1)



1. オニグルミ (SK301E8)
 2. カエデ属 (SK314 炭化物A)
 3. トチノキ (SK399 炭下層)
- a : 木目, b : 細目, c : 板目

— 200 μ mca
— 200 μ mcb

図版3 炭化材(2)



VI まとめ

堀端遺跡と塙ノ上遺跡の調査から、区画施設を持つ遺跡が隣接してあることが判明した。両遺跡は、9世紀前半を中心とする時期が考えられる。

9世紀前半

堀端遺跡では、区画施設が南北軸しか確認できず、区画内部の構造は不明である。区画施設周辺では、東側に竪穴建物1棟、掘立柱建物1棟、西側に廂を持つ掘立柱建物1棟が検出された。これらの建物の軸線と区画施設は、西に5~10度の傾きを有する。また、直接の重複関係が解る建物は、区画施設東側の竪穴建物→掘立柱建物の関係だけである。遺物は、竪穴建物からの出土資料に恵まれており、9世紀初頭（I期a）の年代観が考えられる。のことから、堀端遺跡の区画施設に関連する建物は、9世紀初頭から後続する時期（I期b）とみられる。

9世紀初頭

塙ノ上遺跡では、方形を基調とした区画施設が検出された。区画施設は、南面を正面とし、南面で拡張した痕跡がある。区画施設内部には、倉庫とみられる大型掘立柱建物が検出された。また、中央部に内部区画とみられる柱穴列（第44図）がある。北側に伸びるとみられる区画施設内の中心部は、今回の調査区外であり、保存された状態にある。区画施設外部東側では、竪穴建物、掘立柱建物、廂が検出された。区画施設外部西側では掘立柱建物2棟が検出された。2棟の掘立柱建物は、双倉の構造の可能性がある。掘立柱建物の西側には、柱穴列が検出されており、双倉を取り込む西端の廂とみられる。この西端の廂と区画施設東側の間は、約50mを測り、区画施設南面の2倍の規模となる。区画施設の軸線は西に25度傾くが、建物の軸線は、区画施設に類似する建物（A群）と、0~10度西に傾くもの（B群）に大別される。遺物の時期は、ST774から出土した9世紀初頭（I期）とSK806・SX303から出土した9世紀第2四半期（II期）の時期に分けられる。ST774がB群であることから、B群→A群の変遷が考えられる。

9世紀

第2四半期

堀端遺跡の土器とB群の遺構出土土器が類似することや、建物軸線が近似することから、堀端遺跡の区画施設に関連する建物は、B群の時期である。よって、塙ノ上遺跡の区画施設は、堀端遺跡の区画施設に後続すると考えられる。

本遺跡の南東約5kmに位置する、最上川東岸の今泉地区丘陵では、蛇崩遺跡・加賀塚遺跡等の須恵器窓跡が確認されている。昭和40年代に調査された加賀塚遺跡では、無台坏・有台坏・甕・短頸甕・長頸甕等の器種が出土している。無台坏は、口径14cm前後、底径6cm前後、器高4cm前後を測り、底部の切り離しは回転糸切りである。胎土は、黒色の吹き出しが認められる。塙ノ上遺跡ST774・SX303出土遺物（II期）無台坏は、加賀塚遺跡の無台坏の寸法・胎土に類似したもののが確認できる。本遺跡II期には、今泉地区的窓跡から土器が供給されていた可能性が高い。また、平成13年に調査された堀切遺跡は、本遺跡の南東約2kmに位置する。竪穴建物3棟等が検出され、本遺跡のII期に併行する時期が考えられる。塙ノ上遺跡に区画施設が構築された時期は、今泉地区で土器が生産され、本遺跡および周辺集落に供給されていたことが想定される。

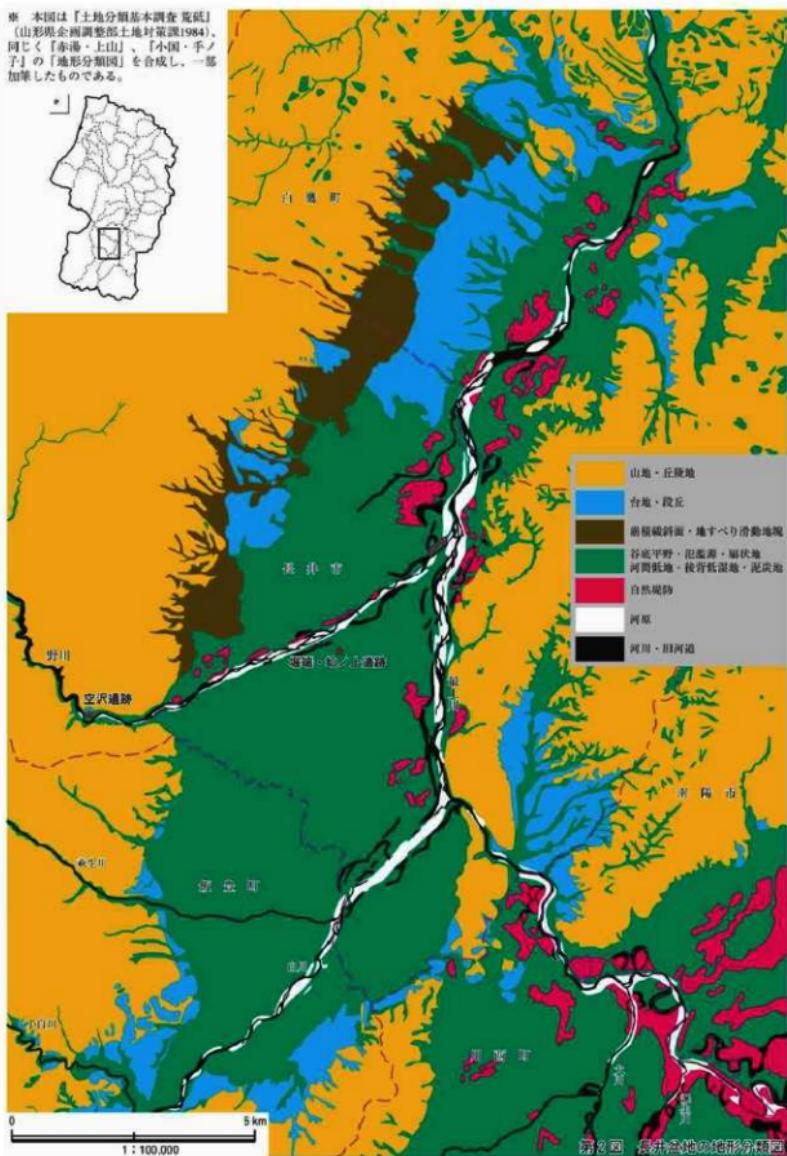
本遺跡周辺は、古代置賜郡長井郷に属すると思われるが、今回の調査により9世紀前半の営みの一端が明らかとなった。大型建物を囲み込み、倉庫を有する塙ノ上遺跡は、長井郷の中核的な施設であったと考えられる。その施設は、堀端遺跡に後続し展開したことが想定される。

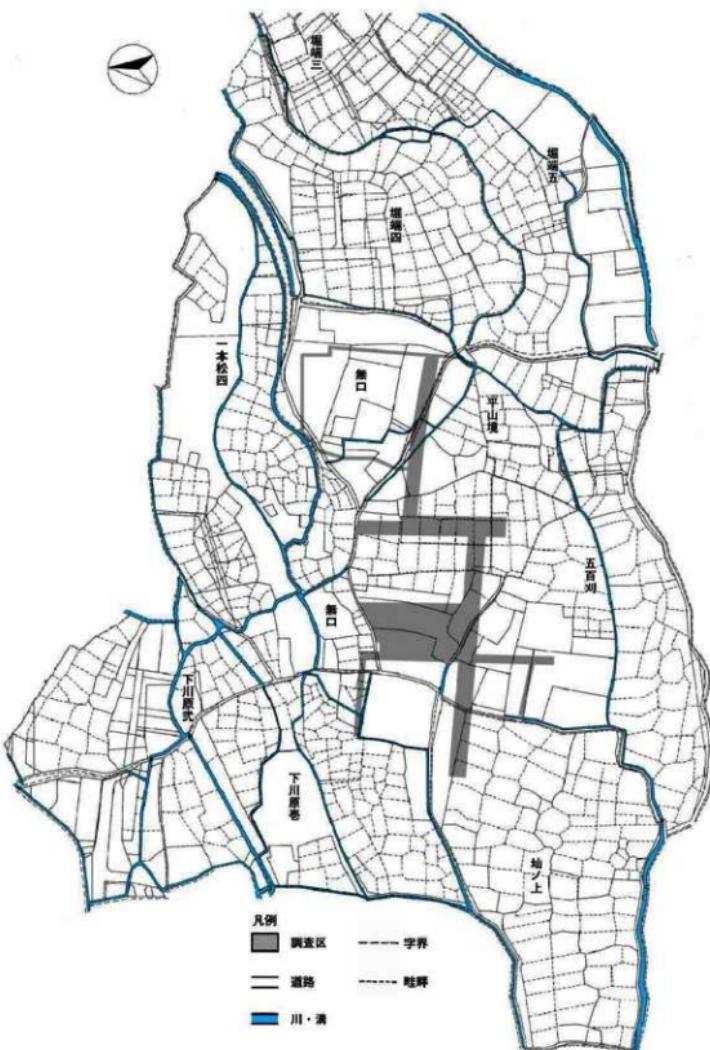
中核的な施設



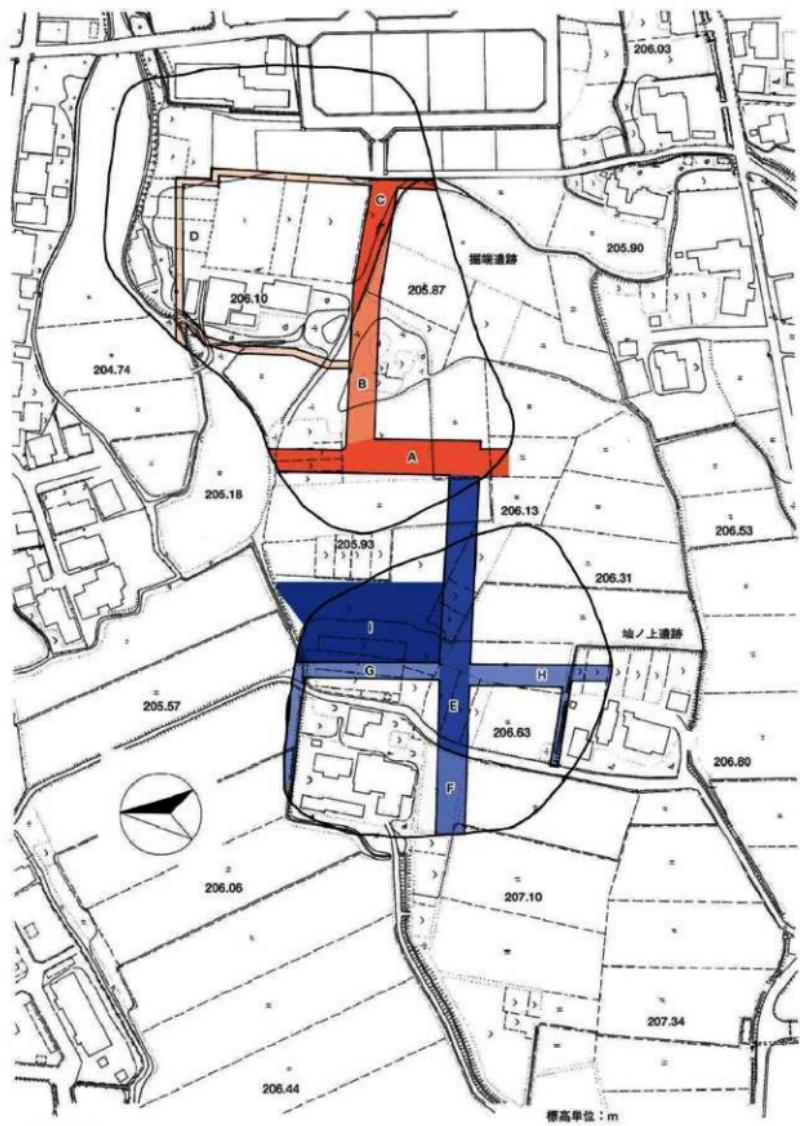
遺跡名	時代	遺跡名	時代
1 駿峰遺跡	奈良・平安	57 蜂屋敷遺跡	純文
2 端ノ上遺跡	奈良・平安	58 寺山遺跡	中世
3 南鶴石遺跡	中世	59 西山遺跡	平安・江戸
4 九兵衛山遺跡	绳文早期・前期・中期	60 外山前遺跡	不明
5 大沢第3遺跡	绳文	61 愛宕山遺跡	中世
6 小堀船跡	中世	62 桐町の舟遺跡	中世
7 大林遺跡	绳文	63 沖野遺跡	绳文
8 小畔遺跡	旧石器・绳文	64 矢島遺跡	平安
9 白山森遺跡	中世	65 胡桃ヶ入遺跡	绳文・平安
10 黒附遺跡	绳文	66 天神平遺跡	平安
11 神明森遺跡	绳文晚期	67 菅沢遺跡	绳文
12 合造遺跡	绳文	68 箱ノ内遺跡	绳文・平安・中世
13 二階櫓遺跡	绳文	69 中屋敷遺跡	绳文
14 松山遺跡	绳文	70 竹の俣遺跡	奈良・平安
15 長者原遺跡	绳文	71 正福寺船跡	中世
16 烟ヶ沢遺跡	绳文	72 金城館遺跡	室町
17 長者原1遺跡	旧石器・绳文	73 南台遺跡	奈良・平安
18 長者原2遺跡	绳文中期	74 逆瀬屋敷遺跡	中世
19 片倉遺跡	绳文	75 大埋蔵遺跡	中世
20 西寺山遺跡	绳文前期	76 登之越遺跡	绳文
21 中里遺跡	绳文	77 谷地中遺跡	绳文
22 中里B遺跡	绳文	78 上福田遺跡	奈良・平安
23 中里C遺跡	绳文後期・晚期	79 小山遺跡	绳文・奈良・平安
24 草丘遺跡	绳文	80 脊切遺跡	奈良・平安
25 新田遺跡	绳文	81 鮎之越遺跡	绳文
26 手塚船跡	中世	82 竜之越遺跡	不明
27 的場遺跡	平安	83 逆瀬屋敷跡	中世
28 生駒山頂墓群	中世・近世	84 檜垣屋敷遺跡	中世
29 打越日遺跡	绳文・近世	85 時庭館跡	中世
30 長坂遺跡	绳文	86 茅白館跡	中世
31 山之入遺跡	绳文	87 三間屋敷跡	中世
32 塔ノ上遺跡	绳文	88 河井山Ⅱ遺跡	旧石器
33 森賀音室遺跡	绳文・中世	89 西前遺跡	绳文
34 開造跡	中世	90 蘭池原船跡	中世
35 中宿遺跡	近世	91 界番道跡	绳文
36 本宿西遺跡	平安時代・近世	92 古屋敷遺跡	中世
37 本宿東宝篠跡	近世	93 蛇崩遺跡	平安
38 的場遺跡	绳文	94 加賀塚遺跡	平安
39 唐網遺跡	绳文中期・後期	95 今泉金山遺跡	平安
40 三鷄遺跡	绳文前期	96 北八ヶ森遺跡	旧石器
41 斎沢北館跡	绳文・平安	97 南八ヶ森遺跡	不明
42 飯沢船跡	中世	98 今泉館跡	中世
43 宮造跡	绳文	99 本郷館跡	中世
44 小桜船跡	中世	100 清水清八遺跡	平安
45 八幡船跡	中世	101 堀場遺跡	中世
46 金井持遺跡	绳文・弥生	102 安海塙遺跡	中世
47 天狗沢遺跡	绳文	103 田制氏船遺跡	中世
48 堀ヶ入遺跡	中世	104 大林遺跡	绳文
49 若尻袋遺跡	中世	105 龍成北遺跡	奈良・平安
50 沢尾遺跡	绳文・平安・中世・近世	106 覚小堀遺跡	古墳
51 上の台遺跡	绳文	107 中川原遺跡	绳文
52 太田遺跡	古墳	108 台の上遺跡	绳文
53 元八幡遺跡	古墳	109 刺堂遺跡	绳文
54 境の越遺跡	绳文	110 沢沢丸遺跡	绳文・弥生
55 油沢裏遺跡	平安	111 石箱遺跡	绳文・奈良・平安
56 日の出町遺跡	不明		

車 本図は「土地分類基本調査 荒原」(山形県企画調整部土地対策課1984)、同じく「赤湯・上山」、「小国・手ノ子」の「地形分類図」を合成し、一部加筆したものである。

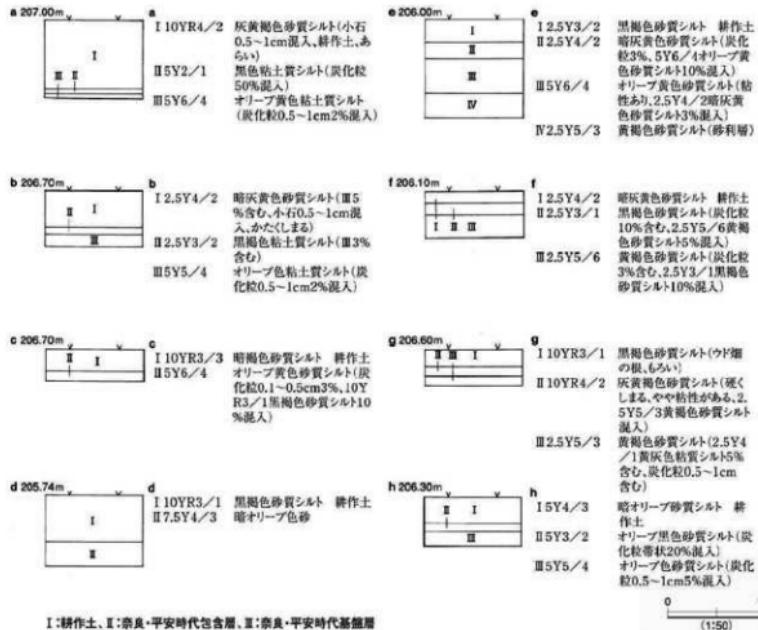




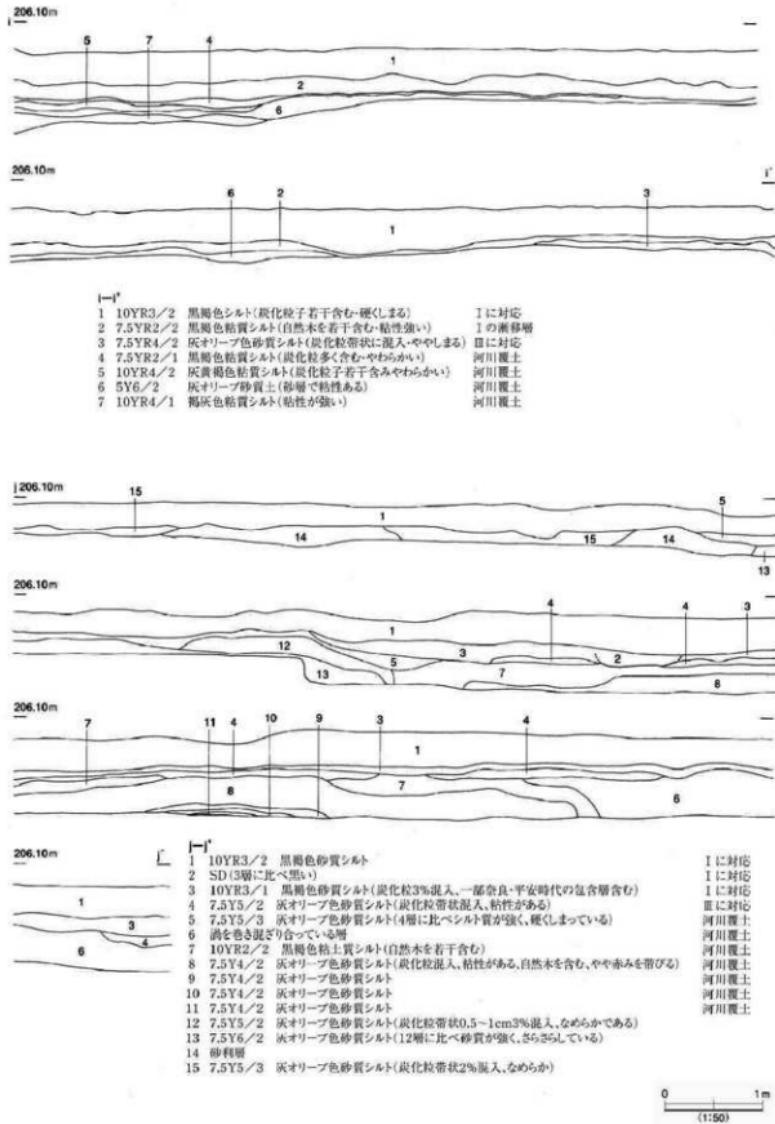
第3図 字切り図 ($S = 1 : 3,000$) 明治26年



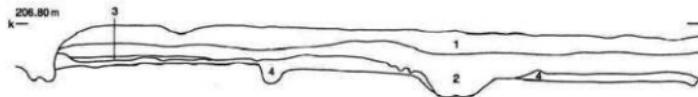
第4図 調査区概要図 (S = 1 : 2,000)



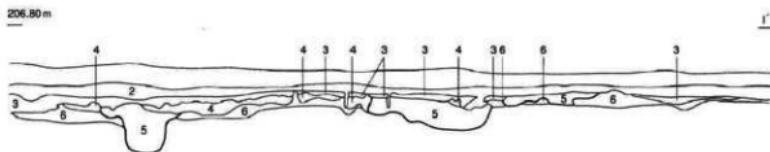
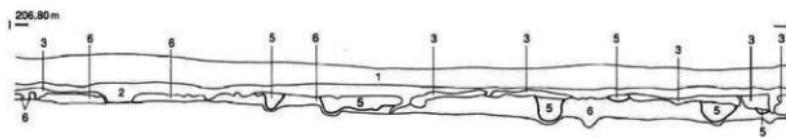
第5図 基本層序 (1)



第6図 基本層序 (2)

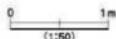


- k-k'**
- | | | |
|------------|---|--------|
| 1 10YR3./1 | 黒褐色砂質シルト(ウド細の根、もろい) | Iに対応 |
| 2 10YR4./2 | 灰黄褐色砂質シルト(硬くしまる、やや粘性がある、2.5Y5./3黄褐色砂質シルト混入) | Iに対応 |
| 3 5Y3./1 | オリーブ黒色粘土質シルト(炭化粒50%含む) | IIに対応 |
| 4 2.5Y5./3 | 黄褐色砂質シルト(2.5Y4./1黄褐色粘土質シルト5%含む、炭化粒0.5~1cm20%含む) | IIIに対応 |

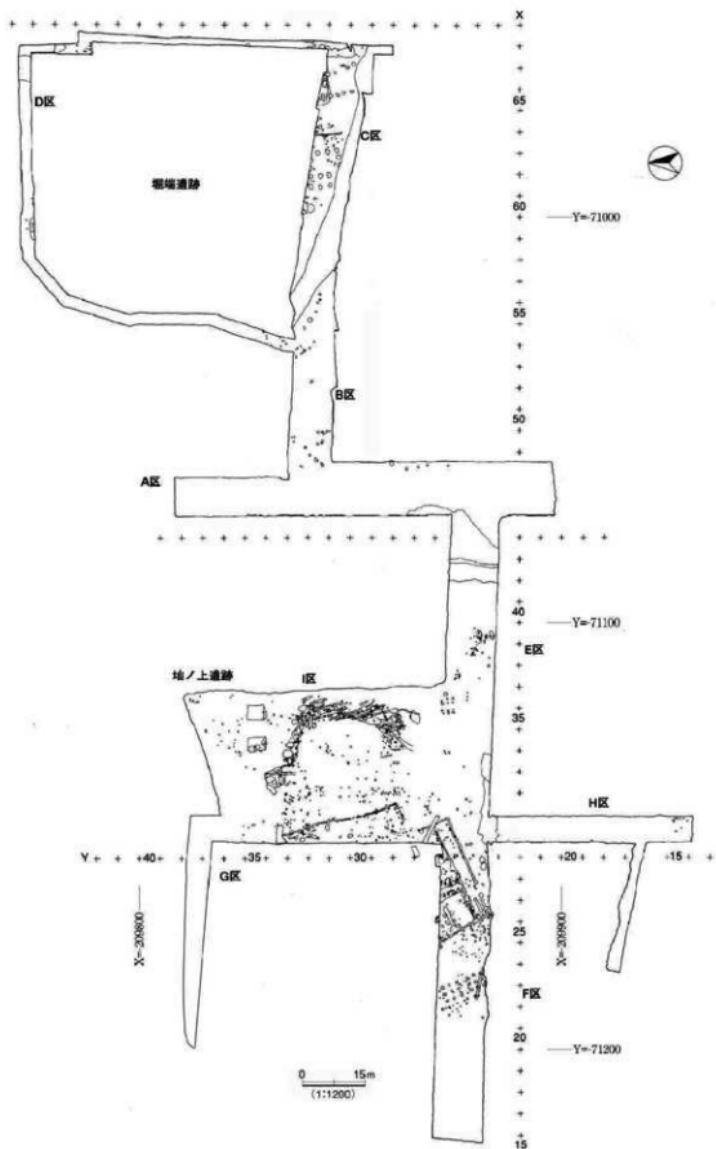


I:耕作土・基盤土 II:奈良・平安時代包含層 III:奈良・平安時代確認面(検出面)

- I-I'**
- | | | |
|------------|---|------------------------|
| 1 10YR3./3 | 暗褐色砂質シルト(砂利混入、もろい) | Iに対応 |
| 2 10YR4./2 | 灰黄褐色砂質シルト(炭化粒1%混入、硬くしまる、土器片混入) | Iに対応 |
| 3 5Y2./1 | 黒色粘土質シルト(炭化粒50%混入、しまり弱い、粘性あり) | IIに対応 |
| 4 2.5Y3./3 | 暗オリーブ褐色砂質シルト(炭化粒1%混入、粘性あり、10YR4./2灰褐色砂質シルト含む) | 整地層の可能性あり
奈良・平安時代遺構 |
| 5 5Y5./3 | 灰オリーブ色砂質シルト(まだらに炭化粒20~30%混入) | IIに対応 |
| 6 5Y6./4 | オリーブ黄色砂質シルト(炭化粒10%混入、なめらか) | IIIに対応 |



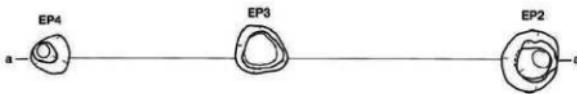
第7図 基本層序（3）



第8図 堆塁遺跡・堆ノ上遺跡構造配置図

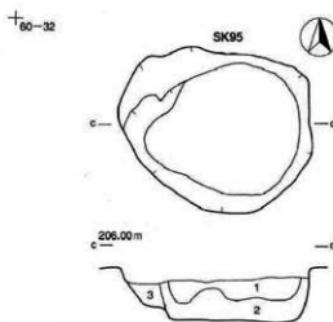
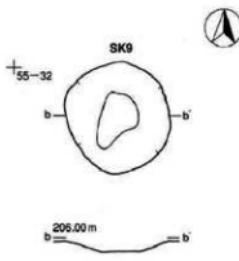
+
48-26

+
48-27



SA1 (EP2~4)

1 10YR2/2 黒褐色砂質シルト(10YR3/3暗褐色シルト20%, 10YR3/1黒褐色
細砂10%, 10YR4/4褐色シルト5%混入、しまる)

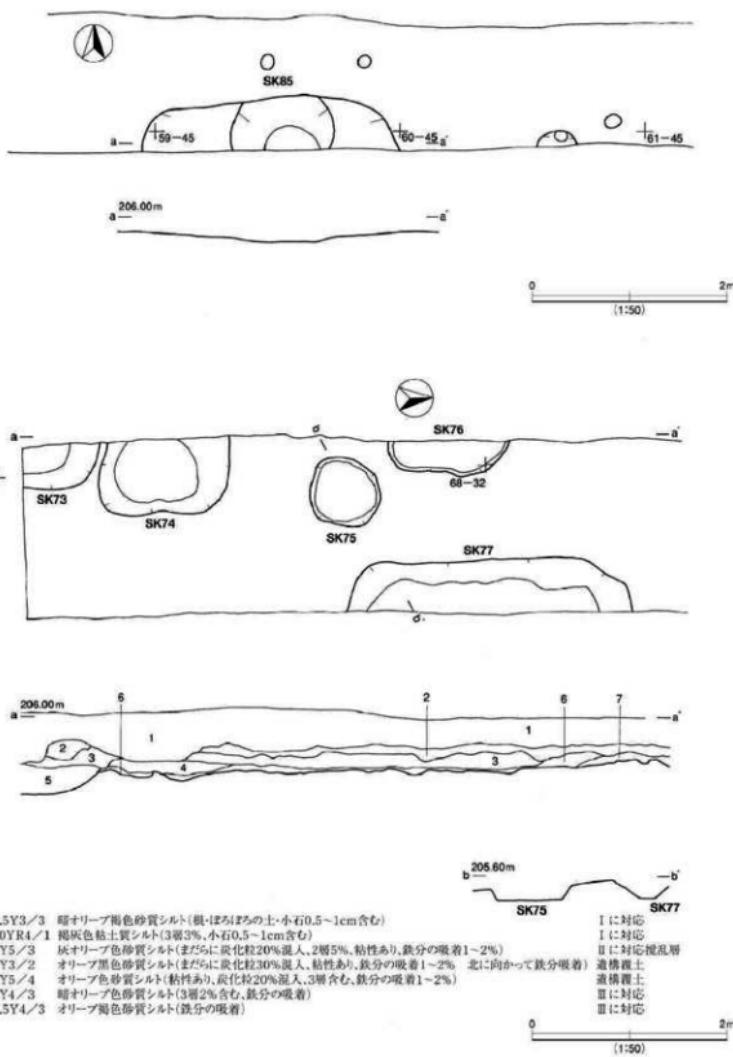


SK9
10YR3/3 褐褐色シルト質細砂(炭化粒0.5cm大3%混入、しまりがない)

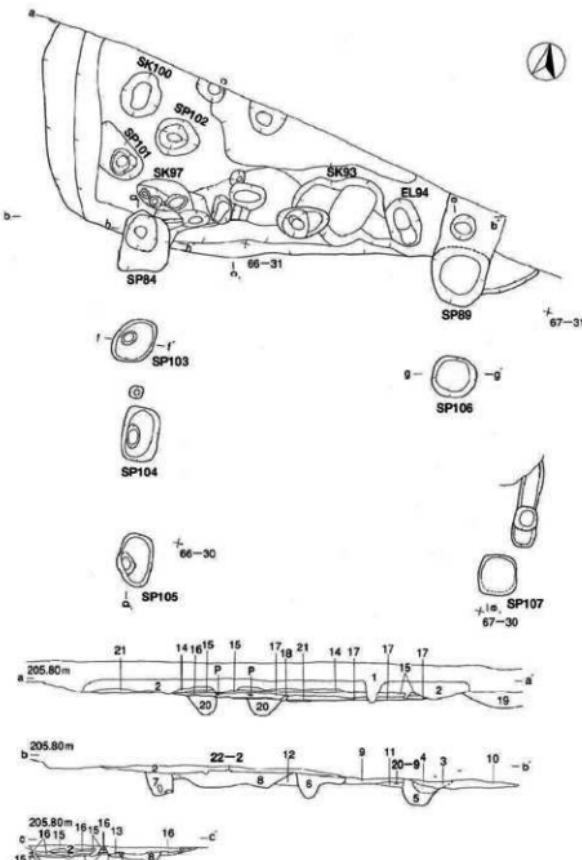
- SK95
1 2.5Y4/2 暗灰黄色砂質シルト(2.5Y4/3オリーブ褐色粘土質シルトまだら20%, 2層10%混入)
2 2.5Y2/1 黒色粘土質シルト(2.5Y4/3オリーブ褐色粘土質シルトまだら5%, 1層10%混入)
3 地山:=2層が苔状に30%混入



第10図 A区 SA1、SK9・95



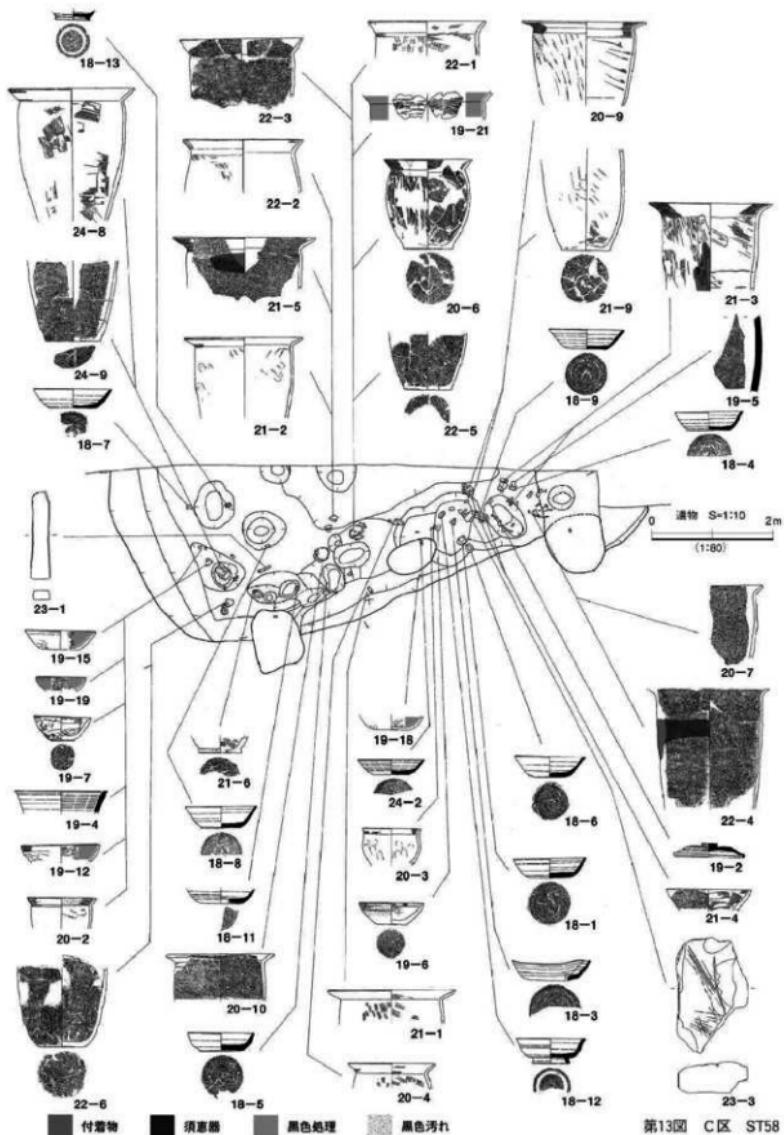
第11図 C・D区 土坑



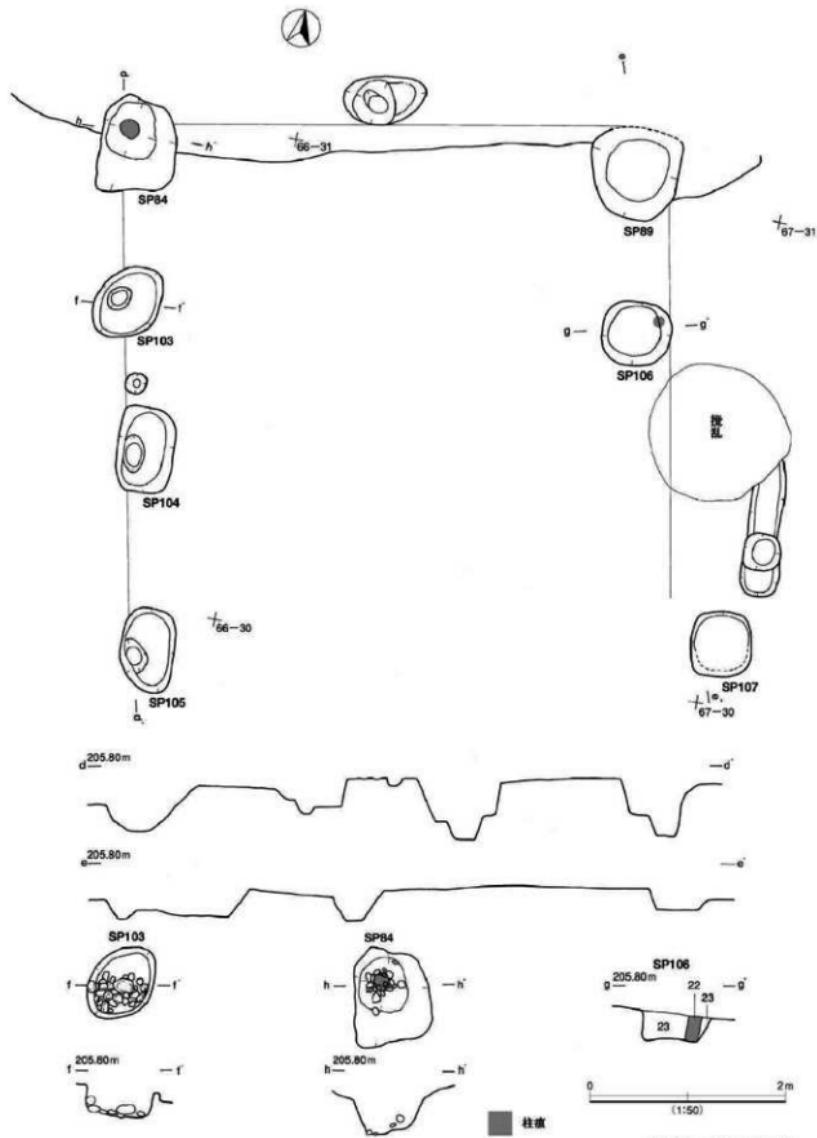
- 1 草生土・試料番号3
 2 広葉色シルト混入 試料番号4
 3 5YR4/6 赤褐色砂質シルト(粘性あり、焼土粒20%混入、土器破片混入)
 4 5YR4/6 赤褐色シルト(焼土粒50%混入)
 5 5YR2/2 黒褐色砂質シルト
 6 10YR3/3 紅褐色砂質シルト(炭化枝10%混入)
 7 10YR5/3 に赤い黄褐色粘土質シルト
 8 7.5YR4/3 黄褐色砂質シルト
 9 10YR2/2 黑褐色砂質シルト(炭化枝0.2cm大2%混入)
 10 10YR2/2 黑褐色砂質シルト(小円礫混入)
 11 10YR3/3 紅褐色砂質シルト
 12 10YR4/3 に赤い黄褐色砂質シルト
 13 燃土
 14 10YR4/3 に赤い黄褐色(黒色粘土質シルト帶状に堆積) 試料番号3
 15 10YR2/1 黑褐色シルト(黒色粘土質シルト帶状に堆積) 試料番号2
 16 5YR4/3 に赤い黄褐色砂質シルト
 17 10YR3/2 黑褐色シルト(黒色粘土質シルト帶状に堆積) 試料番号1
- 18 2.5Y3/2 黑褐色砂質シルト
 19 10YR3/2 黑褐色砂質シルト(小円礫混入)
 20 10YR3/3 増殖色砂質シルト(小円礫混入)
 21 10YR4/4 黄褐色砂質シルト地山 試料番号6-7
 22 2.5Y3/2 黑褐色砂質シルト(18層5%混入)柱状跡
 23 2.5Y4/2 增殖黄色粘土質シルト(17層5%混入)

0 2m
(1:100)

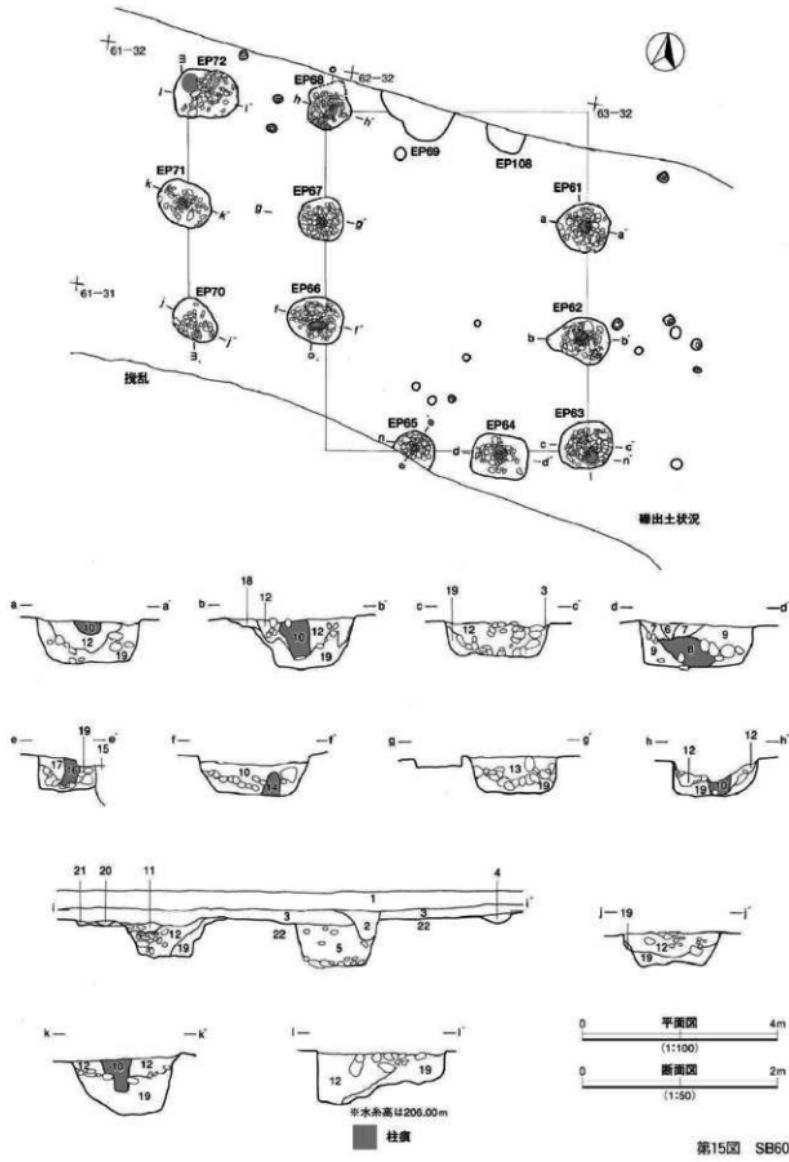
第12図 C区 ST58・SB109

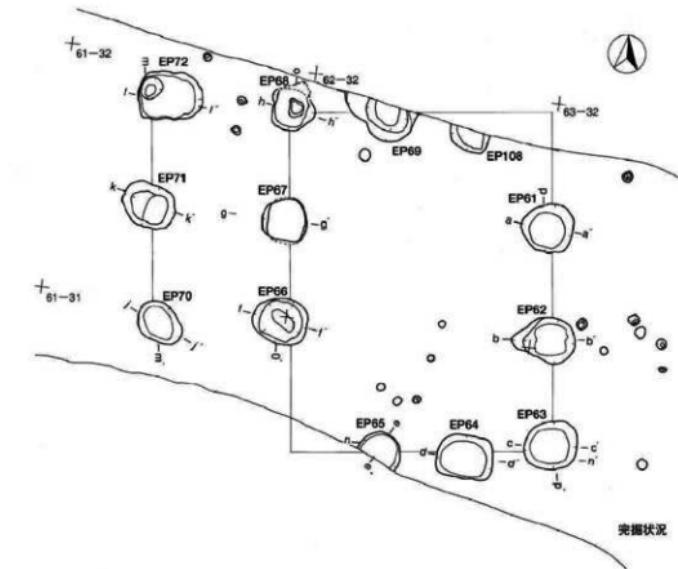


第13図 C区 ST58



第14図 C区 SB109

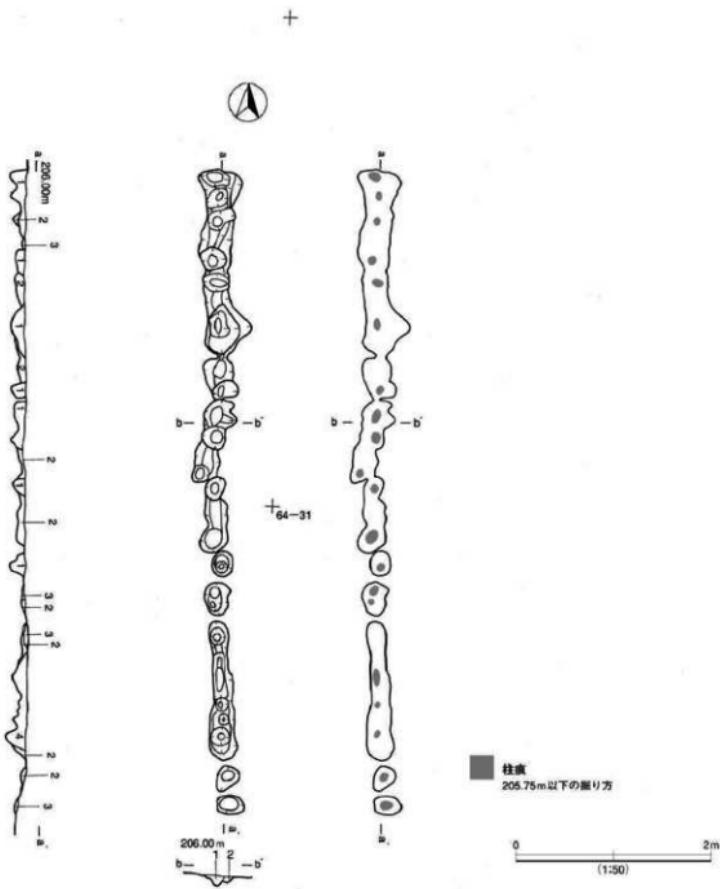




- m - m' n - n' o - o' p - p'
- ※水位高は206.00m
1. 2.5Y3/3 黒オリーブ褐色粘土質シルト(粘性あり、5層10%~7層20%~1cm大風化粒3%混入)
 2. 木の根
 3. 2.5Y3/2 黒褐色粘土質シルト(塊出20%~炭化粒0.5cm大3%混入)耕作土
 4. 2.5Y4/4 オリーブ褐色砂質シルト(10YR2/1黒色粘土質シルト20%混入)
 5. 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂質シルト(10YR2/1黒色粘土質シルト20%~地山
10%~炭化粒0.5cm大3%混入)
 6. 10YR2/1 黒色砂質シルト(粘性あり、5層10%~7層20%~1cm大風化粒3%
混入)
 7. 10YR3/2 黒褐色砂質シルト(粘性あり、5層20%~7層20%~炭化粒3%混入)
 8. 10YR3/2 黒褐色砂質シルト(粘性あり、5層5%~6層5%混入)
 9. 10YR3/2 黑褐色砂質シルト(粘性あり、5層5%~6層50%混入)
 10. 10YR3/2 黑褐色砂質シルト(粘性あり、10YR1.7/1黒色粘土質シルト10%~
炭化粒0.5~1cm大3%混入)
 11. 10YR3/2 黑褐色砂質シルト(粘性あり、10YR3/2黒褐色粘土質シルト10%~
炭化粒0.5~1cm大3%混入)
 12. 10YR3/2 黑褐色砂質シルト(粘性あり、10YR1.7/1黒色粘土質シルト10%~
炭化粒0.5~1cm大3%混入)
 13. 10YR3/3 黑褐色砂質シルト(粘性あり、塊山30%混入)
 14. 10YR3/3 黑褐色砂質シルト(粘性あり、塊山20%~炭化粒0.5~1cm大5%混入)
 15. 流泥
 16. 10YR2/3 黑褐色砂質シルト(粘性あり、10層10%~炭化粒0.5cm大1%混入)
 17. 10YR3/4 黑褐色砂質シルト(粘性あり、炭化粒0.5cm大1%混入)
 18. 10YR3/3 黑褐色砂質シルト(粘性あり、10YR1.7/1黒色粘土質シルト5%~
炭化粒0.5~1cm大3%混入)
 19. 10YR3/3 黑褐色砂質シルト(粘性あり、炭化粒0.5~1cm大1%混入)
 20. 2.5Y4/4 オリーブ褐色砂質シルト(10YR2/1黒色粘土質シルト20%~炭化
粒0.5cm大3%混入)
 21. 10YR3/3 黑褐色砂質シルト(粘性あり、塊山10%~炭化粒0.5~1cm大1%混入)
 22. 2.5Y4/4 オリーブ褐色砂質シルト地山

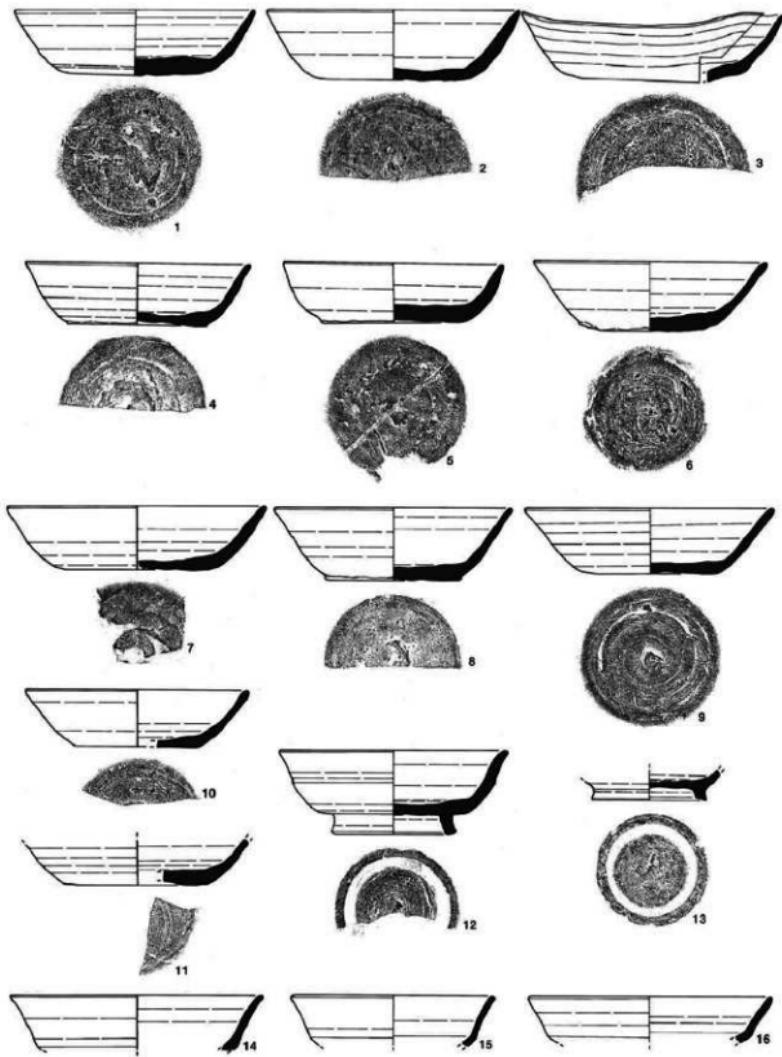
0 2m
(1:50)

第16図 C区 SB60



- 1 10YR2./1黑色砂質シルト(粘性あり, 10YR1.7./1
黒色粘土質シルト10%, 地山5%, 10YR3./2黑褐色
砂質シルト20%, 水化鉄0.5cm大1%混入)
- 2 10YR2./1黑色砂質シルト(粘性あり, 10YR1.7./1
黑色粘土質シルト5%, 地山10%, 10YR3./2黑褐色
砂質シルト30%, 水化鉄0.5cm大1%混入)
- 3 2.5Y4./3オリーブ褐色(粘性あり, 10YR1.7./1黑色
粘土質シルト15%, 地山10%, 10YR3./2黑褐色砂質
シルト10%, 水化鉄0.5cm大1%混入)
- 4 3層に類似する土質で、全体木の根の擾乱を受ける。

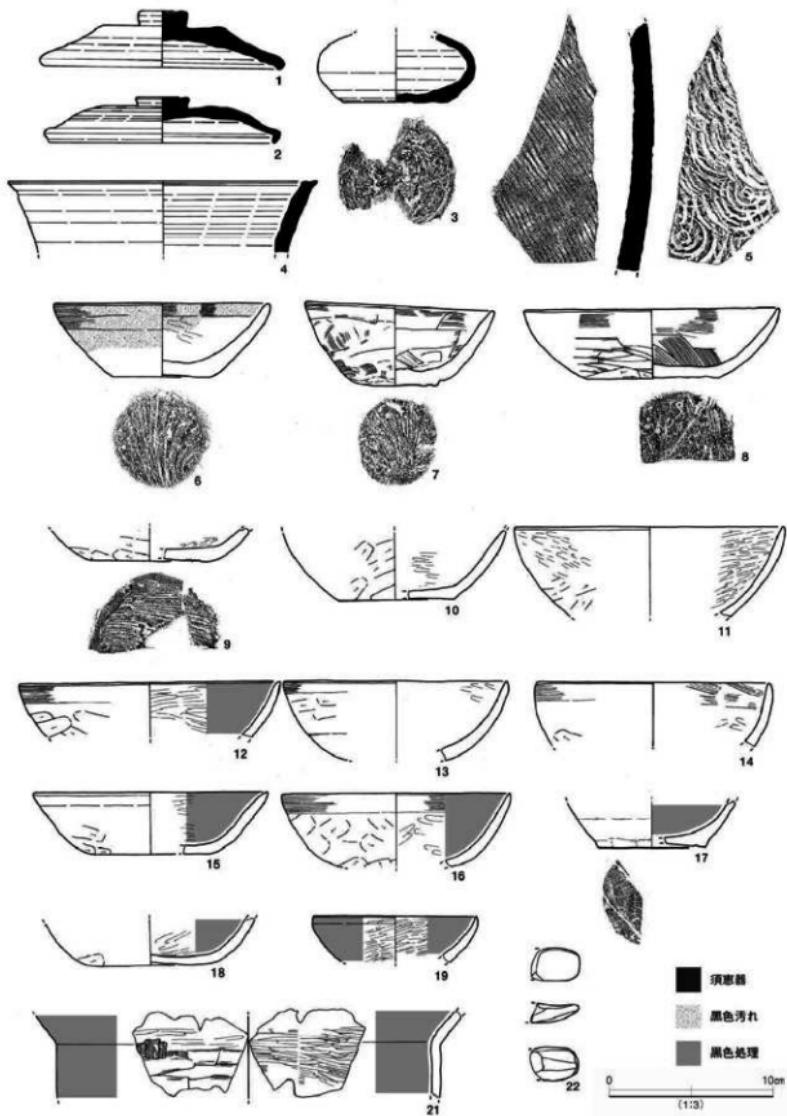
第17図 C区 区画施設SD80



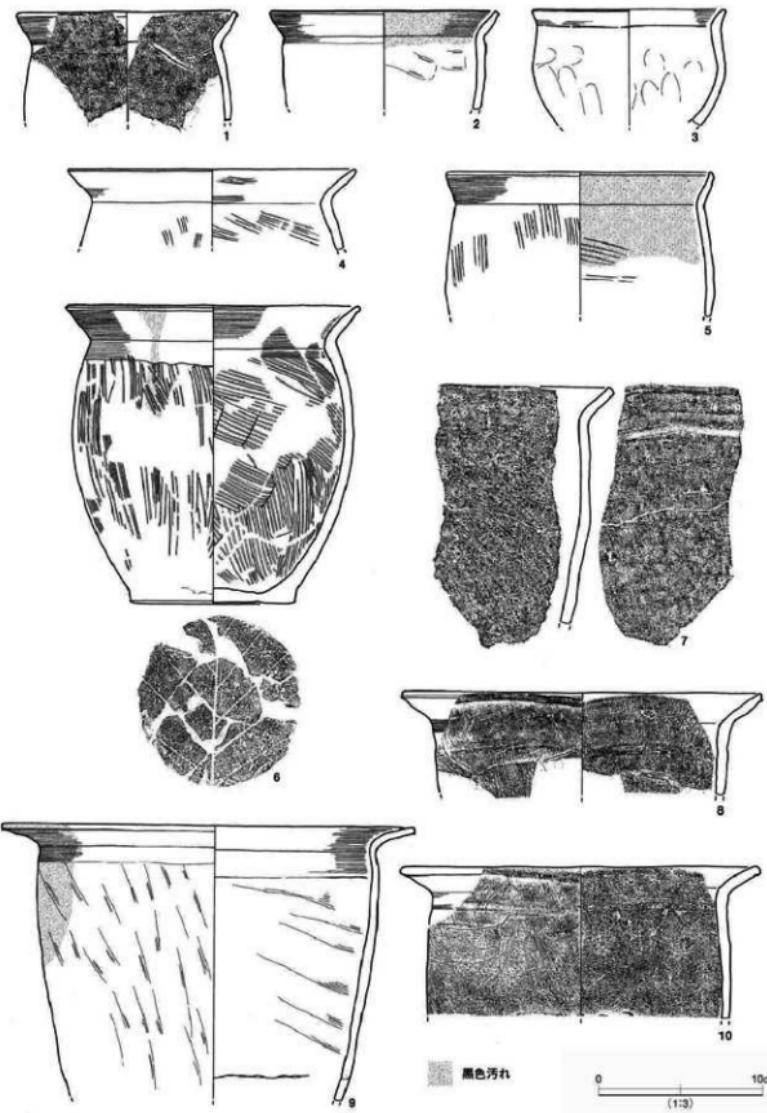
■ 須恵器

0 10cm
(1:3)

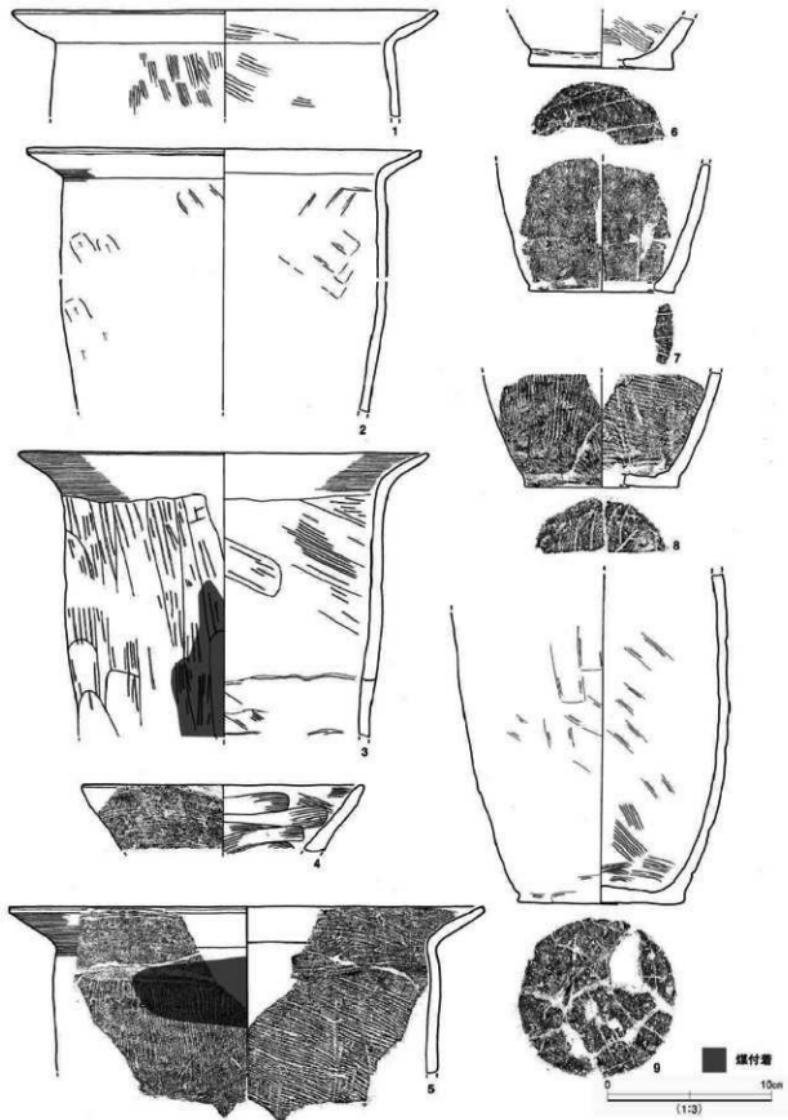
第18図 遺物実測図(1) ST58



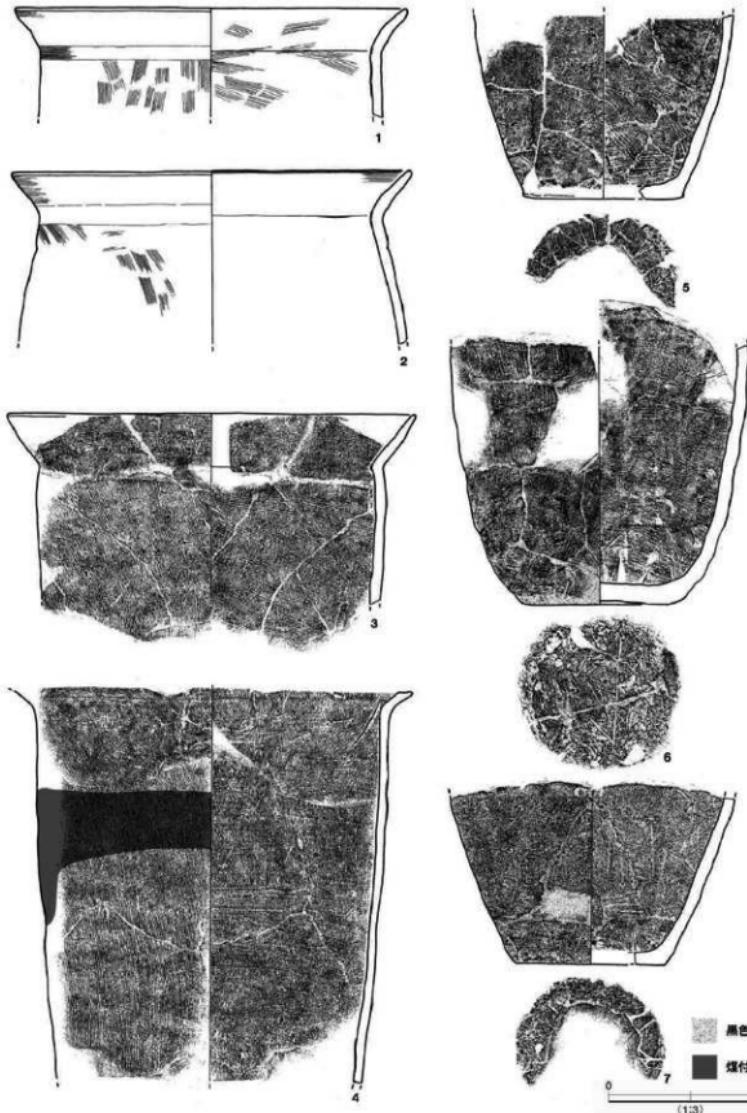
第19図 遺物実測図（2）ST5



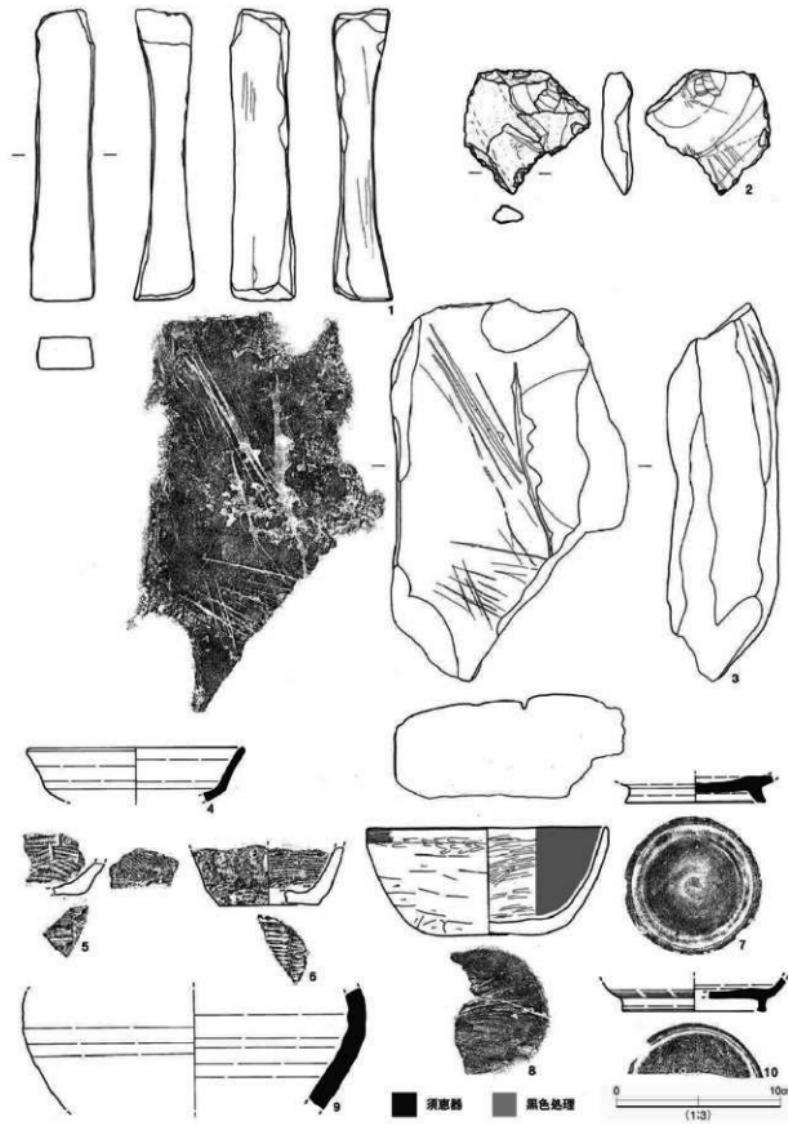
第20図 遺物実測図（3）ST58



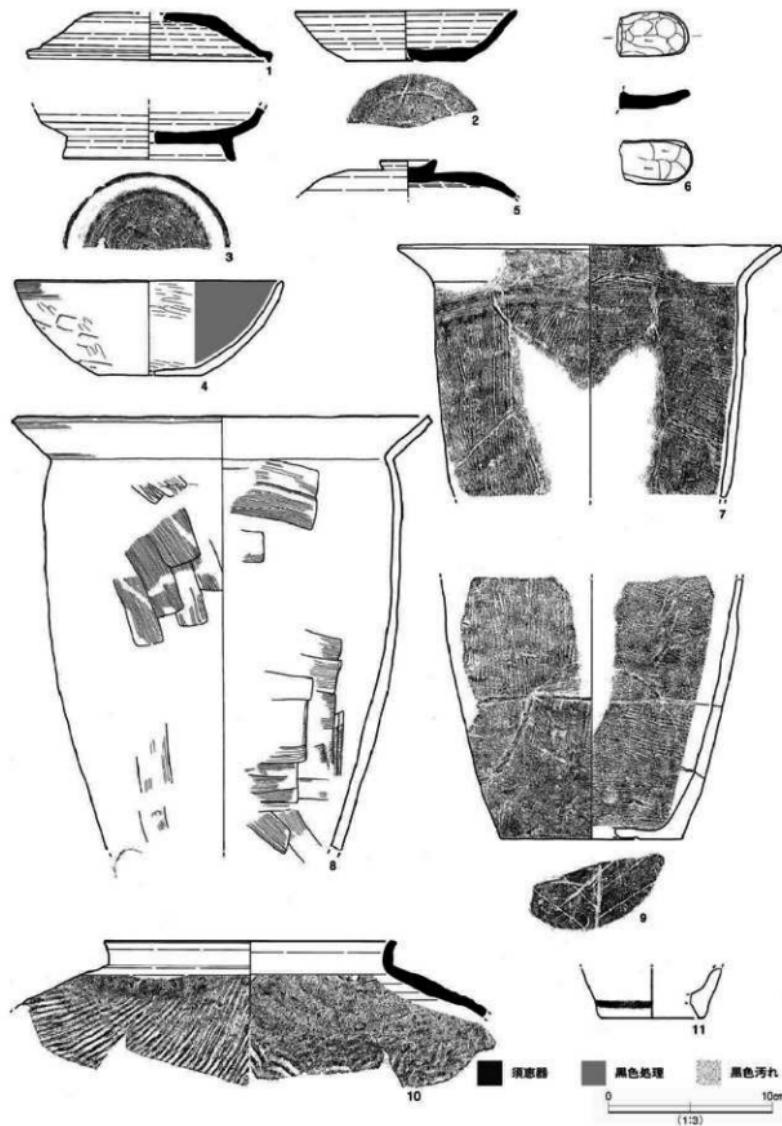
第21図 遺物実測図（4）ST58



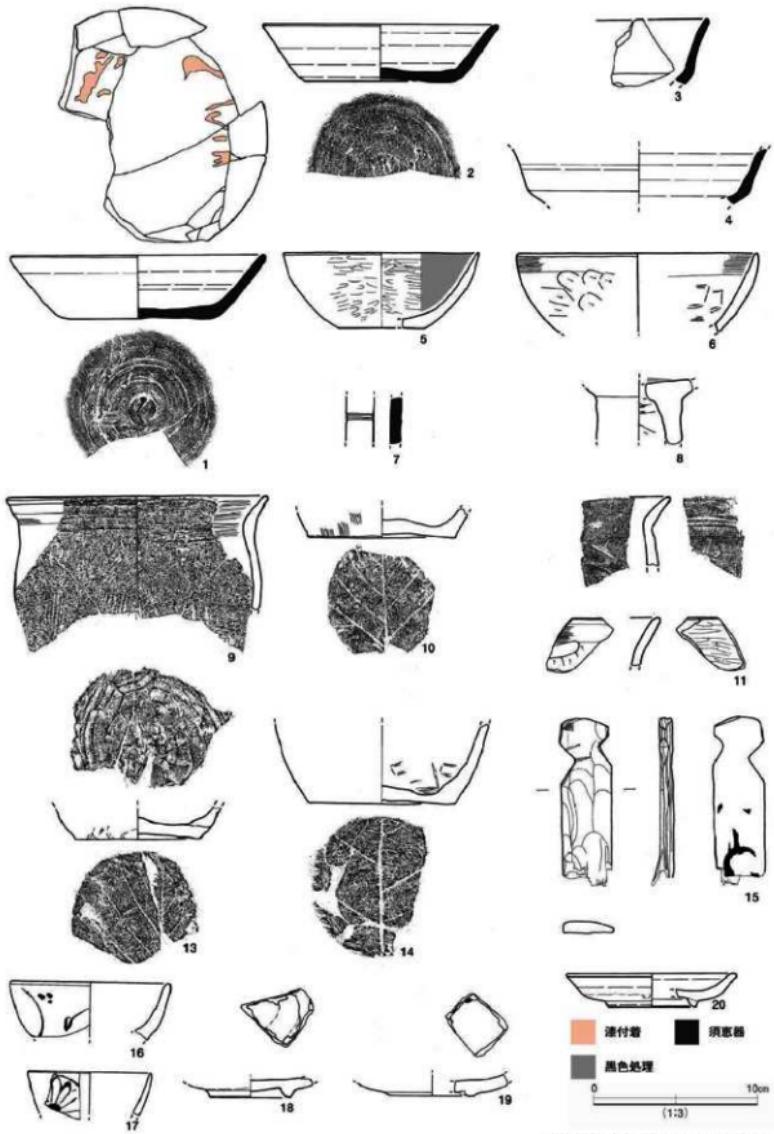
第22図 遺物実測図（5）ST58



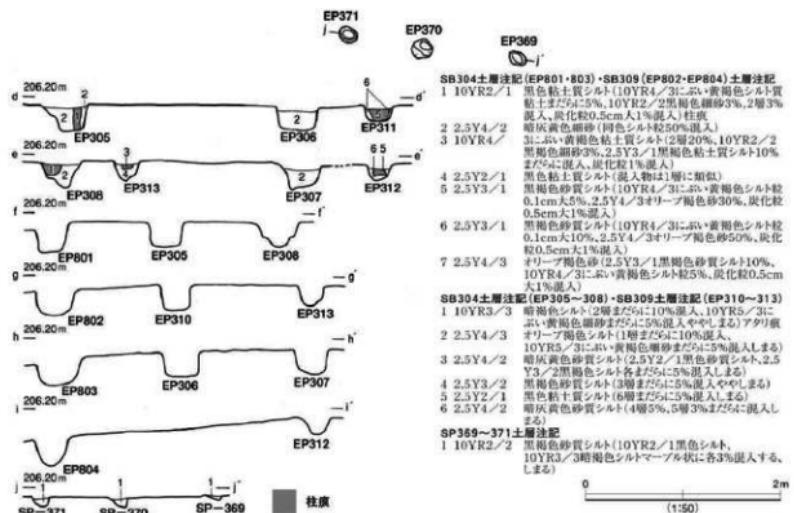
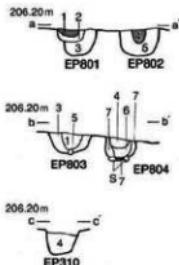
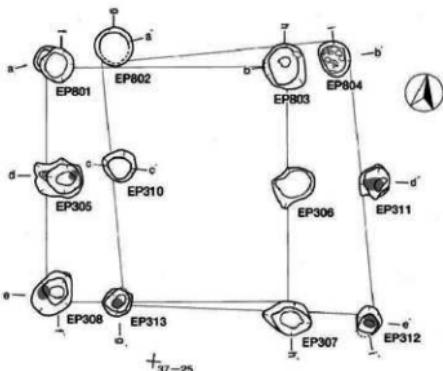
第23図 遺物実測図（6）ST58・SK・SD



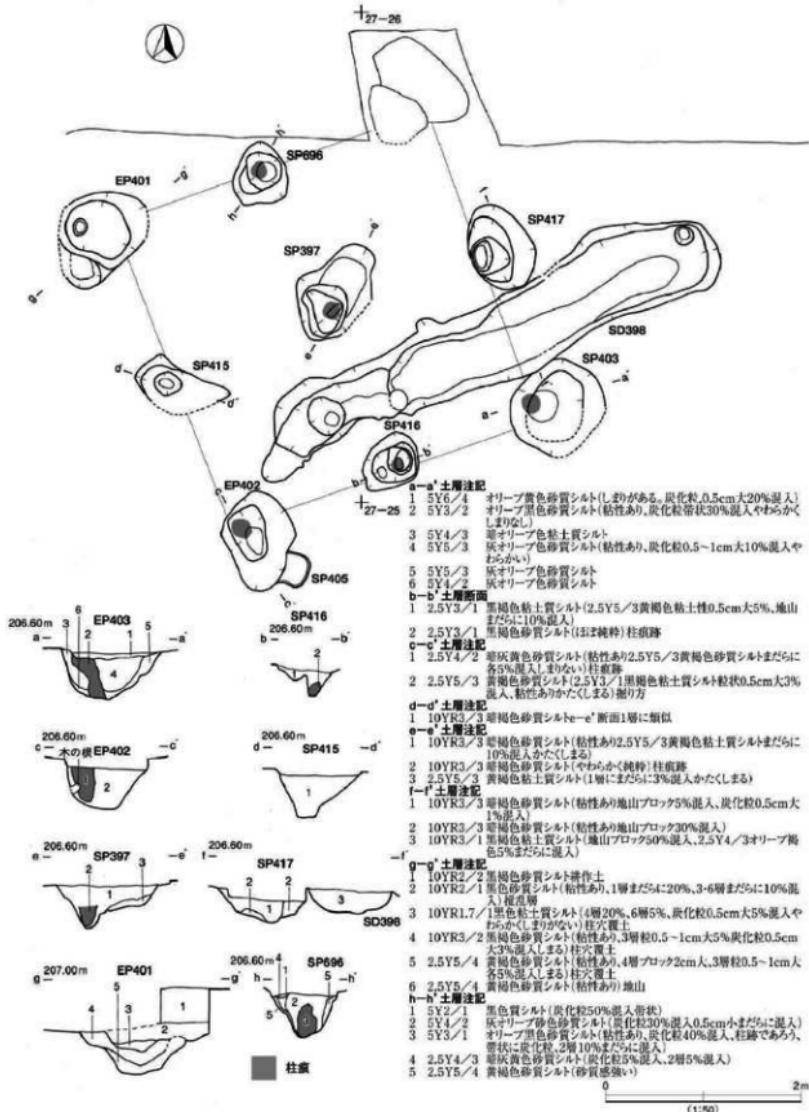
第24図 遺物実測図(7) SP



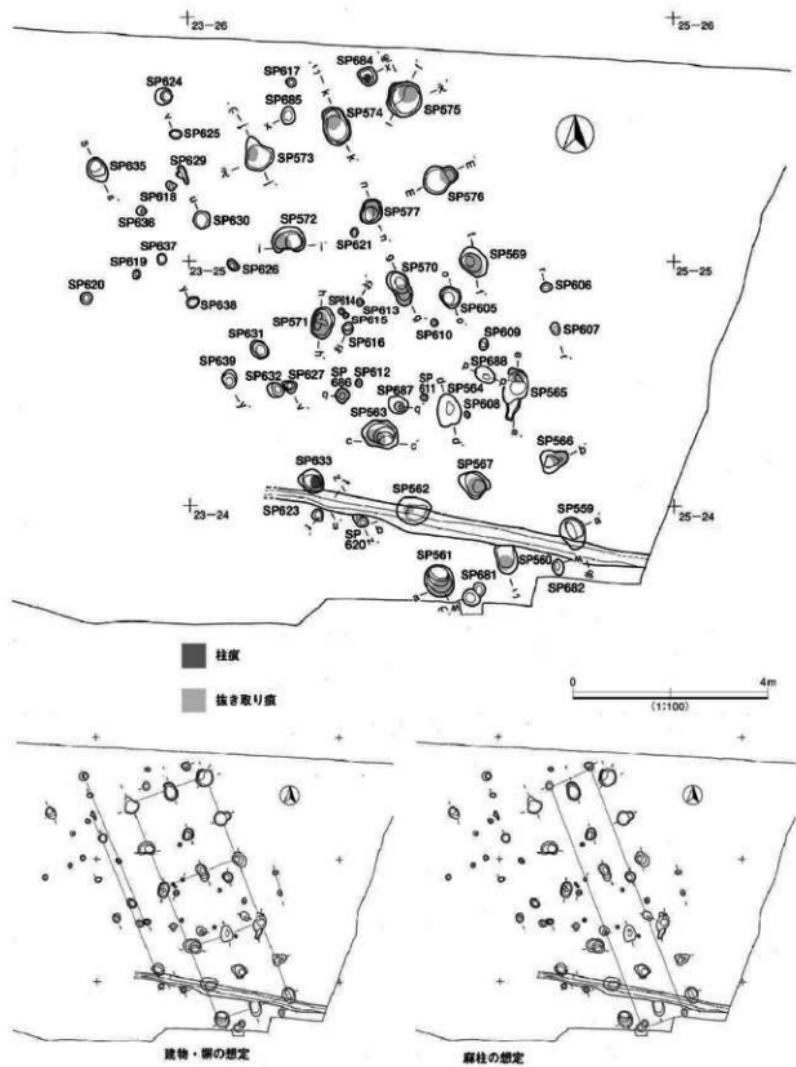
第25図 遺物実測図（8）遺構外



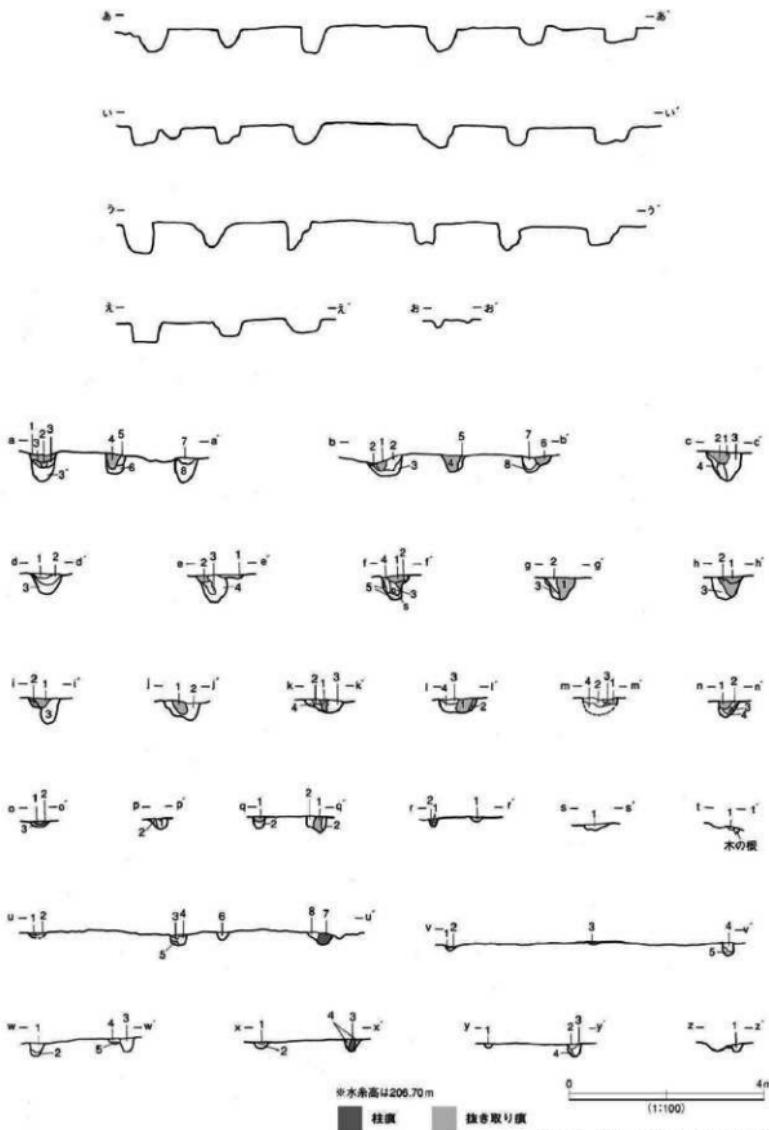
第27図 E区 SB304・309、SA864



第28図 E区 SB848



第29図 F区 SB846・847、SA863



第30図 F区 SB846・847、SA863

a-a' 土層注記

- 1 7に粗粒
- 2 10YR2.2/1 黒褐色砂質シルト(粘性あり)10YR3-/1黒褐色土質シルト,10YR2-/2 黒褐色細砂(5%混入)柱脚
- 3 10YR2-/2 黑褐色砂質シルト(10%混入)
- 4 10YR2-/1 黑褐色シルト(10YR3-/1黒褐色砂質シルト,10YR1.7/1黒褐色砂質シルトなどに混入)
- 5 8に粗粒
- 6 10YR2-/2 黑褐色砂質シルト(5%混入)
- 7 10YR3-/1 黑褐色粘土質シルト(10YR2-/2黒褐色細砂5%,10YR2-/1黒褐色砂質シルト5%,2.5YR3-/2 黑褐色シルト5%混入)
- 8 10YR3-/1 黑褐色砂質シルト(無山30%,10YR2-/1黒褐色砂質シルト5%,2.5YR3-/2 黑褐色砂質シルト10%混入)

b-b' 土層注記

- 1 2.5YR3-/1 黑褐色粘土質シルト(地山10%,2.5YR2-/1黒褐色砂質シルト,灰化鉄0.5cm大1%混入)柱脚
- 2 2.5YR5-/2 黑褐色粘土質シルト(10%混入,灰化鉄0.3cm大1%混入)
- 3 2.5YR3-/2 黑褐色砂質シルト(地山5%,1層5%混入)
- 4 10YR3-/1 黑褐色砂質シルト(地山10%,10YR1.7/1黒褐色土質シルト5%,灰化鉄0.5cm大1%混入,かたしまる)
- 5 SP562の3に崩壊
- 6 2.5YR3-/2 黑褐色砂質(10YR3-/1黒褐色粘土質シルト0.5cm大20%,10YR1.7/1黒色シルト0.5cm大5%混入)

c-c' 土層注記

- 1 2.5YR3-/2 黑褐色粘土質シルト(2.5YR4-/2類似灰黑色細砂,10YR2-/2黒褐色砂質シルト,灰化鉄0.5cm大1%混入)柱脚
- 2 2.5YR5-/2 黑褐色粘土質シルト(10%混入,灰化鉄0.3cm大1%混入)
- 3 2.5YR3-/2 黑褐色砂質シルト(地山5%,1層5%混入)
- 4 10YR3-/1 黑褐色砂質シルト(地山10%,10YR1.7/1黒褐色土質シルト5%,灰化鉄0.5cm大1%混入,かたしまる)
- d-d' 土層注記

- 1 10YR3-/1 黑褐色砂質シルト(粘性あり,地山5%混入,10YR2-/1黒褐色粘土質シルト5%混入)

- 2 2.5YR3-/1 黑褐色砂質シルト(10%混入,10YR2-/1黑褐色砂質シルト5%,灰化鉄0.5cm大1%混入)

- 3 地山10YR2-/1 黑褐色粘土質シルト(10%混入,鉢質感が強め)

e-e' 土層注記

- 1 10YR2-/2 黑褐色砂質シルト(10%混入,鉢質感が強め)
- 2 2.5YR3-/2 黑褐色砂質シルト(10YR3-/1黒褐色砂質シルト5%,灰化鉄0.5cm大1%混入)

- 3 10YR2-/1 黑褐色砂質シルト(10%混入,鉢質感が強め)
- 4 2.5YR5-/2 黑褐色砂質シルト(10YR2-/1黑褐色粘土質シルト5%,灰化鉄0.5cm大1%混入)

f-f' 土層注記

- 1 10YR3-/1 黑褐色砂質シルト(10%混入,2.5YR2-/2黒褐色砂質シルト5%,2.5YR2-/1 黑褐色粘土質シルト(地山10%,2.5YR2-/1黒褐色砂質シルト5%,灰化鉄0.5cm大1%混入))柱脚
- 2 2.5YR5-/3 黑褐色砂質シルト(10%混入,2.5YR4-/3リードブリード砂質5%,灰化鉄0.5cm大1%混入)
- 3 2.5YR5-/2 黑褐色シルト(2.5YR2-/1黒褐色土質シルト5%,灰化鉄0.5cm大3%混入,鉢質感が強め付近柱脚)
- 4 2に崩壊したくまら
- 5 2.5YR4-/3 リードブリード砂質(2.5YR2-/1黒褐色土質シルト5%,灰化鉄0.5cm大1%混入)

g-g' 土層注記

- 1 2.5Y3-/1 黑褐色粘土質(地山10%,2.5Y2-/1黒褐色粘土質シルト5%,灰化鉄0.5cm大1%混入)
- 2 2.5Y5-/3 黑褐色粘土質シルト(灰色細砂10%,1層5%までに混入)
- 3 2.5Y4-/2 黑褐色砂質(地山10%,1層5%までに混入)

h-h' 土層注記

- 1 10YR3-/1 黑褐色粘土質シルト(10%混入,柱脚)
- 2 2.5Y3-/1 黑褐色粘土質シルト(10YR1.7/1黒褐色土質シルト5%,灰化鉄0.5cm大1%混入)
- 3 2に崩壊したくまら
- 4 2に崩壊したくまら
- 5 2.5Y4-/3 リードブリード砂質(2.5Y2-/1黒褐色土質シルト5%,灰化鉄0.5cm大1%混入)

i-i' 土層注記

- 1 10YR3-/1 黑褐色砂質シルト(粘性あり,10YR2-/1黒褐色土質シルト5%,灰化鉄0.5cm大1%混入)
- 2 2.5Y5-/3 黑褐色粘土質シルト(10%混入,10YR2-/1黑褐色粘土質シルト,10YR1.7/1黑褐色土質シルト5%混入)
- 3 2.5Y5-/3 黑褐色粘土質シルト(10YR2-/1黑褐色砂質シルト,10YR1.7/1黑褐色土質シルト5%混入)

j-j' 土層注記

- 1 10YR2-/1 黑褐色砂質シルト(2層5%,10YR2-/1黑褐色砂質シルト10%,まだらに混入)
- 2 2.5Y5-/3 黑褐色粘土質シルト(鉄色細砂10%,1層5%までに混入)
- 3 2.5Y4-/2 黑褐色砂質シルト(鉄色細砂10%,1層5%までに混入)
- 4 3時に崩壊,倒上,かたじけなしに各10%混入,かたじけなし

k-k' 土層注記

- 1 10YR3-/1 黑褐色粘土質シルト(1層-黒褐色土質3%までに混入)
- 2 10YR3-/2 黑褐色砂質シルト(1層-鉄色5%混入)
- 3 1時に崩壊(地山10%崩壊,1層5%混入)

- 4 1時に崩壊,倒上,かたじけなしに各10%混入,かたじけなし

l-l' 土層注記

- 1 10YR3-/1 黑褐色粘土質シルト(地山10%,10YR2-/2黒褐色砂質5%,灰化鉄0.5cm大3%混入)

m-m' 土層注記

- 1 10YR3-/1 黑褐色砂質シルト(粘性あり,2.5Y5-/2黒褐色砂質シルト30%,まだらに混入,灰化鉄0.5cm大3%,2.5Y7-/1黒褐色土質シルト10%混入)
- 2 10YR3-/1 黑褐色砂質シルト(1層に粗粒,黒褐色土質シルト5%,黄褐色砂質シルト5%混入)
- 3 2.5Y4-/4 リードブリード砂質(10%混入)
- 4 2.5Y4-/4 リードブリード砂質(1層10%混入)

n-n' 土層注記

- 1 5Y3-/1 オーラー黒褐色土質シルト(10YR2-/2黒褐色砂質シルト5-1cm大5%,2.5Y2-/2黒褐色土質シルト5%までに10%,灰化鉄0.5cm大3%混入)
- 2 2.5Y4-/3 オーラー黒褐色土質シルト(地山10%,10YR2-/1黒褐色粘土質シルト5%混入)

o-o' 土層注記

- 1 2層に同じ,堆積方向がある
- 2 黄褐色砂質(1層5%混入)
- 3 o-o' 土層注記
- 2.5Y5-/3 黄褐色砂質シルト(2層5%混入,かたじけなし)
- 3 10YR3-/1 黑褐色砂質シルト(1層3%混入,かたじけなし)
- 4 10YR3-/1 黑褐色砂質シルト(1層3%混入,かたじけなし)

p-p' 土層注記

- 1 2.5Y3-/1 黑褐色砂質シルト(2.5Y3-/1黒褐色粘土質シルト5%までに5%,地山5%までに10%,灰化鉄0.3-0.5cm大1%混入)
- 2 2.5Y3-/2 黑褐色砂質シルト(2.5Y3-/1黒褐色粘土質シルト5%までに3%,地山5%までに10%,灰化鉄0.1-0.5cm大1%混入)

q-q' 土層注記

- 1 10YR2-/1 黑褐色砂質シルト(粘性あり,2層5%,灰化鉄0.5cm大1%混入)抜き取る
- 2 2.5Y5-/3 黄褐色砂質シルト(粘性あり,1層10%,2.5Y3-/1黒褐色粘土質シルト5%混入,灰化鉄0.5cm大1%混入)

r-r' 土層注記

- 1 2.5Y5-/3 黄褐色砂質シルト(粘性あり,10YR1.7/1黒色シルト,2.5Y3-/1黒褐色砂質シルト各10%混入)
- 2 2.5Y5-/3 黄褐色砂質シルト(1層5%混入)

s-s' 土層注記

- 1 v-v' 前面4層に同じ

t-t' 土層注記

- 1 2.5Y4-/2 黑褐色砂質シルト(粘性あり,2.5Y4-/1黒灰褐色粘土10%,2.5Y3-/1黒褐色粘土質シルト5%混入)

u-u' 土層注記

- 1 2.5Y2-/1 黑褐色粘土質シルト(2層3%,灰化鉄0.3cm大1%混入)
- 2 2.5Y5-/3 黄褐色砂質シルト(1層10%,灰化鉄0.3cm大1%混入)
- 3 2.5Y3-/1 黑褐色粘土質シルト(10YR2-/1黑褐色粘土質シルト5%混入,灰化鉄0.5cm大10%,5%までに20%混入)

v-v' 土層注記

- 1 4.10YR2-/1 黑褐色粘土質シルト(2.5Y3-/1黒褐色粘土質シルト5%,地山10%までに5%混入)
- 2 2.5Y5-/3 黄褐色砂質シルト(1層5%混入)
- 3 2.5Y3-/1 黑褐色粘土質シルト(10YR2-/1黑褐色粘土質シルト5%,地山5%までに5%混入)

w-w' 土層注記

- 1 黑褐色粘土質シルト(2層3%,混入,灰化鉄0.5cm大1%混入)
- 2 黑褐色粘土質シルト(1.5Y3-/1黒褐色粘土質シルト5%,地山10%混入,灰化鉄0.3cm大1%混入)
- 3 2.5Y3-/1 黑褐色粘土質シルト(10YR2-/1黑褐色粘土質シルト5%,地山10%混入,灰化鉄0.1cm大1%混入)

x-x' 土層注記

- 1 4.2.5Y2-/1 黑褐色粘土質シルト(2層5%混入,灰化鉄0.5cm大1%混入)
- 2 2.5Y5-/3 黄褐色砂質シルト(1層5%混入,灰化鉄0.5cm大1%混入)
- 3 黑褐色粘土質シルト(1.5Y3-/1黒褐色粘土質シルト5%,地山10%混入,灰化鉄0.3cm大1%混入)

y-y' 土層注記

- 1 2.5Y5-/3 黄褐色砂質シルト(1層5%混入)
- 2 2.5Y3-/3 黑褐色粘土質シルト(1層5%混入)
- 3 2.5Y2-/1 黑褐色粘土質シルト(2.5Y3-/1黒褐色粘土質シルト5%,地山10%混入,灰化鉄0.1cm大1%混入)

z-z' 土層注記

- 1 4.2.5Y2-/1 黑褐色粘土質シルト(1.5Y3-/1黒褐色粘土質シルト5%,地山10%混入,灰化鉄0.3cm大1%混入)
- 2 2.5Y5-/3 黄褐色砂質シルト(1層5%混入,灰化鉄0.5cm大1%混入)
- 3 2.5Y3-/1 黑褐色粘土質シルト(10YR2-/1黑褐色粘土質シルト5%,地山10%混入,灰化鉄0.1cm大1%混入)

aa-aa' 土層注記

- 1 2.5Y5-/3 黄褐色砂質シルト(2層5%混入)
- 2 2.5Y2-/1 黑褐色粘土質シルト(1層10%,2.5Y3-/1黒褐色粘土質シルト5%混入,かたじけなし)

bb-b' 土層注記

- 1 2.5Y5-/3 黄褐色砂質シルト(1層20%混入)
- 2 2.5Y5-/3 黄褐色砂質シルト(1層10%,2.5Y3-/1黒褐色粘土質シルト5%,地山10%混入,灰化鉄0.1cm大1%混入)
- 3 2.5Y2-/1 黑褐色粘土質シルト(2.5Y3-/1黒褐色粘土質シルト5%,地山10%混入,灰化鉄0.1cm大1%混入)

cc-c' 土層注記

- 1 2.5Y5-/3 黄褐色砂質シルト(2.5Y4-/2崩壊5%混入)
- 2 2.5Y5-/2 黑褐色粘土質シルト(2.5Y3-/1黒褐色粘土質シルト10%,灰化鉄0.5cm大3%混入)
- 3 2.5Y5-/3 黄褐色砂質シルト(1層5%混入)
- 4 2.5Y5-/3 黄褐色砂質シルト(1層5%混入)

dd-d' 土層注記

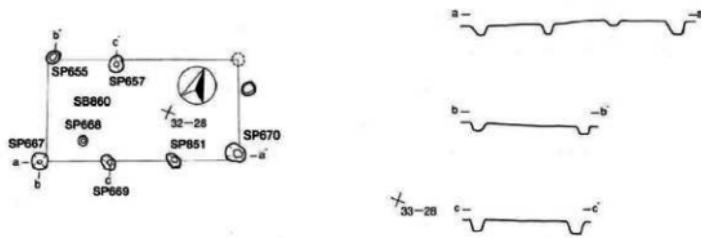
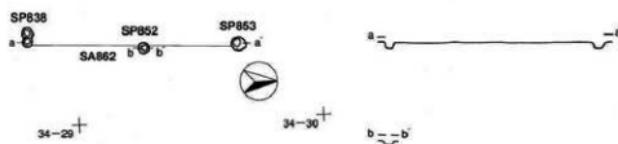
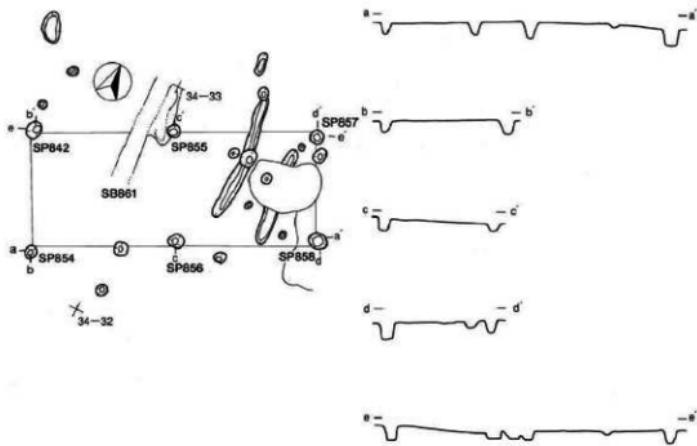
- 1 2.5Y3-/2 黑褐色砂質シルト(崩壊10%,2.5Y3-/1黒褐色砂質シルト10%,灰化鉄0.5cm大3%混入)

ee-e' 土層注記

- 1 2.5Y5-/3 黑褐色砂質シルト(1層5%混入)
- 2 2.5Y5-/3 黄褐色砂質シルト(1層20%混入)
- 3 2.5Y5-/3 黄褐色砂質シルト(1層10%,2.5Y3-/1黒褐色粘土質シルト5%,地山10%混入,灰化鉄0.1cm大1%混入)
- 4 2.5Y5-/3 黄褐色砂質シルト(1層5%混入)

ff-f' 土層注記

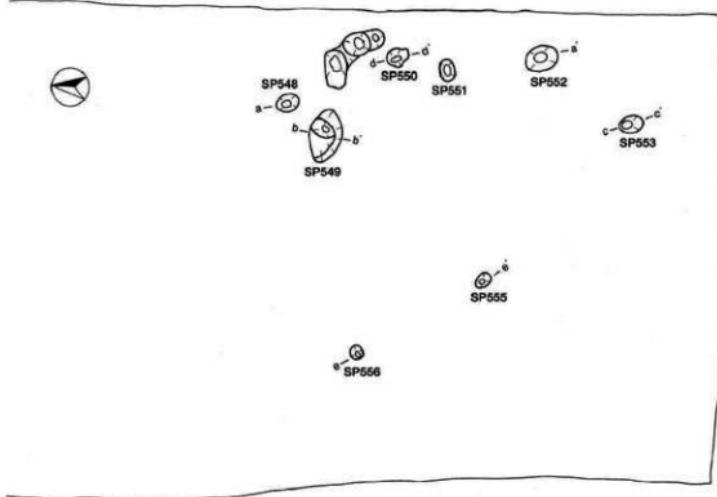
- 1 2.5Y3-/2 黑褐色砂質シルト(崩壊10%,2.5Y3-/1黒褐色砂質シルト10%,灰化鉄0.5cm大3%混入)



※水系高は206.40m

0 4m
(1:100)

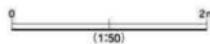
第31図 G + I区 SB860・861、SA862

+³²⁻¹⁵+³²⁻¹⁴

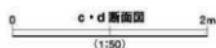
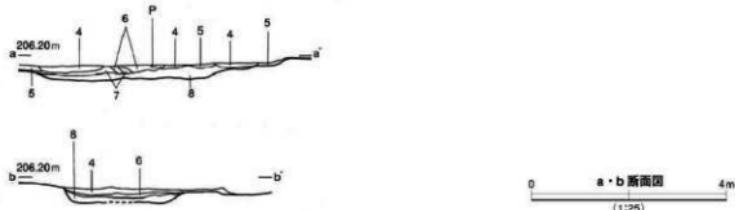
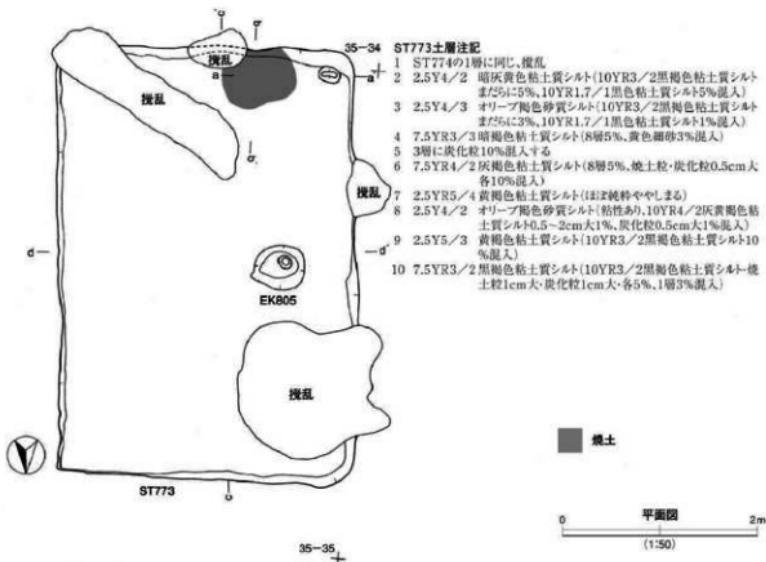
206.10m

43

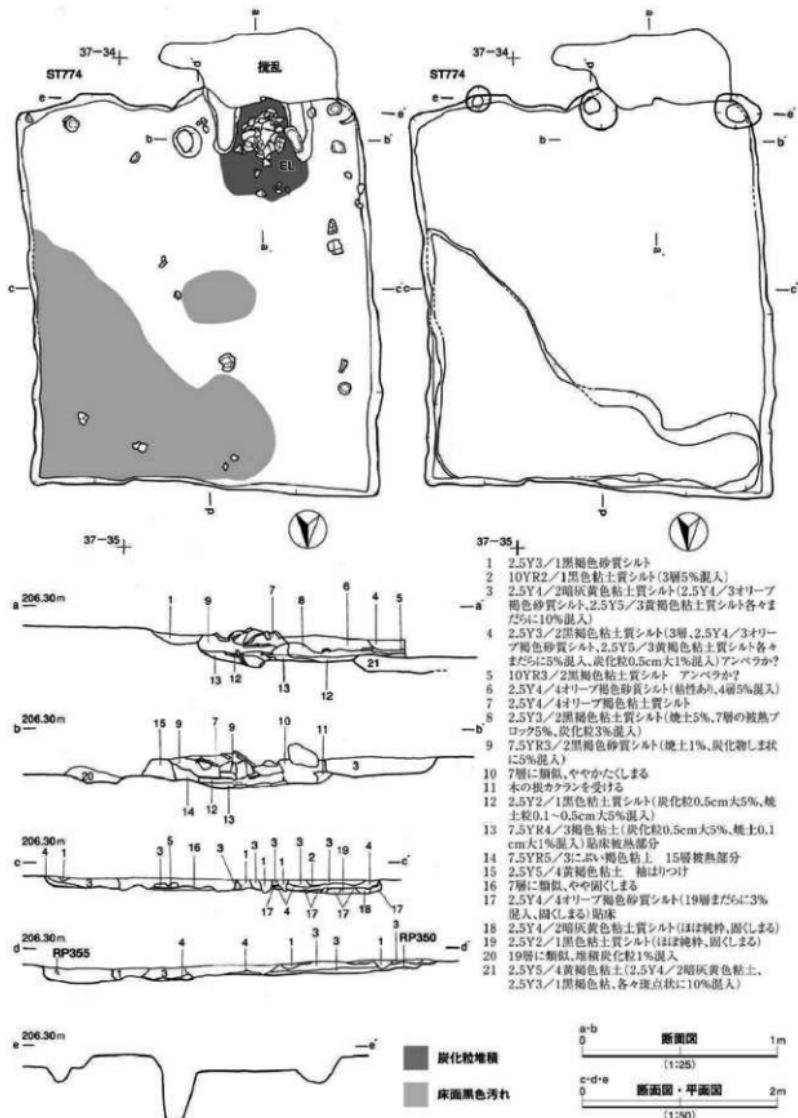
- a-a'**
- 1 7.5Y5/2 灰オーブ色砂質シルト(炭化粧まだら20%混入、やわらかい)
 - 2 7.5Y6/3 オリーブ黄色砂質シルト(炭化粧3%混入)
 - 3 2.5Y3/1 黒褐色粘土質シルト(炭化粧20%混入)
 - 4 7.5Y6/3 オリーブ黄色砂質シルト(炭化粧1%混入)
 - 5 7.5Y2/1 黒色砂質シルト(炭化粧40%混入、粘性あり)
 - 6 7.5Y1/2 灰オーブ色砂質シルト(炭化粧1%混入、粘性あり)
- b-b'**
- 1 7.5Y3/1 オリーブ黒色砂質シルト(炭化粧3%混入、粘性あり)
 - 2 7.5Y2/1 黒色粘土質シルト
 - 3 7.5Y5/3 灰オーブ色砂質シルト
- c-c'**
- 1 7.5Y2/1 黑色砂質シルト(炭化粧50%混入、粘性あり)
 - 2 7.5Y4/2 灰オーブ色砂質シルト
- d-d'**
- 1 5Y6/3 オリーブ黄色砂質シルト
 - 2 5Y4/2 灰オーブ色粘土質シルト
 - 3 10Y3/1 オリーブ黑色粘土質シルト(炭化粧30%混入)
 - 4 10Y4/2 オリーブ黑色粘土質シルト(炭化粧帶状10%混入)

206.10m
b-3 21-b'206.10m
c-1 2-c'206.10m
d-2-d'206.10m
e-43 12-e'

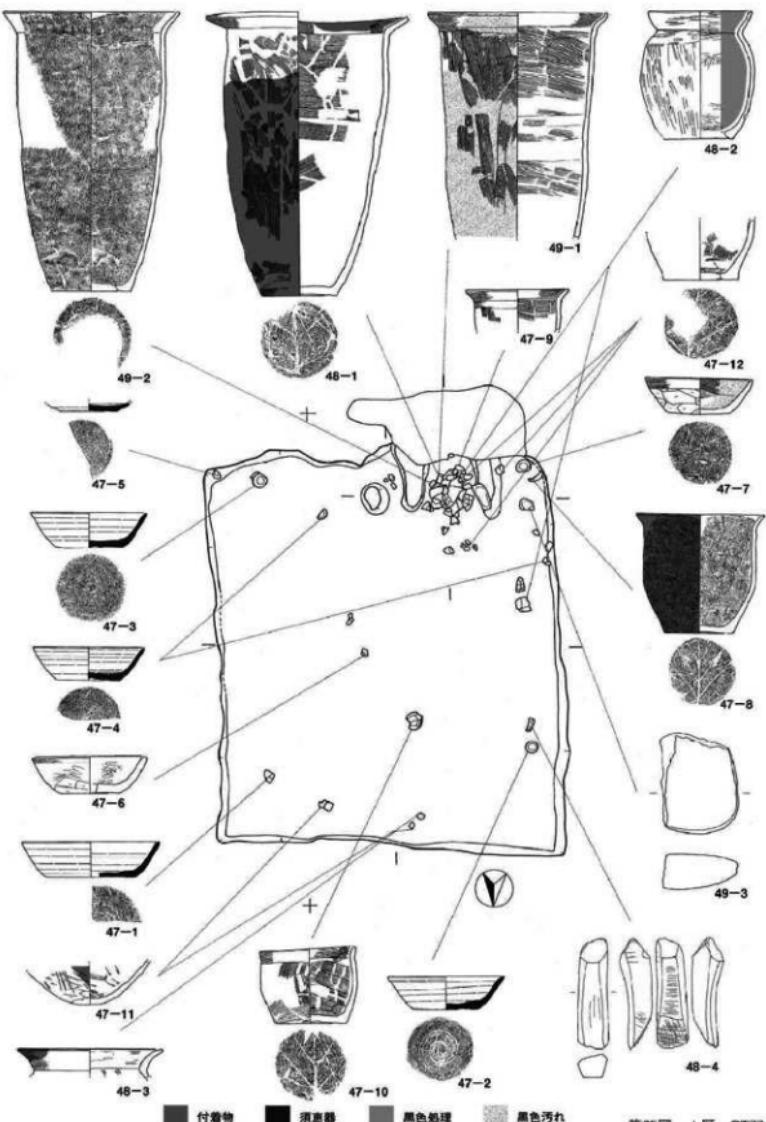
第32図 H区 柱穴



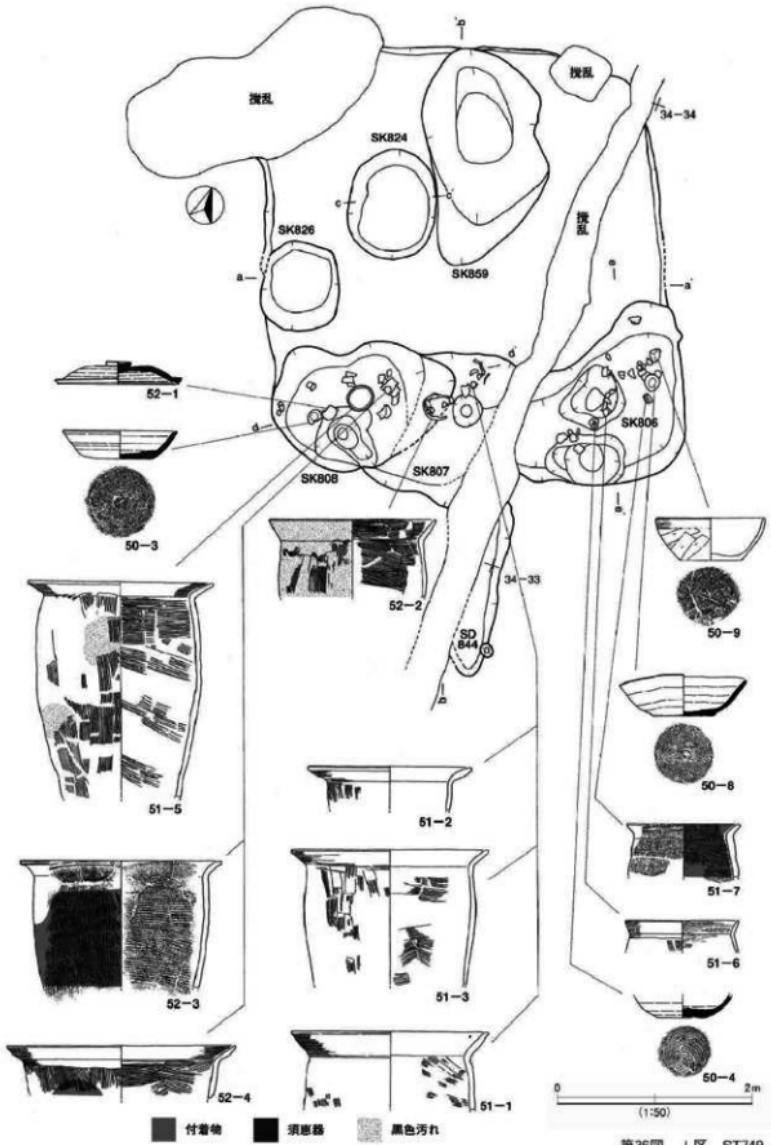
第33図 I区 ST773



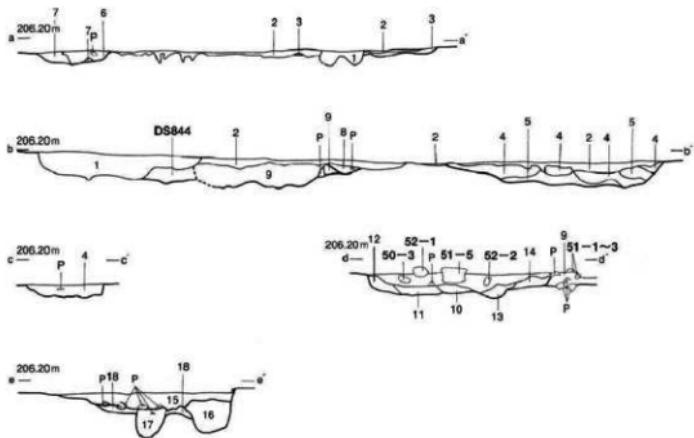
第34図 I区 ST774



第35図 I区 ST774



第36図 I区 ST749

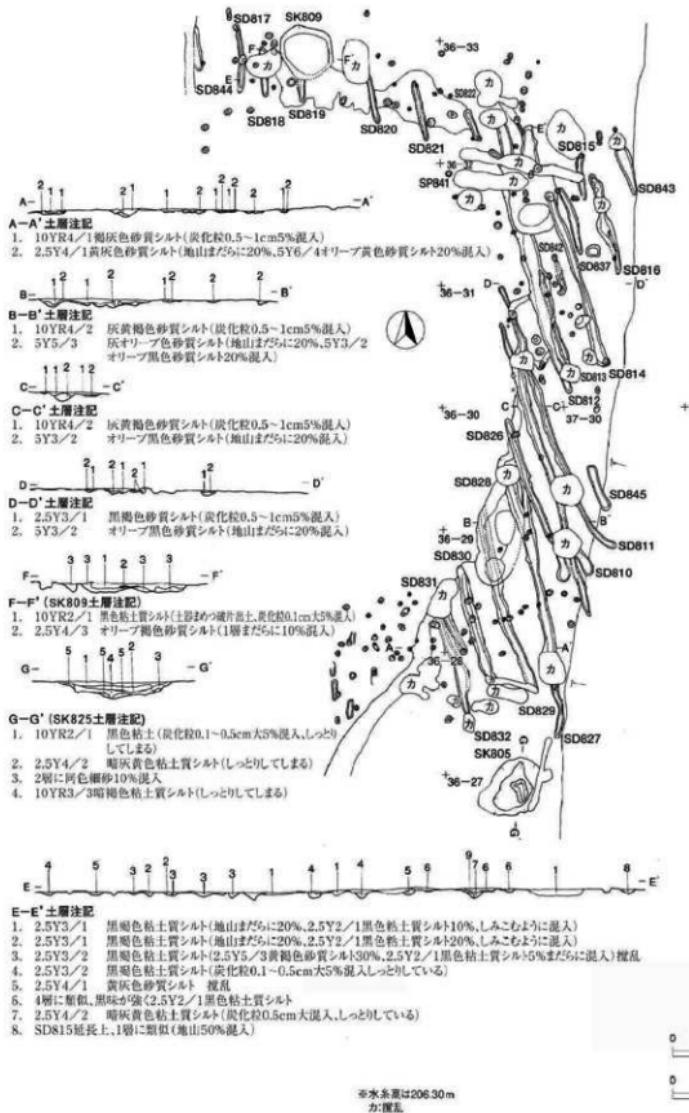


ST749

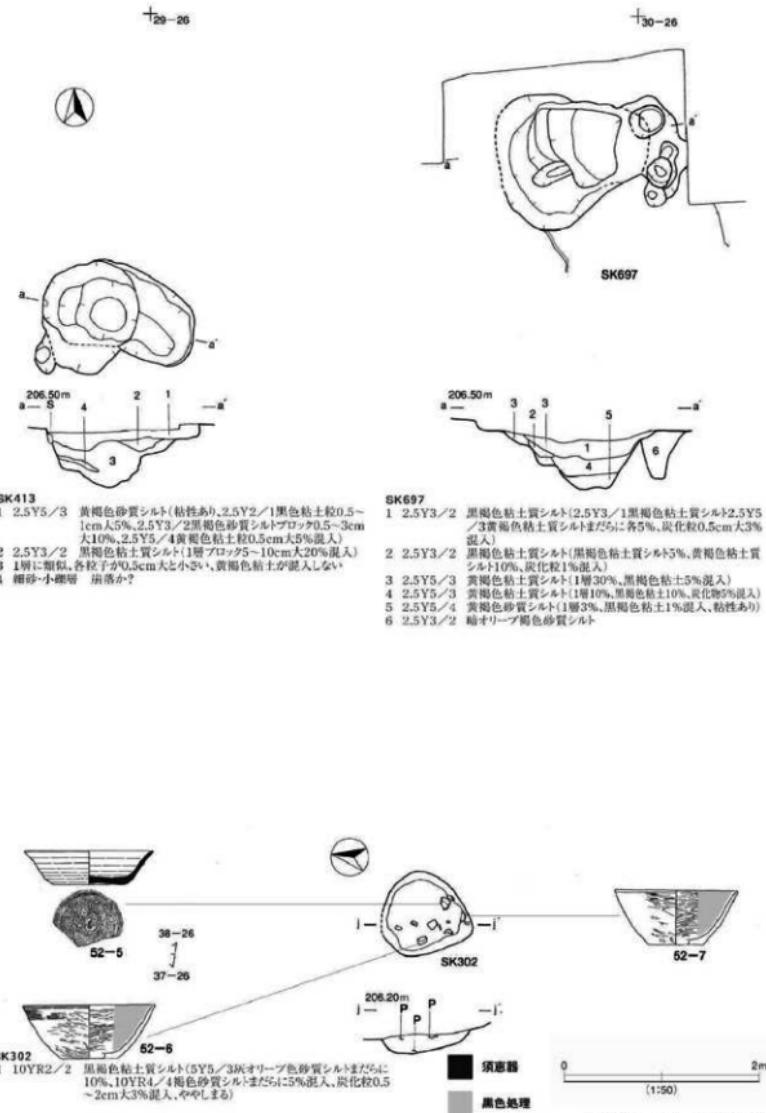
- 1 2.5Y3-/1 黒褐色細砂(2.5Y2-/1黒色粘土質シルト、土器片含まず)複数
- 2 2.5Y3-/1 黒褐色細砂質シルト(2.5Y2-/1黒色粘土質シルト、土器片含む)混入
- 3 2.5Y3-/2 黒褐色粘土質シルト
- 4 2.5Y3-/2 黒褐色細砂質シルト(粘性あり、10YR3-/1黒褐色粘土質シルトまだらに20%混入)
- 5 2.5Y3-/2 黒褐色細砂質シルト(4層に割れ、炭化物0.5cm大3%混入)
- 6 10YR2-/2 黒色粘土質シルト(6層5%混入)
- 7 2.5Y4-/3 オリーブ褐色砂質シルト(5層マーブル状に10%混入)
- 8 2.5Y3-/2 黑褐色細砂質シルト(炭化物0.1~0.5cm大10%、純土0.3cm大5%, 10YR4-/2灰褐色粘土質シルトに20%混入)
- 9 2.5Y3-/2 黑褐色細砂質シルト(粘性あり、炭化物0.5cm大3%, 10YR2-/1黒色粘土1%, 2.5Y4-/2灰褐色粘土質シルト10%、しまりがなくやわらかい)
- 10 11層に黒色粘土質シルト10%混入
- 11 8層に粗粒、斑味を帶びる、10YR2-/1黒色粘土質シルト
- 12 2.5Y4-/3 オリーブ褐色砂質シルト(2.5Y2-/1黒色粘土5%マーブル状に混入、2.5Y4-/1黄色砂質粘土マーブル状に5%混入)
- 13 9層に8層10%混入
- 14 ST749-29号
- 15 2.5Y3-/2 黑褐色砂質シルト(粘性あり、2.5Y3-/1黒褐色シルト混入)
- 16 2.5Y4-/3 オリーブ褐色砂質シルト(2.5Y3-/1黑褐色砂質シルト同色粘土まきこむように20%混入)
- 17 2.5Y3-/2 黑褐色粘土質シルト(2.5Y3-/1黒褐色砂質シルト同色粘土まきこむように10%、2.5Y4-/4オリーブ褐色細砂10%混入)
- 18 2.5Y4-/3 オリーブ褐色砂質シルト(2.5Y3-/1黒褐色砂質シルト同色粘土斑点状に3%混入)

0
2m
(1:50)

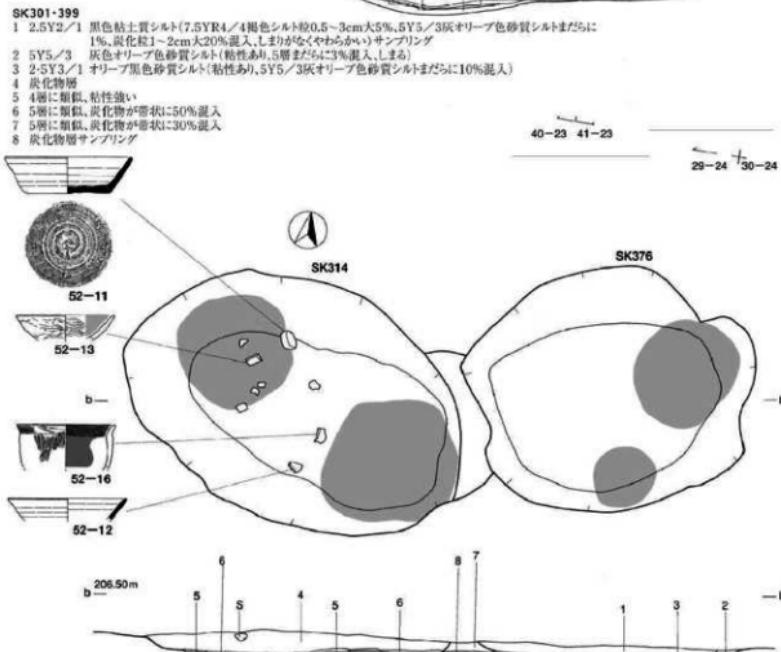
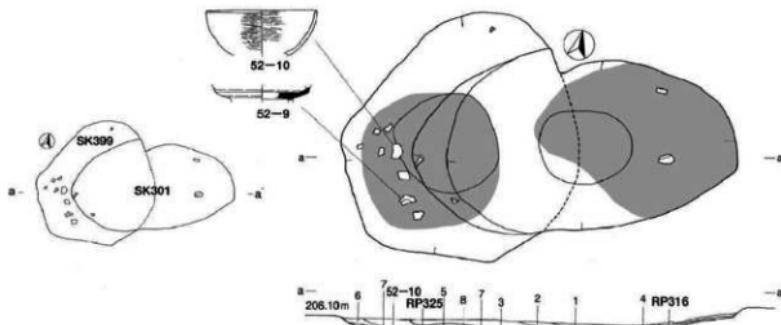
第37図 I区 ST749



第38図 I区 鉱状構造・土坑

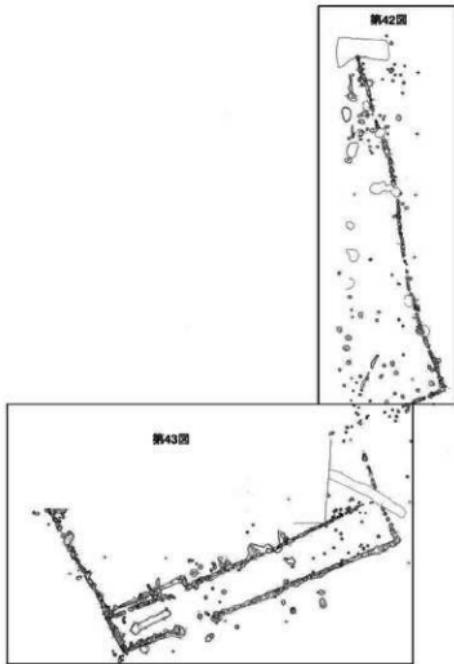


第39図 E区 SK413・697

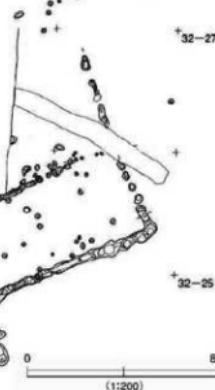
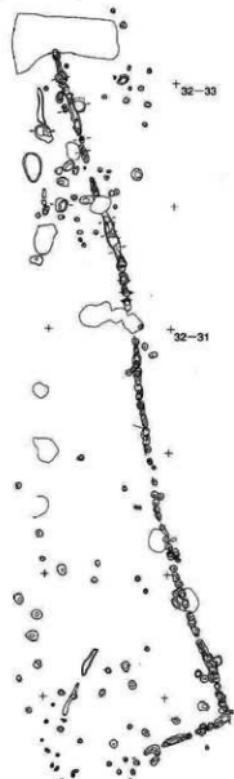


■ 病害器 ■ 煤付着 ■ 黒色処理 ■ 炭化物堆積

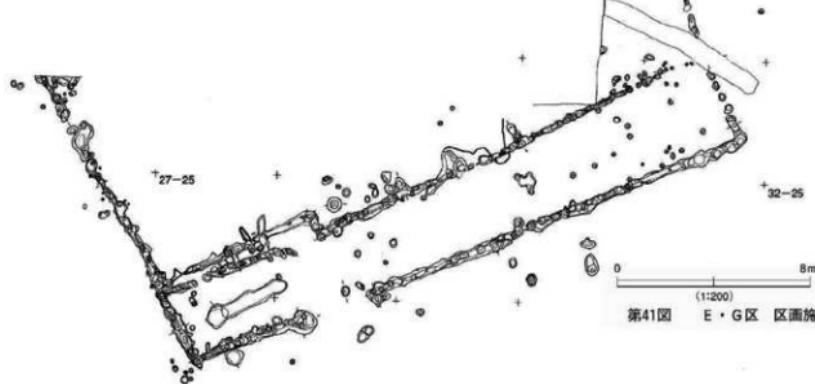
第40図 E区 SK301・302・314・376・399



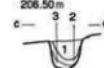
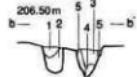
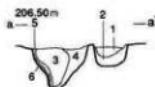
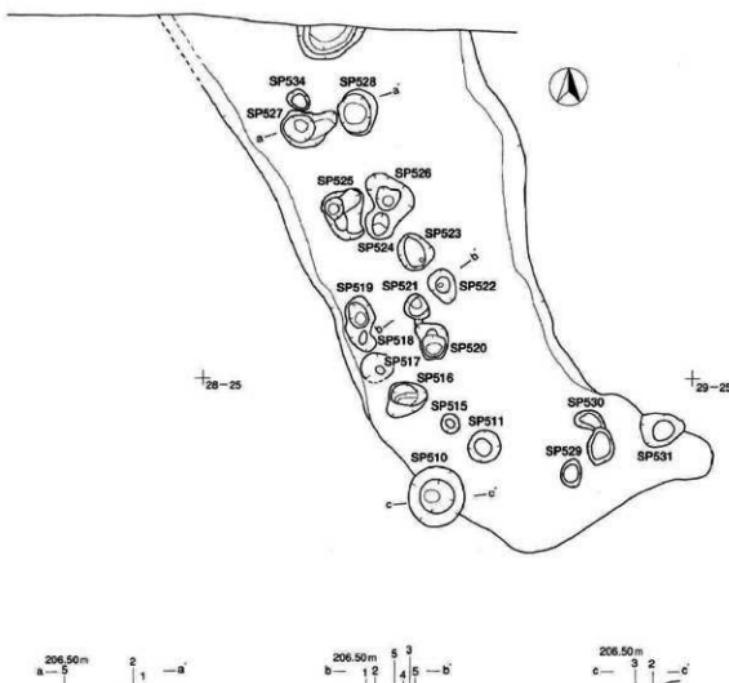
割付図



第41図 E・G区 区画施設全体図



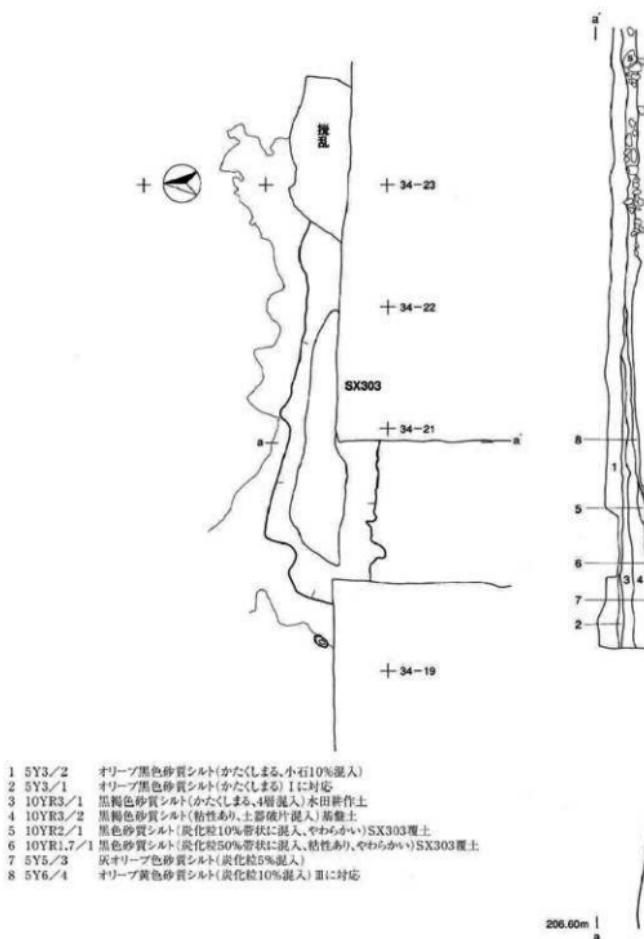
① 1 木の根掘土
2 2.5Y2'/1 黒褐色土質シルト(10YR3/1-1年耐候性土質シルトまだら5%、2.5Y5/3 黑褐色粘土質シルト3%、10YR2/2 黑褐色砂質シルト5%、炭化粒0.1~0.5cm大3%混入)
3 2.5Y2'/1 黑褐色土質シルト(10YR3/1-1年耐候性土質シルトまだら10%、2.5Y5/3 黑褐色粘土質シルト5%、10YR2/2 黑褐色砂質シルト5%、炭化粒0.1~0.5cm大1%混入)
4 10YR3/1-2 黑褐色土質シルト(2年耐候性10%、2.5Y5/3 黑褐色粘土質シルト10%、10YR2/2 黑褐色砂質シルト5%、炭化粒0.1~0.5cm大1%混入)
5 10YR2/1-2 黑褐色土質シルト(10%、2.5Y5/3 黑褐色粘土質シルト5%、10YR2/2 黑褐色砂質シルト5%、炭化粒0.1~0.5cm大1%混入)
6 10YR2/1 黑褐色土質シルト(2.5%、2.5Y5/3 黑褐色粘土質シルト20%、10YR2/2 黑褐色砂質シルト5%、炭化粒0.1~0.5cm大1%混入)
(2) 砂
1 2.5Y3'/1 黑褐色砂質シルト(活性あり、地山20%、炭化粒0.5cm大1%混入)
2 2.5Y3'/1 黑褐色砂質シルト(活性あり、1層0%、炭化粒0.1~0.5cm大1%混入)
3 2.5Y3'/2 黑褐色砂質シルト(活性あり、2層5%混入)
4 2.5Y3'/3 黑褐色砂質シルト(3%3%混入)
(3) 粘
1 2.5Y4'/2 黑褐色粘土質シルト(2層耐候性9%10%混入)
2 10YR2/1 黑褐色粘土質シルト(2.5%炭化粒1%混入)
3 2.5Y3'/1 黑褐色粘土質シルト(活性あり、地山20%、炭化粒0.5cm大1%混入)
4 2.5Y3'/2 黑褐色粘土質シルト(活性あり、地山20%、炭化粒0.5cm大1%混入)
5 10YR2/2 黑褐色砂質
6 2.5Y3'/2 黑褐色砂質シルト(2.5Y3/3 時オリーブ褐色砂10%、炭化粒1%、2層5%混入)
(4) 塵
1 2.5Y3'/1 黑褐色砂質シルト(活性あり、地山20%、炭化粒0.5cm大1%混入)
2 2.5Y3'/2 黑褐色砂質シルト(4%5%混入)
3 2.5Y4'/2 黑褐色砂質粘土質シルト(2.5Y3/2 黑褐色粘土質シルト0.1cm大20%、炭化粒0.5cm大1%混入)
4 2.5Y2'/1 黑褐色砂質シルト(活性あり、1層10%、炭化粒0.1~0.5cm大1%混入)
5 2.5Y3'/3 黑褐色砂質シルト(2%3%混入)
6 2.5Y2'/1 黑褐色砂質シルト
7 2.5Y3'/2 黑褐色砂質シルト(2.5Y3/3 時オリーブ褐色砂10%、炭化粒1%、2層5%混入)
(5) 粉
1 2.5Y4'/2 黑褐色粘土質シルト(2層耐候性9%10%混入)
2 2.5Y3'/1 黑褐色粘土質シルト(活性あり、地山20%、炭化粒0.5cm大1%混入)
3 2.5Y4'/3 オリーブ褐色粘土質シルト(2-4層各1%混入、かた(しまる))
4 2.5Y3'/2 黑褐色粘土質シルト(2.5Y3/3 時オリーブ褐色砂10%、炭化粒1%、2層5%混入)
(6) 粉
1 2.5Y4'/4 オリーブ褐色粘土質シルト
2 10YR2/2 黑褐色粘土質シルト(5%3%3%混入)柱根
3 2.5Y5'/4 黑褐色粘土質シルト(2-4層各1%混入、かた(しまる))
4 10YR2/2 黑褐色粘土質シルト(10YR3/1-1年耐候性土質シルト-2.5Y4/3+オリーブ褐色粘土質シルト)などに各1%混入、混入(かた(しまる))
5 10YR3/1-2 黑褐色粘土質シルト(10YR2/2 黑褐色粘土質シルト-0.5cm大3%、2.5Y4/3+オリーブ褐色粘土質シルト0.3cm大3%混入、かた(しまる))
6 2.5Y2'/1 黑褐色粘土質シルト(地山0.3cm大3%混入)
7 2.5Y3'/4 オリーブ褐色粘土質シルト(2-4層各1%混入、かた(しまる))
8 2.5Y4'/3 オリーブ褐色粘土質シルト(2-4層各1%混入、かた(しまる))
(7) 粉
1 2.5Y3'/3 時オリーブ褐色砂質シルト(2.5Y3/4+オリーブ褐色粘土質シルト10YR2/2+2層耐候性各10%混入)
2 10YR2/2 黑褐色砂質(1層5%混入)
3 2.5Y4'/2 黑褐色砂質シルト(2層5%混入)
(8) 砂
1 10YR2/2 黑褐色砂質(3層ブロック約10%、炭化粒1cm大1%混入)
2 地山(まき土)
3 2.5Y2'/1 黑褐色砂質シルト(活性あり、地山20%、炭化粒0.5cm大1%混入)
4 10YR2/2 黑褐色砂質(3層ブロック約5%、炭化粒1~2cm大5%混入)
5 10YR2/1 黑褐色粘土質シルト(3%20%混入)
6 10YR2/1 黑褐色粘土質シルト(4%10%、炭化粒0.5cm大1%混入)
7 地山(まき土5%混入)
8 地山(まき土3%混入)
(9) 粉
1 10YR2/2 黑褐色砂質(1層ブロック約5%、炭化粒1~2cm大5%混入)
2 10YR2/1 黑褐色粘土質シルト(1層20%混入)
3 SD408覆土層に地盤、地山が20%混入
4 10YR2/1 黑褐色粘土質シルト(1層10%混入)
(10) 粘
1 黒褐色砂質シルト(10YR1/1-1年耐候性土質シルトまだら5%5%5%、1層20%混入)
2 2.5Y4'/2 黑褐色砂質シルト(2層10%、1層5%混入)
3 2.5Y4'/2 黑褐色砂質シルト(1層5%混入)
(11) 粘
1 2.5Y3'/2 黑褐色砂質シルト(2.5Y5/3 黑褐色粘土質シルトブロック2cm大3%、10YR4/4 黑褐色粘土質シルトブロック2cm大3%混入)
2 2.5Y3'/2 黑褐色砂質シルト(2.5Y5/3 黑褐色粘土質シルト0.5~2cm大3%、炭化粒0.5~1cm大3%混入)
3 10YR2/1 黑褐色砂質シルト(地山0.3cm大3%、炭化粒0.5cm大3%混入)
4 10YR2/1 黑褐色砂質シルト(2.5Y5/3 黑褐色粘土質シルト5cm大10%混入)
5 2.5Y3'/1 黑褐色砂質シルト(活性あり、2.5Y2/1 黑褐色粘土質シルトまだら5%、10YR3/2 黑褐色粘土質シルト(活性あり)5%12%混入、炭化粒0.5~1cm大3%混入)
6 2.5Y3'/1 黑褐色砂質シルト(活性あり、2.5Y2/1 黑褐色粘土質シルト1%、炭化粒0.5~1cm大1%混入)
7 2.5Y3'/2 黑褐色砂質シルト(活性あり、2.5Y2/1 黑褐色粘土質シルト1%、炭化粒0.5~1cm大1%混入)
8 3層に2.5Y5/ 黑褐色粘土質シルト(20%混入)
9 10YR3/2 黑褐色砂質シルト(活性あり、地山まだら5%、炭化粒0.5cm大3%混入)
10 10YR2/2 黑褐色粘土質シルト(10YR3/2 黑褐色砂質シルトまだら5%、炭化粒0.1~0.5cm大3%混入)
11 2.5Y4/2 黑褐色粘土質シルト(2.5Y3/2 黑褐色粘土質シルト-2.5Y3/3時オリーブ褐色砂質シルト各々まだら10%、地山まだら5%、炭化粒0.5cm大3%混入)
12 2.5Y3'/2 黑褐色粘土質シルト(純粹)
13 2.5Y3'/2 黑褐色粘土質シルト(10YR2/2 黑褐色砂質シルト14層まだら5%、炭化粒0.5cm大3%混入)
14 2.5Y3'/2 黑褐色粘土質シルト(混入物は11層に類似)
15 SD408(5%混入)
16 7と粗粒、粉質が有り
17 7と粗粒、粉質が有り
(12) 粉
1 2.5Y3/3 時オリーブ褐色砂質シルト(2.5Y4/3+オリーブ褐色粘土質シルト-10YR2/2 黑褐色砂質各5%10%混入)
2 10YR2/2 黑褐色砂質(1層5%混入)
V-V'帯
1 2.5Y3/1 黑褐色砂質シルト(活性あり、地山20%、炭化粒0.5cm大1%混入)
2 2.5Y2/1 黑褐色砂質シルト(活性あり、1層10%、炭化粒0.1~0.5cm大1%混入)
3 地山(1層10%混入)
4 2.5Y2/1 黑褐色砂質シルト(活性あり、1層10%、炭化粒0.1~0.5cm大1%混入)
5 10YR2/2 黑褐色粘土質シルト(10YR3/1-1年耐候性粘土質シルト-2.5Y4/3+オリーブ褐色粘土質シルト)などに各10%混入、かた(しまる)
6 2.5Y3/1 黑褐色砂質シルト(活性あり地山(1層10%混入)などに各10%混入、かた(しまる))
7 2.5Y4/3 オリーブ褐色粘土質シルト(2-4層各5%3%混入、かた(しまる))
8 10YR2/1 黑褐色粘土質シルト(活性あり、地山10%、炭化粒3%混入)
SD408(7層)
9 10YR2/2 黑褐色砂質シルト(活性あり、10YR3/3 時オリーブ砂質シルト5%5%5%混入)
10 2.5Y4/2 黑褐色砂質シルト(活性あり、10YR3/3 時オリーブ砂質シルト0.5~1cm大3%混入)
11 2.5Y4/3 オリーブ砂質シルト(活性あり、10YR3/3 時オリーブ砂質シルト10%混入、しまる)
12 2.5Y3/2 黑褐色砂質シルト(活性あり、地山(0.2~0.3m大10%混入)柱根)などに各5%混入、かた(しまる)
13 2.5Y4/2 黑褐色砂質シルト(活性あり、10YR3/3 時オリーブ砂質シルト5%5%5%混入)
14 2.5Y4/2 黑褐色砂質シルト(活性あり、10YR3/3 時オリーブ砂質シルト5%5%5%混入)
15 2.5Y4/2 黑褐色砂質シルト(活性あり、地山0.5m大30%混入)
16 2.5Y3/1 黑褐色砂質シルト(活性あり、地山0.5m大30%混入)
17 10YR2/1 黑褐色粘土質シルト(土器片入りかた(しまる))
2 地山(基礎順序層)に1層5%まだらに混入
18 1 地山(地盤)が50%混入
2 2.5Y4/2 黑褐色砂質シルト(10YR2/1 黑褐色粘土質シルトまだら5%混入、しまる(が))
3 2.5Y4/2 黑褐色砂質シルト(地盤入りかた(しまる))
4 2.5Y4/2 黑褐色砂質シルト(活性あり、2.5Y2/1 黑褐色粘土質シルトまだら5%、10YR3/2 黑褐色粘土質シルトまだら5%混入、炭化粒0.5~1cm大3%混入)
5 2.5Y4/2 黑褐色砂質シルト(活性あり、地山0.5m大30%混入)
6 2.5Y3/1 黑褐色砂質シルト(活性あり、地山0.5m大30%混入)
7 10YR2/1 黑褐色粘土質シルト(土器片入りかた(しまる))
8 2 地山(基礎順序層)に1層5%まだらに混入
9 1 地山(地盤)が50%混入
10 2.5Y4/2 黑褐色砂質シルト(10YR2/1 黑褐色粘土質シルトまだら5%混入、しまる(が))
11 2.5Y4/2 黑褐色砂質シルト(地盤入りかた(しまる))
12 2.5Y4/2 黑褐色砂質シルト(活性あり、10YR3/2 黑褐色粘土質シルトまだら5%混入、しまる(が))
13 2.5Y3/3 時オリーブ褐色砂質シルト(活性あり、2層5%まだら10%混入、しまる(が))
14 2.5Y4/2 黑褐色砂質シルト(活性あり、10YR3/2 黑褐色粘土質シルトまだら5%混入)
15 2.5Y4/2 黑褐色砂質シルト(活性あり、10YR3/2 黑褐色粘土質シルト5%6%6%混入)
16 2.5Y4/2 黑褐色砂質シルト(活性あり、10YR3/2 黑褐色粘土質シルト5%6%6%混入)



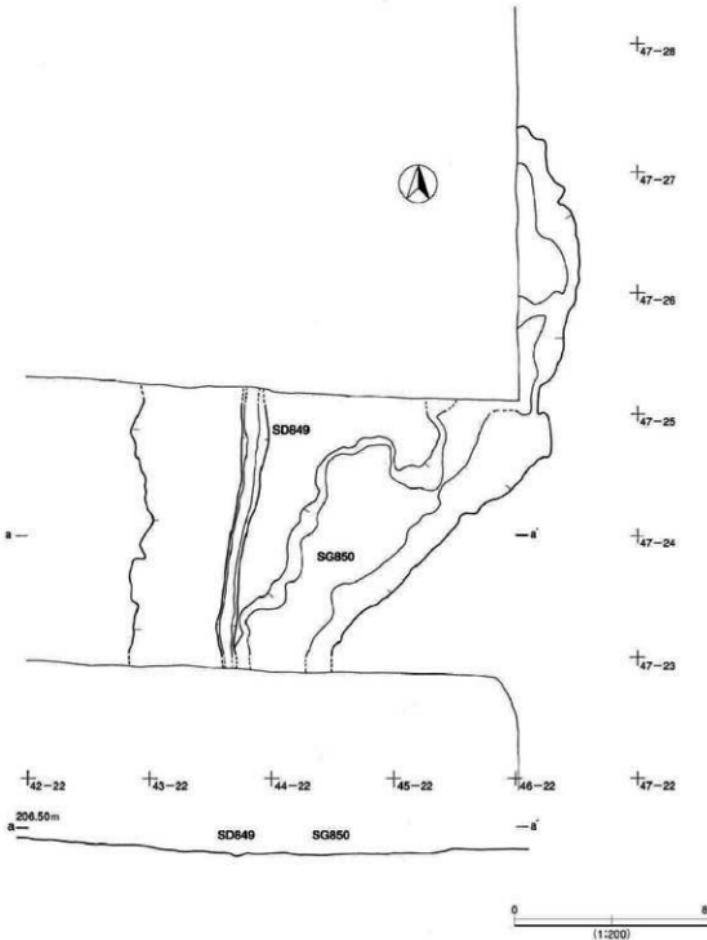
- a**
- 1 7.5Y3/2 オリーブ黒色砂質シルト(炭化粒子0.5cm10%混入、やわらかくしまりなし)
 - 2 7.5Y5/2 深オリーブ色砂質シルト(やや粘性あり)
 - 3 7.5Y3/1 オリーブ黒色砂質シルト(炭化粒子50%帯状混入、しまりある)
 - 4 5Y6/3 オリーブ黄色砂質シルト
 - 5 5Y5/2 深オリーブ色砂土質シルト(やわらかくしまりなし)
 - 6 5Y6/1 黄色砂質シルト
- b**
- 1 2.5Y3/1 黒褐色粘土質シルト(やわらかい(ほば純特)柱痕跡)
 - 2 塚山(1)層3%混入、かたくしまる
 - 3 2.5Y2/1 黑色粘土質シルト(やわらかい(ほば純特)柱痕跡)
 - 4 2.5Y2/1 黑色砂質シルト(やわらかく(ほば純特)柱痕跡)
 - 5 塚山(1)層3-4層3%混入、かたくしまる
- c**
- 1 7.5Y3/1 オリーブ黒色砂質シルト(炭化粒子50%混入、粘性あり)
 - 2 7.5Y4/2 深オリーブ色砂質シルト(炭化粒子20%0.5~1cm大混入)

0 2m
(1:50)

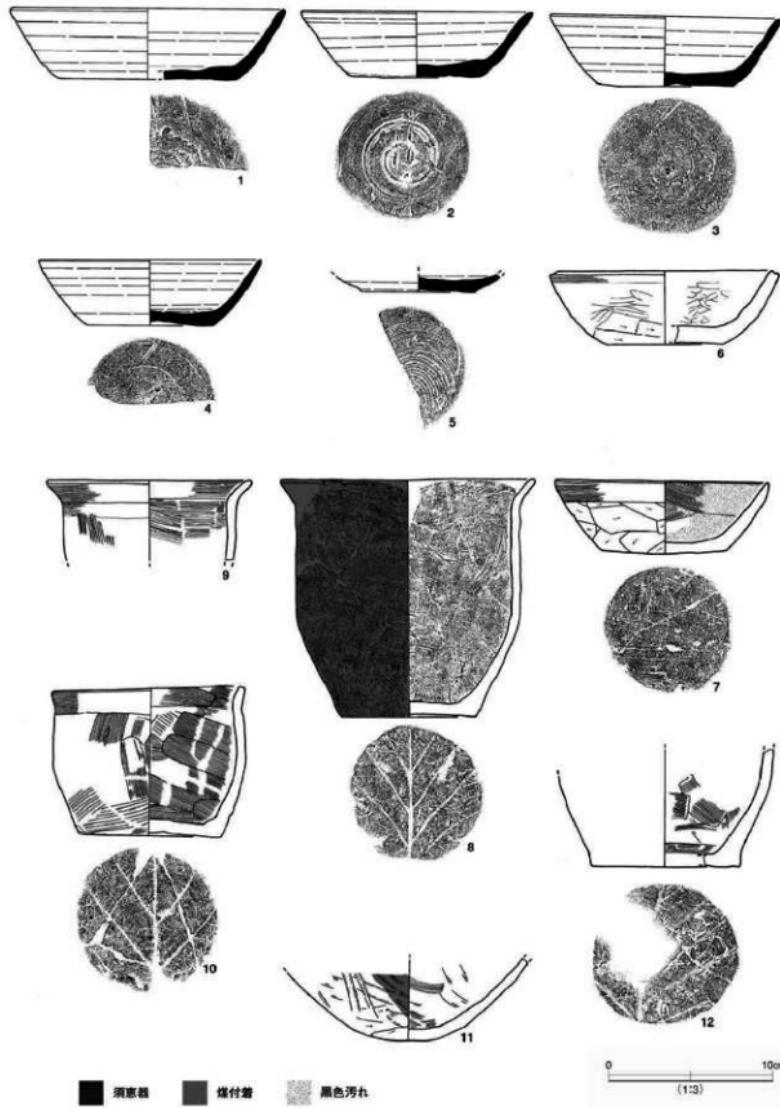
第44図 E区 柱穴列



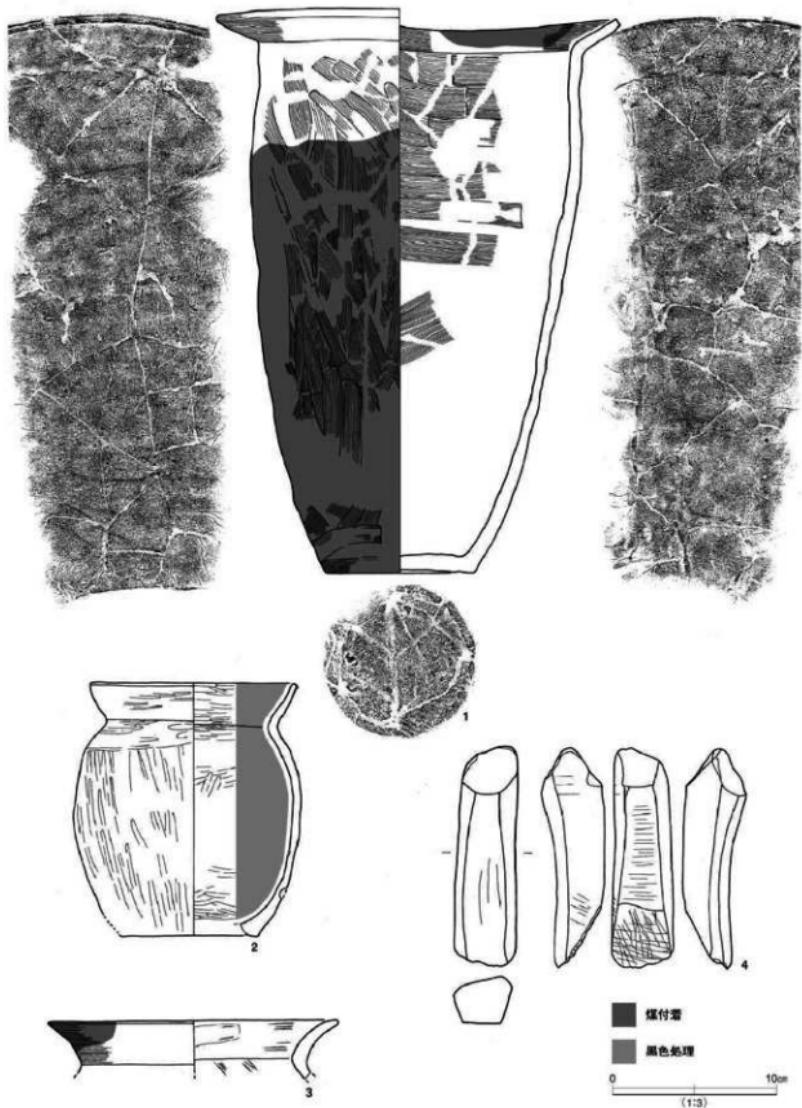
第45図 E区 SX303



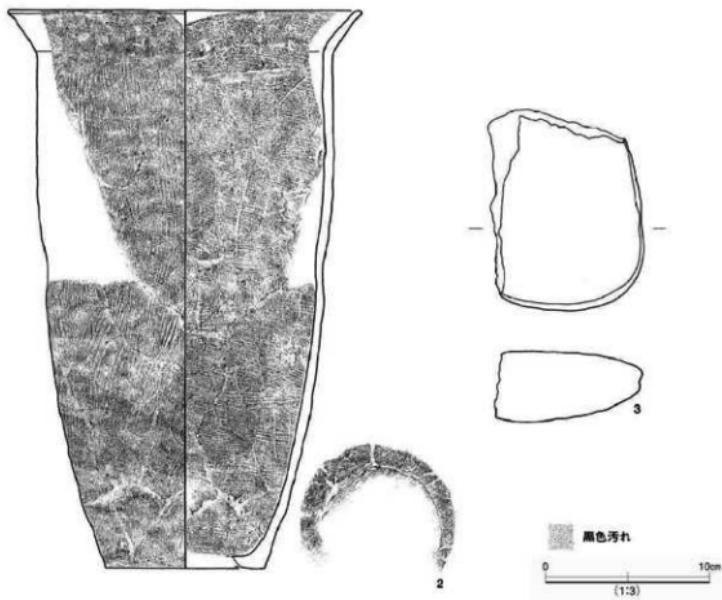
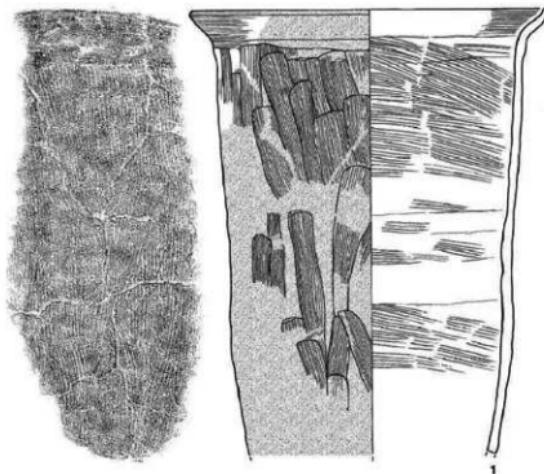
第45図 E区 河川



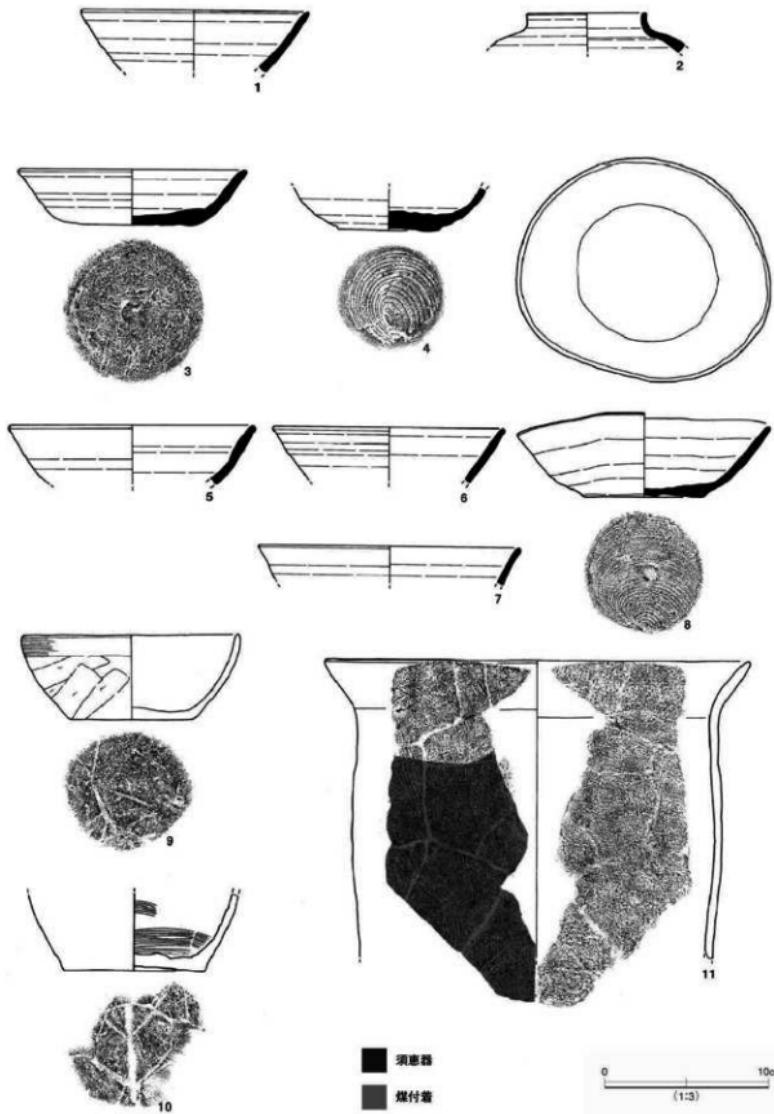
第47図 遺物実測図 (9) ST774



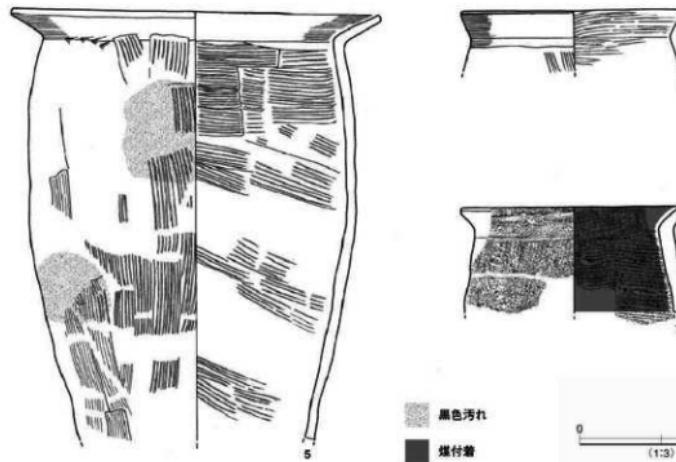
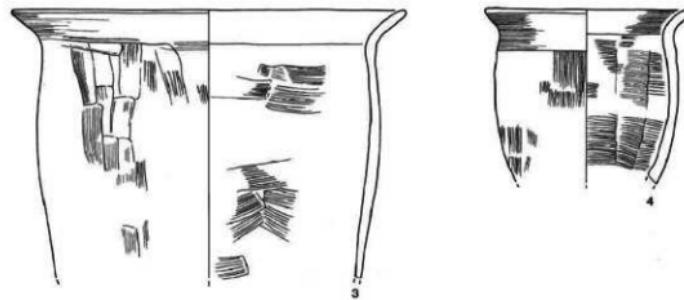
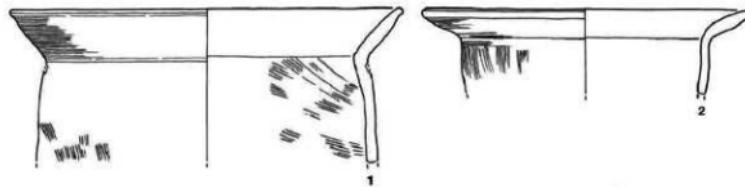
第48図 遺物実測図 (10) ST774



第49図 遺物実測図 (11) ST774



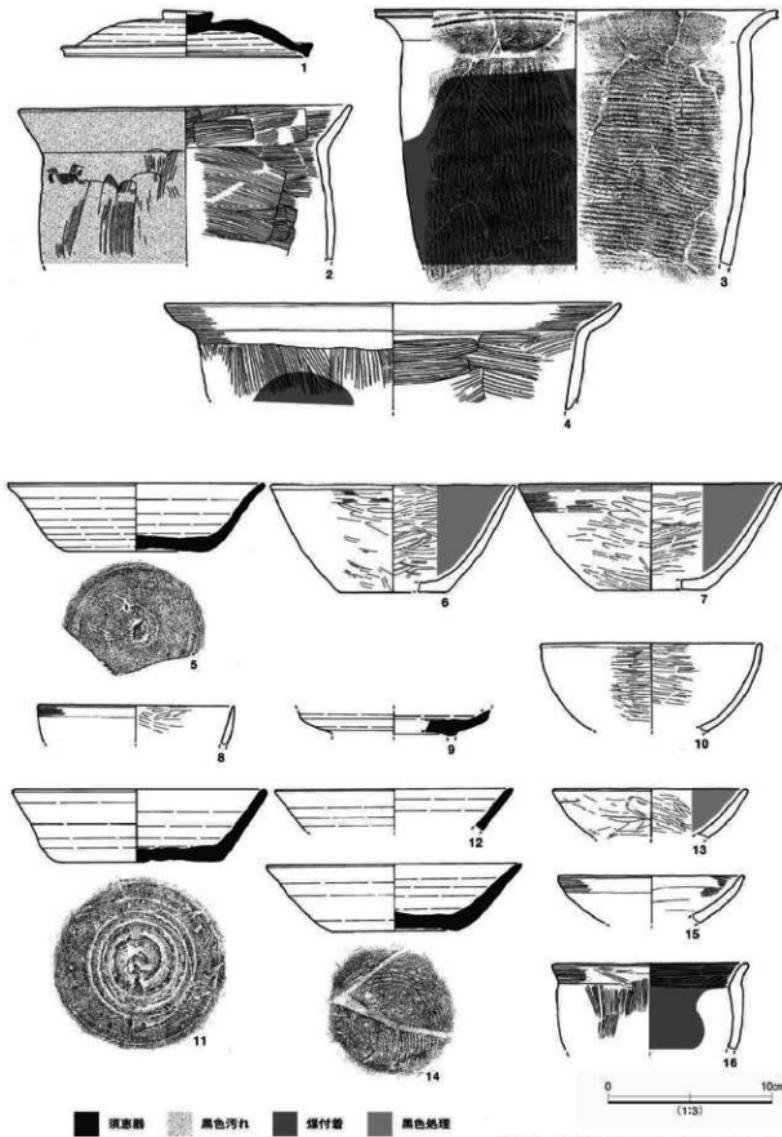
第50図 遺物実測図 (12) ST749・SK806～808



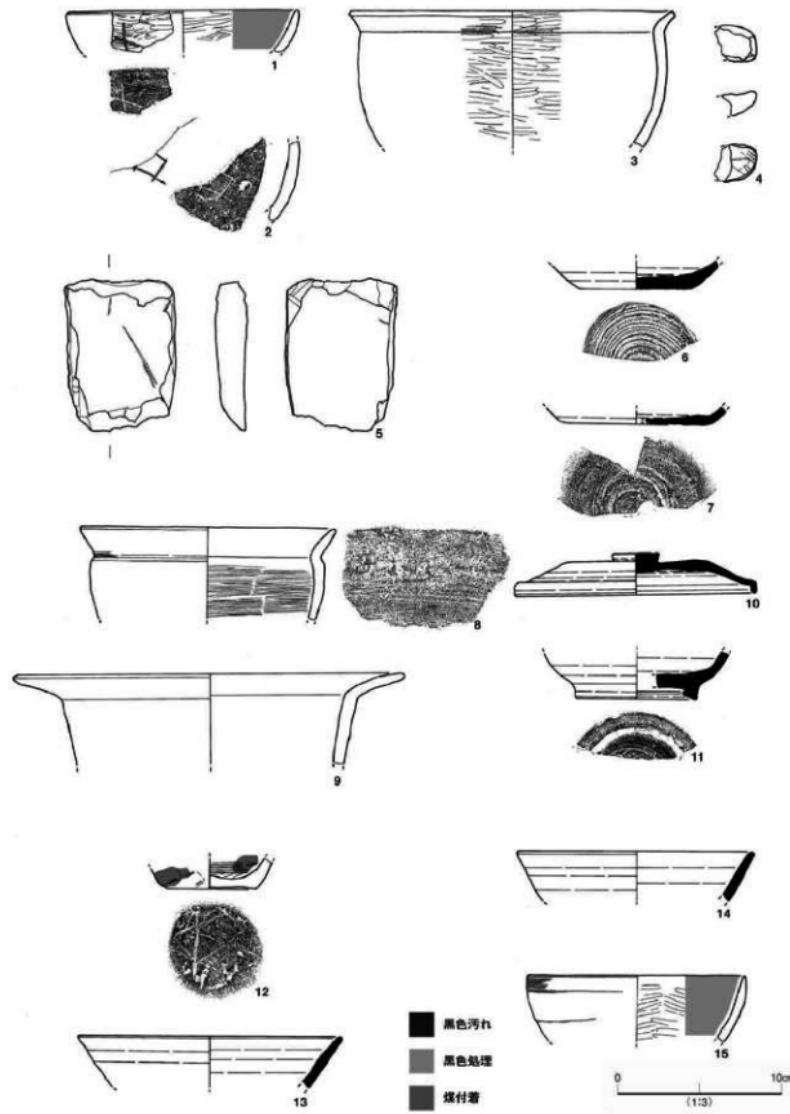
■ 黒色汚れ
■ 煤付着

0 10cm
(1:3)

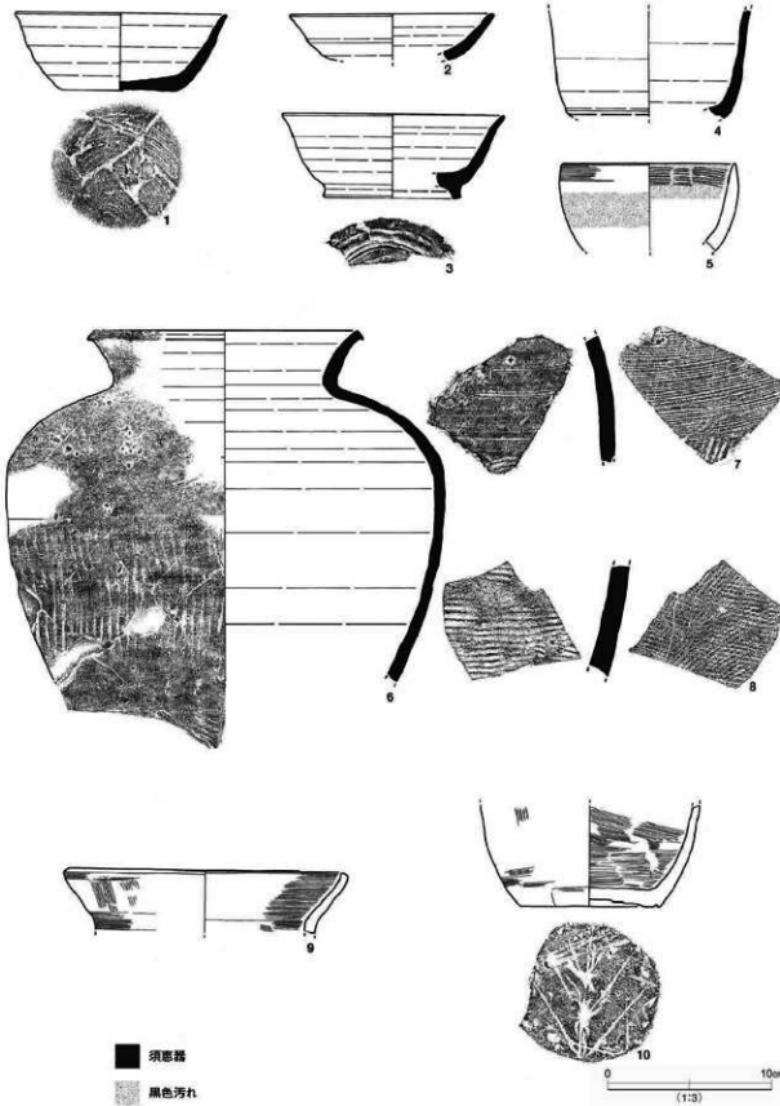
第51図 遺物実測図 (13) ST749・SK806~808



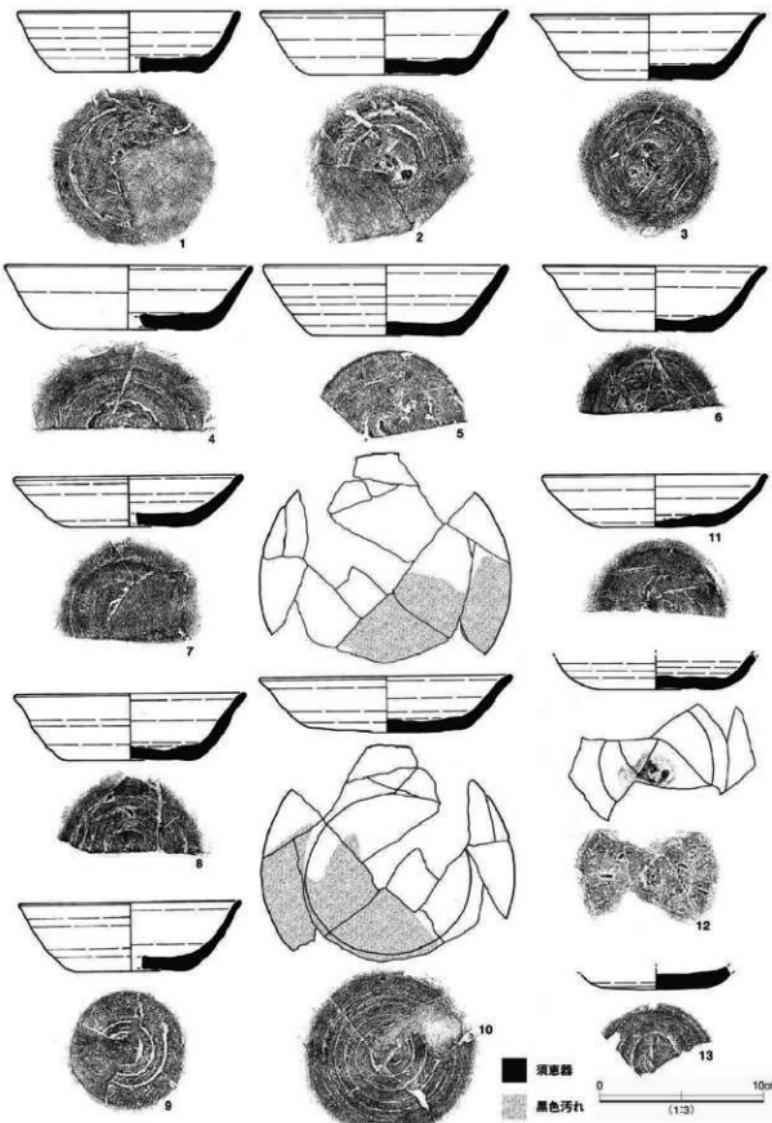
第52図 遺物実測図 (14) ST749・SK・SD



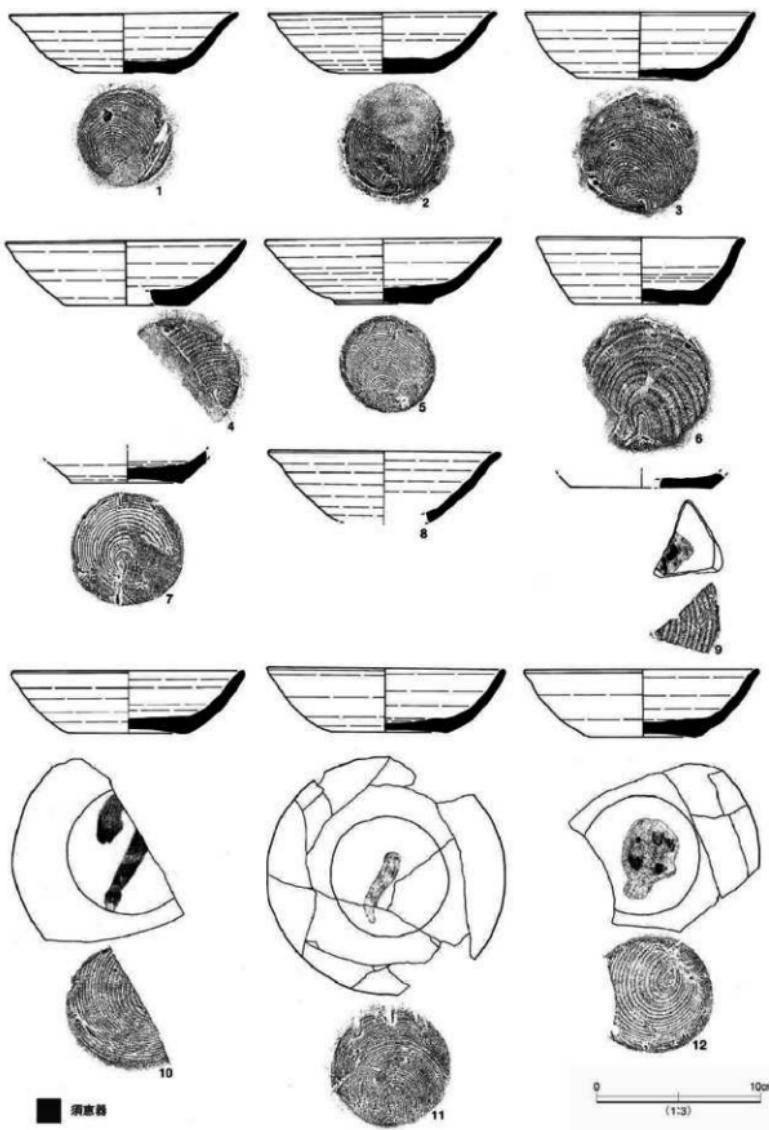
第53図 遺物実測図 (15) SK・SD



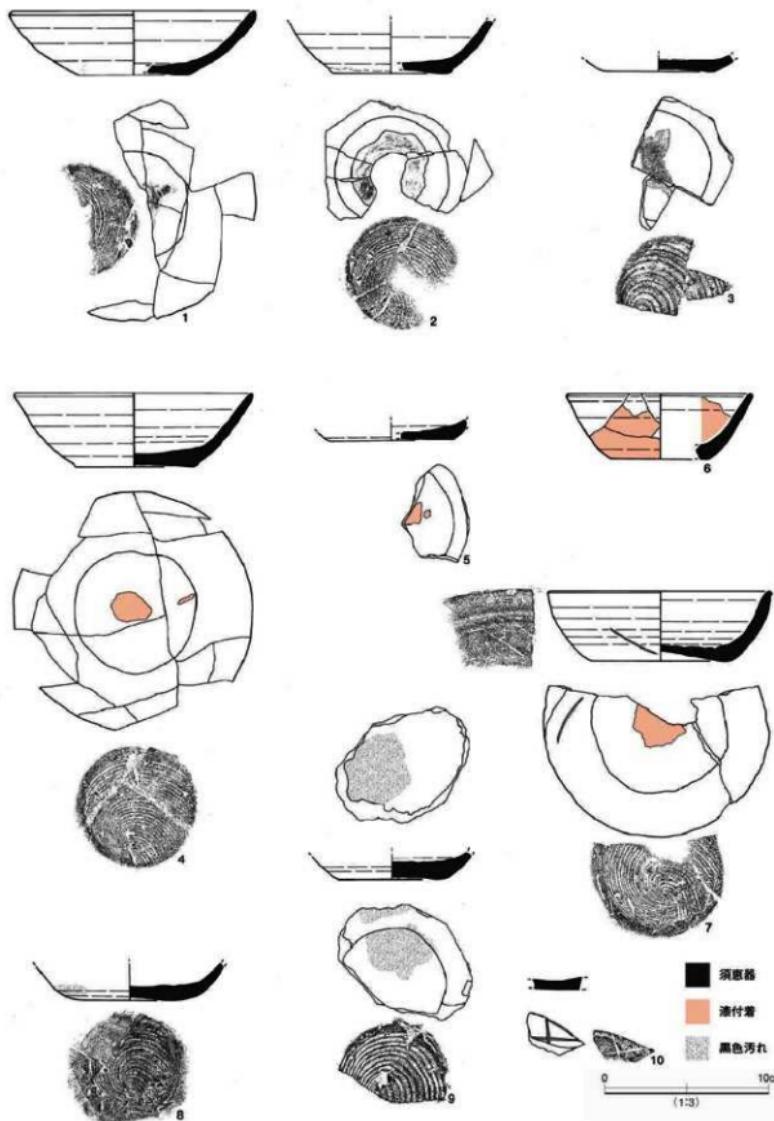
第54図 遺物実測図 (16) SP



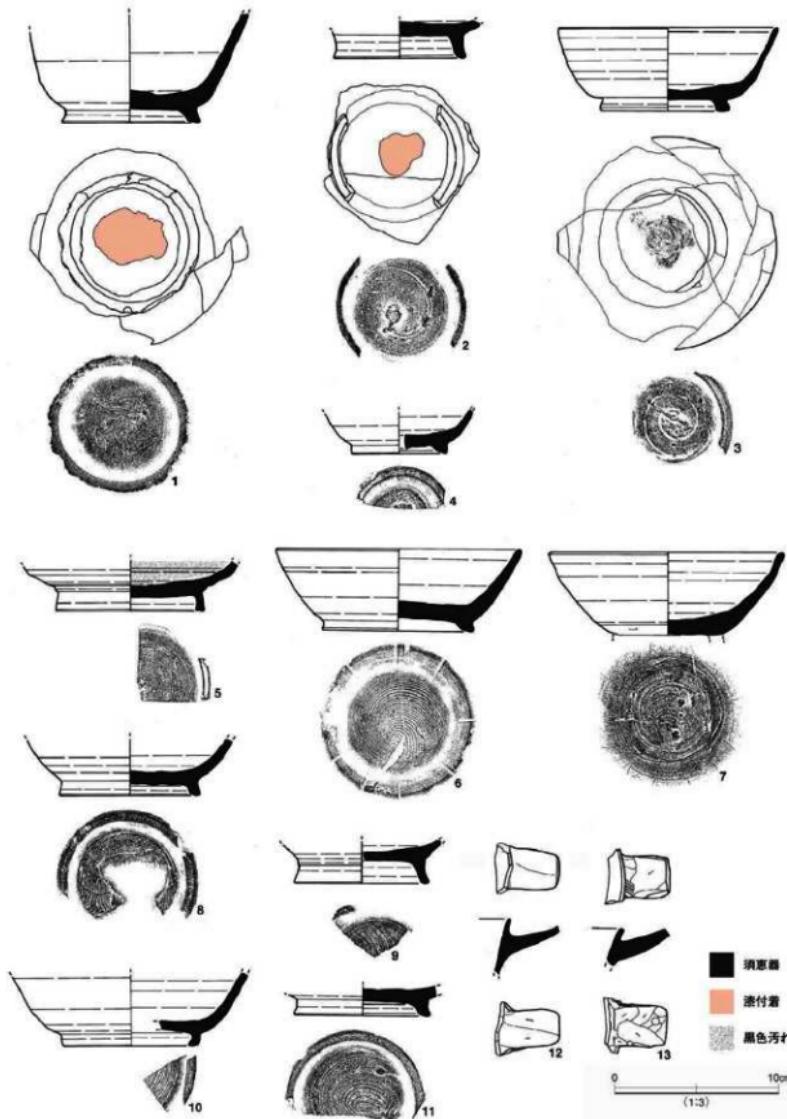
第55図 遺物実測図 (17) SX303



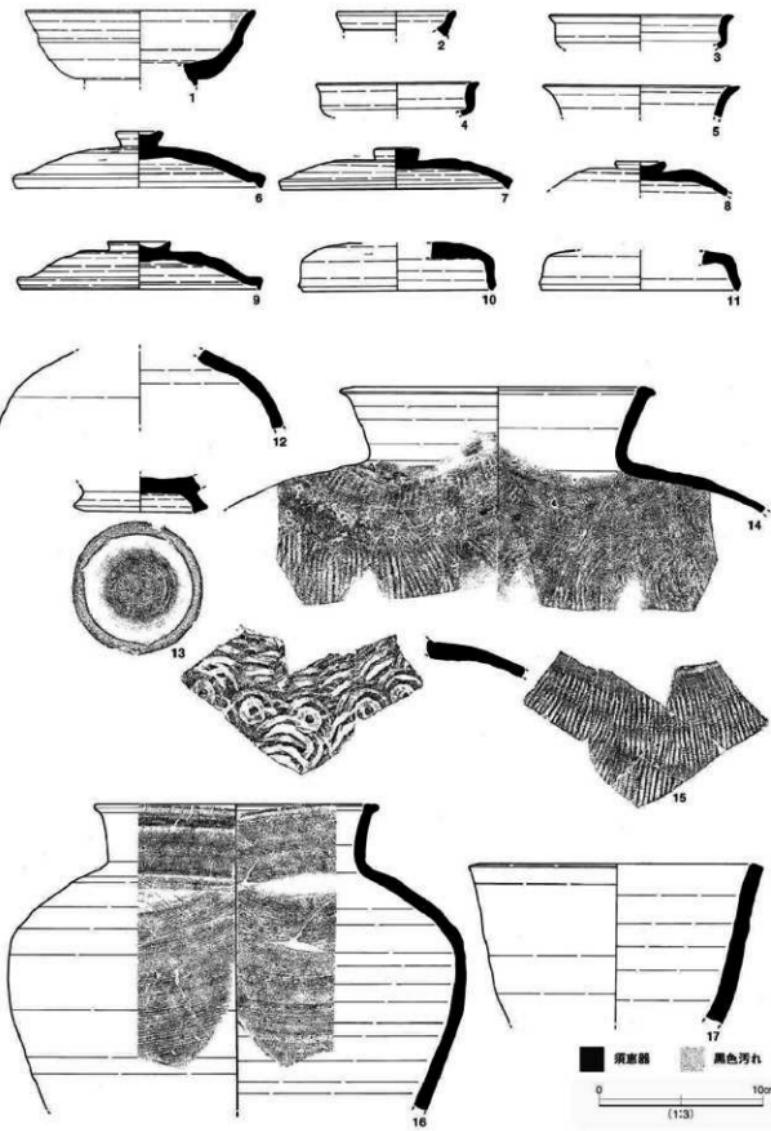
第56図 遺物実測図 (18) SX303



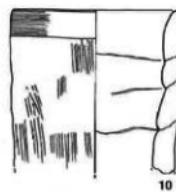
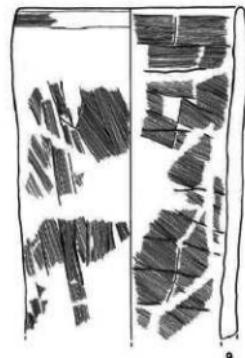
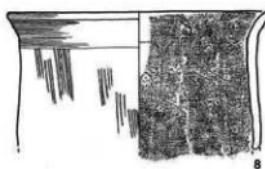
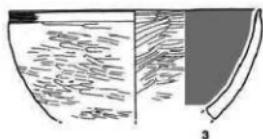
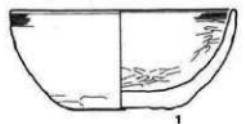
第57図 遺物実測図 (19) SX303



第58図 遺物実測図 (20) SX303



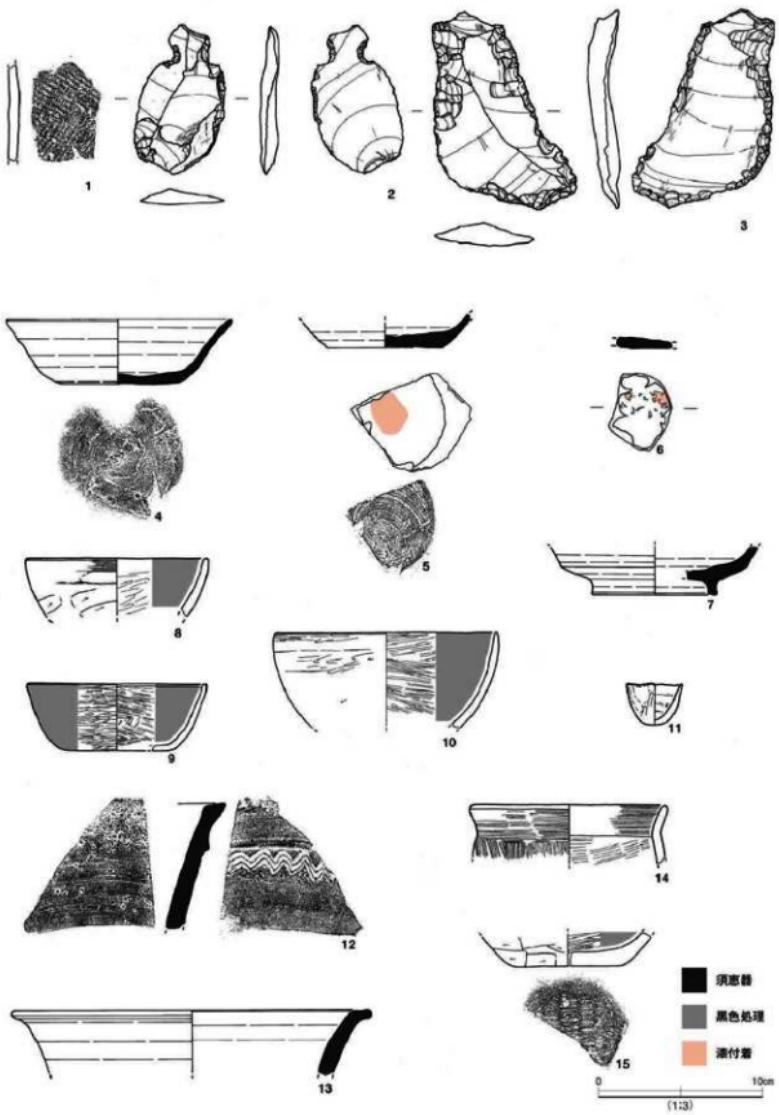
第59図 遺物実測図 (21) SX303



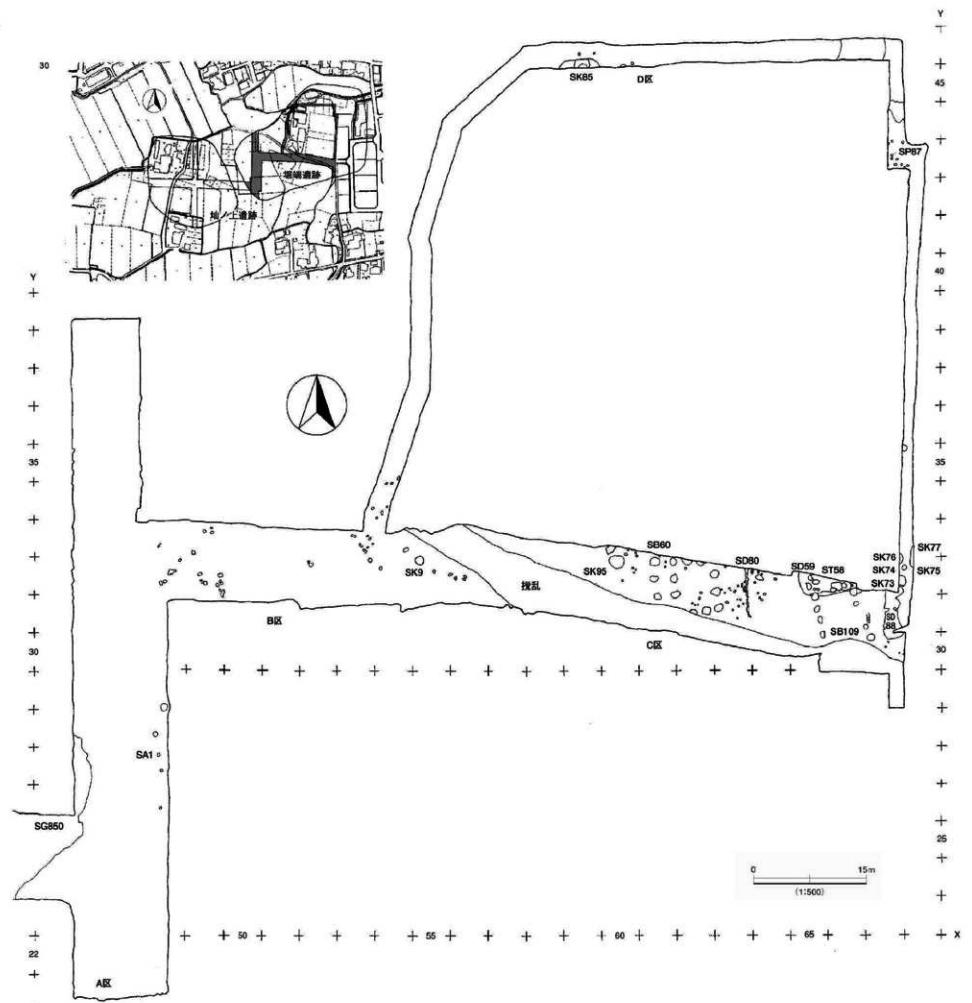
■ 黒色処理

0 10cm
(1:3)

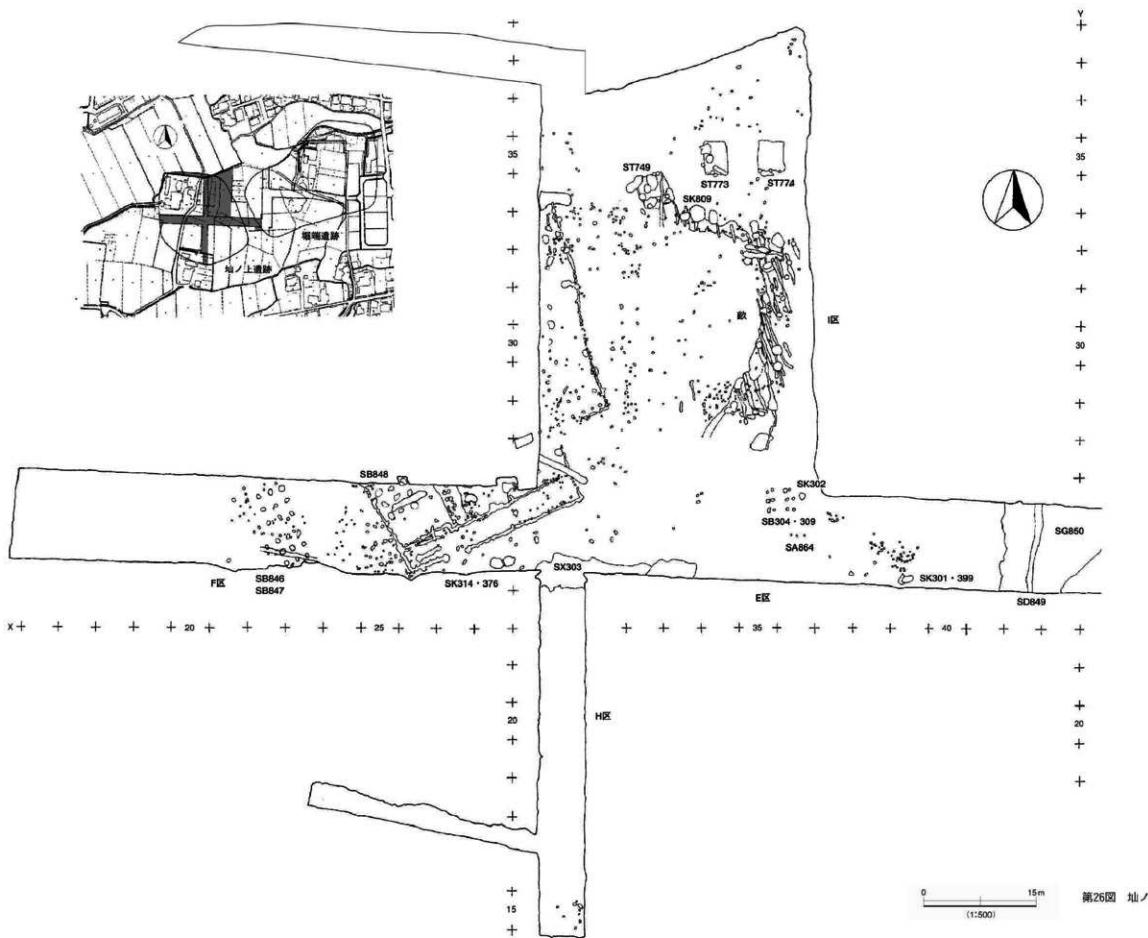
第50図 遺物実測図 (22) SX303



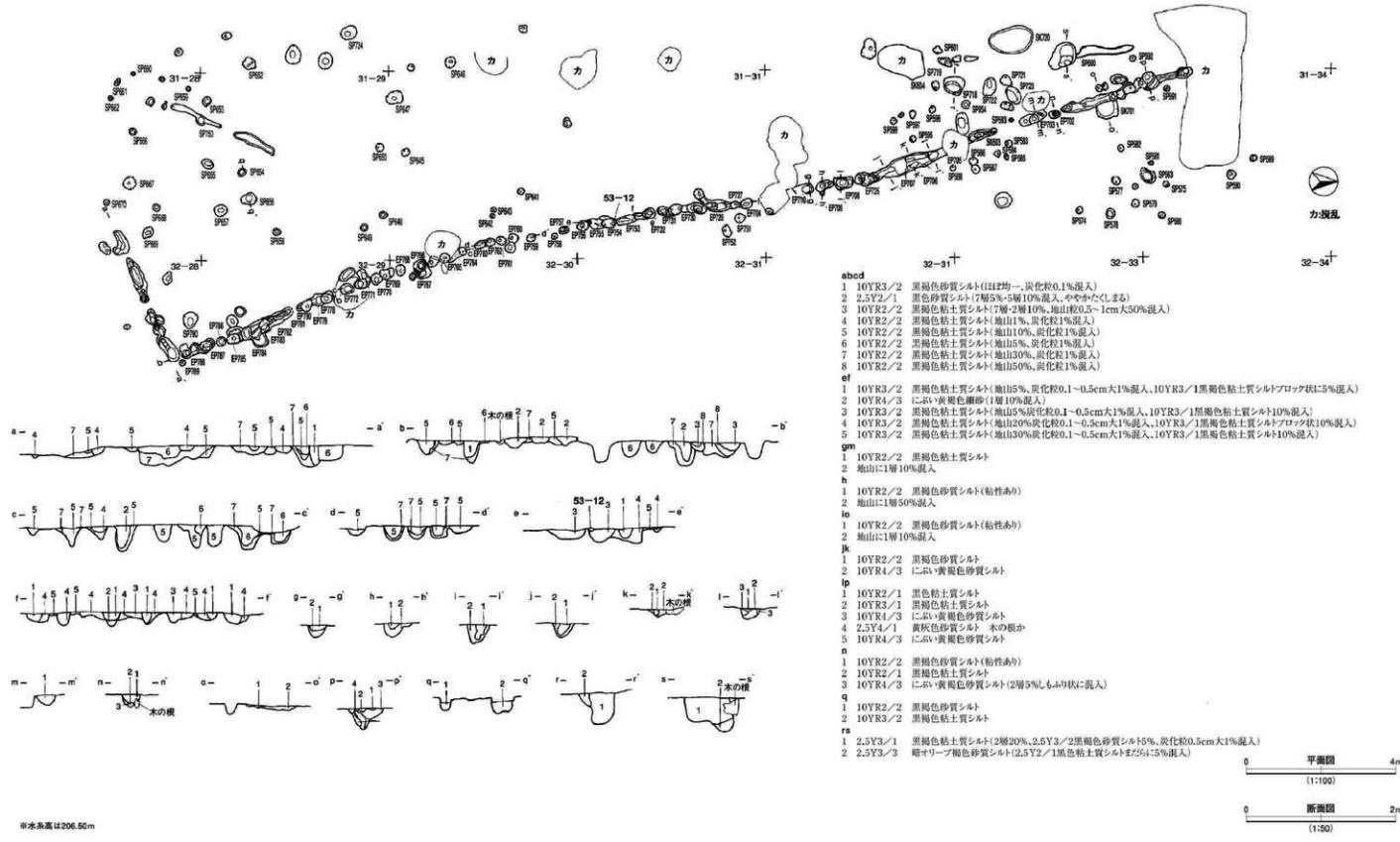
第61図 遺物実測図 (23) 遺構外



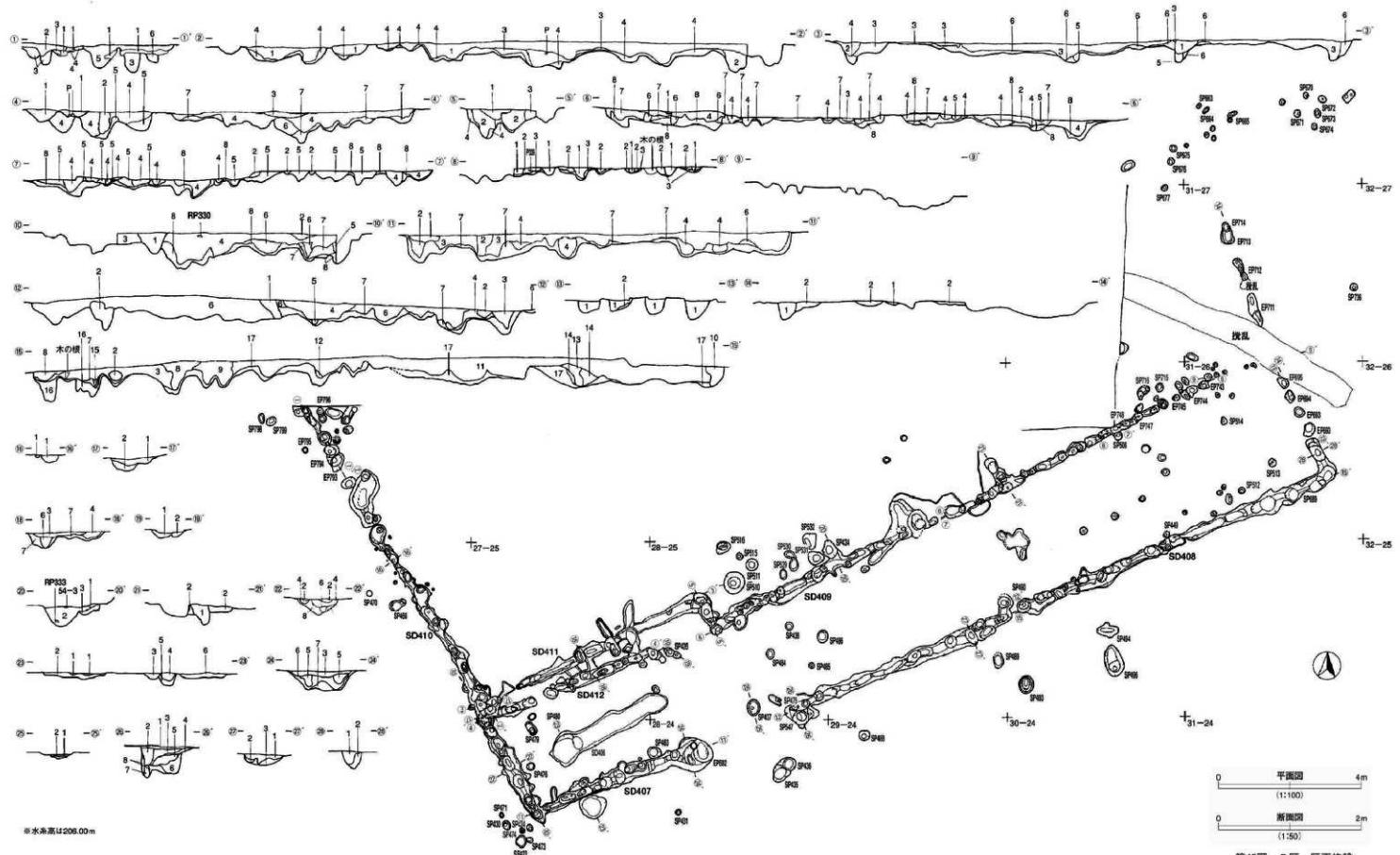
第9図 堀端道路遺構配置図 (A～C区)



第26図 地ノ上道路構造配置図



第42図 G区・断面施設



第43図 E区 区画施設

表1 遺物觀察表

図版番号	遺物番号	写真図版	出土場所	登録番号 R P・R Q	出土遺構	層位	グリッド	種別	器種
18 1	13	C	36	ST58	F1	66-32		須恵器	無台坏
18 2	13	C		ST58・SK91	F1	65-66-32		須恵器	無台坏
18 3	13	C	34	ST58	F1	66-32		須恵器	無台坏
18 4	13	C	35	ST58	F1	66-32		須恵器	無台坏
18 5	13	C	2	ST58	F1	65-66-32		須恵器	無台坏
18 6	13	C	9	ST58	F1	66-32		須恵器	無台坏
18 7	13	C	31	ST58	F1	65-32		須恵器	無台坏
18 8	13	C	3	ST58	F1	65-32		須恵器	無台坏
18 9	13	C	15・16・23周辺	ST58・EL94	F1	66-32		須恵器	無台坏
18 10	13	C		ST58・SK93	F	66-32		須恵器	無台坏
18 11	13	C	13	ST58	F1	65-32		須恵器	無台坏
18 12	13	C	33	ST58	F1	66-32		須恵器	稜鏡
18 13	13	C	30	ST58	F	65-32		須恵器	有台坏
18 14	13	C		ST58	F1	66-32		須恵器	稜鏡
18 15	13	C		SD59・ST58	F1	65-32		須恵器	稜鏡
18 16	13	C		ST58	Y	66-32		須恵器	稜鏡
19 1	13	C		ST58・SK97	Y	65-32		須恵器	壺
19 2	13	C	18	ST58・EL94	F1	66-32		須恵器	壺
19 3	14	C		ST58・SK92	F	67-66-31		須恵器	壺
19 4	14	C	29	ST58	F1	65-32		須恵器	壺
19 5	14	C	20	ST58	F1	66-32		須恵器	壺
19 6	14	C	37周辺	ST58・SK92	F1	66-32		土師器	無台坏
19 7	14	C	29	ST58	F1	65-32		土師器	無台坏
19 8	14	C	25周辺	ST58	F1	66-32		土師器	無台坏
19 9	14	C		ST58	F1	65-32		土師器	無台坏
19 10	14	C	22周辺	ST58	F1	66-32		土師器	無台坏
19 11	14	C		ST58	YのF	65-66-32		土師器	無台坏
19 12	14	C	29	ST58	F1	65-32		黒色土器	無台坏
19 13	14	C	17周辺 12周辺	ST58	F1	66-32		土師器	無台坏
19 14	14	C		ST58・SD59	F1	65-66-32 65-32		土師器	無台坏
19 15	14	C	29	ST58	F1	65-32		黒色土器	無台坏
19 16	14	C	21周辺	ST58	F1	66-32		土師器	無台坏
19 17	14	C		ST58	F1	66-32		黒色土器	鉢
19 18	14	C	11	ST58	F1	66-32		黒色土器	無台坏
19 19	14	C	29	ST58	F1	65-32		黒色土器	無台坏
19 20	15	C		ST58・SK97	F	65-32		土師器	双耳坏
19 21	15	C	5	ST58	F1	66-32		黒色土器	鉢
19 22	15	C		ST58・SK97	F	65-32		土師器	双耳坏
20 1	15	C		ST58・SK91	F	65-66-32		土師器	壺
20 2	15	C	29	ST58	F1	65-32		土師器	壺
20 3	15	C	32	ST58	F1	66-32		土師器	壺
20 4	15	C	8	ST58	F1	66-32		土師器	壺

口径 mm	底径 mm	器高 mm	色調	胎 泥入物	内面	外面	底部	備考	図版 番号	遺物 番号
146	88	40	灰黄	普通	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り		18 1	
(156)	(88)	43	白黄	普通	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り	施成不良	18 2	
160	106	34	灰	普通	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り	手持ちナデ	18 3	
(138)	38	灰	普通	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り	全体詰がみあり	18 4	
136	86	38	貴灰	普通	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り	焼成不良	18 5	
142	72	43	灰	普通	ロクロナデ	ロクロナデ	火だすき	回転ヘラ切り	18 6	
158	(86)	39	貴灰	普通	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り	焼成不良	18 7
(146)	(85)	45	暗青	普通	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り		18 8	
1525	80	41	貴灰	普通	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り	焼成不良	18 9	
(136)	(76)	35	灰	普通	ロクロナデ	ロクロナデ	火だすき	回転ヘラ切り	18 10	
(86)			灰	普通	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り?	18 11	
(140)	(76)	52	灰	真 黒色粒	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り	18 12	
	70		灰	普通 黒色粒	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り	18 13	
(154)			青灰	良	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ		18 14	
(124)			灰	普通 黒色粒	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ		18 15	
			灰	普通	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ		18 16	
75	つまみ 28	34	灰	普通 黒色粒	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ		19 1	
144	つまみ 32	28	青灰	普通	ロクロナデ	ロクロナデ	ケズリ	磨滅	19 2	
			青灰	普通	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り	19 3	
(195)		43	灰	普通	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ		19 4	
			灰	普通	アテ痕(同心円) 自然輪	タタキ(平行)	タタキ		19 5	
132	56	45	褐	相 赤粒	ミガキ 黑色汚れ	ナデ	黑色汚れ	回転糸切り	19 6	
116	50	52	褐	普通 赤粒	ハケメ ナデ	ハケメ ナデ	ハケメ ナデ	回転糸切り	19 7	
(156)	(80)	425	赤陶	普通	ミガキ ナデ	ハケメ ナデ	ケズリ		19 8	
	(72)		褐	普通	ミガキ	ケズリ	ミガキ	回転糸切り?	19 9	
(70)	42		褐	普通	ミガキ	ケズリ	ケズリ		19 10	
(166)			灰	普通	ミガキ	ミガキ	ケズリ		19 11	
(160)			褐	普通	ミガキ 黑色処理	ケズリ	ナデ		19 12	
(138)			褐	普通	ミガキ	ケズリ	ナデ	磨滅	19 13	
(146)			褐	普通	ミガキ	ハケメ	ケズリ	ナデ	19 14	
(144)	(70)	38	褐	普通	ミガキ 黑色処理	ケズリ	ナデ		19 15	
(140)			茶褐	普通 海面骨粒	ミガキ 黑色処理?	ミガキ ナデ	ケズリ	ナデ 鉛熱?	19 16	
(66)			褐	やや良 赤粒	ミガキ? 黑色処理	ミガキ?	ミガキ	蒸氣痕 磨滅	19 17	
(80)			褐	相 赤粒	ミガキ 黑色処理	ケズリ?	ミガキ	回転ヘラ切り? 内外面磨滅	19 18	
(100)			黑	普通	ミガキ 黑色処理	ミガキ	ケズリ	ミガキ 黑色処理	19 19	
			褐	普通	ケズリ	ケズリ			19 20	
			赤黒	普通	ミガキ 黑色処理	ハケメ ナデ	ミガキ 黑色処理		19 21	
			褐	普通					19 22	
114			褐	普通 赤粒	ハケメ ナデ	ハケメ ナデ	ハケメ ナデ		20 1	
(140)			褐	普通 赤粒	ナデ 頭部黑色汚れ	ナデ	ナデ	磨滅	20 2	
116			赤褐	普通 赤粒	ナデ 不規則な 指痕痕	ナデ 不規則な 指痕痕	ナデ 不規則な 指痕痕		20 3	
176			褐	普通	ハケメ ナデ	ハケメ ナデ	ハケメ ナデ		20 4	

図版番号	遺物番号	写真図版	出土地区	登録番号 R P・R Q	出土遺構	層位	グリッド	種別	器種
20 5	15	C			ST58・SK93	F	66-32	土師器	壺
20 6	15	C	5		ST58	F1	66-32	土師器	壺
20 7	15	C	12		ST58	F1	66-32	土師器	壺
20 8	15	C			ST58	Y	65-32	土師器	壺
20 9	16	C	10・17・17周辺		ST58	F1	66-32	土師器	壺
20 10	16	C	4		ST58	F1	65-32	土師器	壺
21 1	15	C	7		ST58	F1	65-32	土師器	壺
21 2	16	C	26		ST58	F1	65-32 66-32	土師器	壺
21 3	16	C	19・21・20周辺		ST58	F1	66-32	土師器	壺
21 4	17	C	23・10		ST58	F1	66-32	土師器	壺
21 5	16	C	26		ST58・SK91	F	65-32	土師器	壺
21 6	17	C	38		SK97	F	65-32	土師器	壺
21 7	17	C	38周辺		SK97	F	65-32	土師器	壺
21 8	17	C			ST58	Yの下	65-32	土師器	壺
21 9	16	C	10・17		ST58	F1 F	66-32	土師器	壺
22 1	17	C	5		ST58	F1	66-32	土師器	壺
22 2	17	C	26		ST58	F1	65-32	土師器	壺
22 3	17	C	5		ST58・SK97	F1	66-32	土師器	壺
22 4	17	C	12		ST58	F1	66-32	土師器	壺
22 5	17	C	5		ST58	F1	66-32	土師器	壺
22 6	17	C	28		ST58・SD59	F1	65-32 65・66-32	土師器	壺
22 7	17	C			ST58・SK91	F	65・66-32	土師器	壺
23 1	18	C	24		ST58	F1	65-32	石製品	砥石
23 2	18	C	19周辺		ST58	F1	65-32	石器	石錐
23 3	18	C	15		ST58	F1	66-32	石製品	砥石
23 4	18	C			SD59	F	65-32	須恵器	縹腕
23 5	18	D			SD59北側		65-32	土師器	壺
23 6	18	D			SD59北側		65-32	土師器	壺
23 7	18	C			SK79	F	65-31	須恵器	壺
23 8	18	C			SD88	F	67-31	黒色土器	無台坪
23 9	18	C			SD88	F	67-31	須恵器	壺
23 10	18	C			SD88・SK56	F	67-31	須恵器	有台坪
24 1	18	C			EP66周辺		61・62-31・32	須恵器	壺
24 2	18	C	25		ST58・SD59	F1	66-32 65-32	須恵器	無台坪
24 3	18	C			SP84	F	65-31・32 65-30	須恵器	縹腕
24 4	18	C			SP84	F	65-31・32	黒色土器	無台坪
24 5	18	C			SP89・SP101・ST58	F1	66-31・32 65-32	須恵器	壺
24 6	19	C			SP89	F	66-31・32	須恵器	反耳壺
24 7	20	C			SP102	F	65-32	土師器	壺

口径 mm	底径 mm	器高 mm	色調	釉 混入物	内面	外面	底部	備考	図版 番号	遺物 番号
160			褐	普通	ハケメ ナデ	ハケメ ナデ			20	5
(180)	101	183	褐	普通	ハケメ ナデ	ハケメ ナデ	本葉痕		20	6
(268)			褐	普通 赤粒	ハケメ ナデ	ハケメ ナデ			20	7
(220)			褐	普通 赤粒	ハケメ	ハケメ			20	8
260			褐	普通 赤粒	ナデ	口縁～体部一部 黒色汚れ			20	9
220			褐	赤粒 金ウンモ	ハケメ ナデ	ハケメ ナデ			20	10
(260)			褐	普通 赤粒	ハケメ ナデ	ハケメ ナデ	磨滅		21	1
(240)			褐	普通 赤粒	ハケメ ナデ	ケズリ ナデ			21	2
250	(174)		褐	普通	ハケメ ナデ	ハケメ ナデ	全体被熱		21	3
173			赤褐	普通 赤粒	ハケメ		磨滅		21	4
290			褐	普通 赤粒	ハケメ ナデ	ハケメ ナデ	外面にスス付着		21	5
88			赤褐	普通 赤粒	ナデ	ハケメ	業脈痕		21	6
88			茶褐	普通 赤粒	ハケメ	ハケメ	業脈痕		21	7
(92)			褐	普通 赤粒	ハケメ	ハケメ	業脈痕		21	8
101			褐	普通	ハケメ ナデ	ナデ	業脈痕	全体磨滅	21	9
(240)			褐	普通 赤粒	ハケメ ナデ	ハケメ		全体磨滅	22	1
(244)			褐	普通 赤粒	ナデ	まめつで	ハケメ ナデ	まめつで不明	22	2
250			褐	普通 赤粒	ハケメ	ハケメ			22	3
			褐	普通 赤粒 金ウンモ	ハケメ	ハケメ	体認スス付着		22	4
(98)			褐	普通 赤粒	ハケメ	ハケメ	業脈痕		22	5
86			褐	普通 赤粒	ハケメ	ハケメ	ハカリ 有黒色汚れ	業脈痕	22	6
88			褐	普通 赤粒	ハケメ	ハケメ	黒色汚れ	業脈痕	22	7
長さ178	幅38.5	厚さ19	茶褐					4面使用	23	1
長軸50	横軸51	刃厚7.0	褐						23	2
長さ233	幅141	厚さ63	褐						23	3
(134)			灰	黒色吹き出し	ロクロナデ	ロクロナデ			23	4
			黒陶	普通 赤粒	ハケメ 黒色汚れ	ハケメ 黒色汚れ	網代痕		23	5
60			褐	赤粒	ハケメ	ハケメ	網代痕		23	6
86			青灰	普通	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り 尖だすき	底面内部磨滅 (使用痕)	23	7
(148)	66	66	褐白	普通 黒色処理	ミガキ ナデ	ミガキ ケズリ	回転系切り?		23	8
			灰	黒色吹き出し	ロクロナデ	ロクロナデ 自然触あり			23	9
87			灰	普通	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り	焼成やや不良	23	10
(145)			灰	普通	ロクロナデ	ロクロナデ			24	1
136	73	31	暗青	普通	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り		24	2
(106)			灰	普通	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り		24	3
164	66	58	褐	普通	ミガキ ナデ	ミガキ ナデ	ミガキ	磨滅	24	4
つまみ 34			灰	普通	ロクロナデ	ロクロナデ			24	5
			青灰	普通	ケズリ				24	6
234			褐	普通	ハケメ ナデ	ハケメ ナデ			24	7

図版番号	遺物番号	写真図版	出土地区	登録番号 RP・RQ	出土遺構	層位	グリッド	種別	器種	
24 8	29	C	39		SP101	F	65-32	土師器	壺	
24 9	29	C	39		SP101	F	65-32	土師器	壺	
24 10	29	C			SK93・SP107	F1・F3	67-31 65-32	須恵器	壺	
24 11	29	D			SP87	F	67-43	磁器	壺?	
25 1	19	C					67-31	須恵器	無台坏	
25 2	19	C					67-31	須恵器	無台坏	
25 3	19	C						須恵器	縹腕	
25 4	19	D						須恵器	縹腕	
25 5	19	C						黒色土器	無台坏	
25 6	19	A	1					土師器	無台坏	
25 7	19	D					54-36	須恵器	壺	
25 8	19	C					64-32	黒色土器	高环	
25 9	19	C					66-31	土師器	壺	
25 10	19	C					66-31	土師器	壺	
25 11	19	C						黒色土器	壺	
25 12	19	C						黒色土器	鉢	
25 13	19	C					66-31	土師器	壺	
25 14	19	D						土師器	壺	
25 15	19	A			トレンチ			本製品	本簡	
25 16	29	C			SK95	F	60-32	磁器	碗	
25 17	29	A			トレンチ			磁器	碗	
25 18	29	A			トレンチ			磁器	皿	
25 19	29	C					64-31	磁器	皿	
25 20	29	C						陶器	皿	
47 1	37	I	379		ST774	Y	37-35	須恵器	無台坏	
47 2	37	I	345		ST774	Y	36-35	須恵器	無台坏	
47 3	37	I	352		ST774	F	36-35 37-35	須恵器	無台坏	
47 4	37	I	342・351		ST774	F	36-35	須恵器	無台坏	
47 5	37	I	353		ST774	F	37-35	須恵器	無台坏	
47 6	37	I	360		ST774	Y	36-35	土師器	無台坏	
47 7	37	I	357		ST774	Y	36-35	土師器	無台坏	
47 8	37	I	358		ST774	Y	36-35	土師器	壺	
47 9	37	I	347		ST774	EL	36-35	土師器	壺	
47 10	37	I	356		ST774	F1	36-35	土師器	壺	
47 11	37	I	354・355・380		ST774	F	貼床	36-35	土師器	壺
47 12	37	I	346・347・349		ST774	EL	ELY F	36-35	土師器	壺
48 1	37	I	347		ST774	F	F1 EL	36-35	土師器	壺
48 2	37	I	344・347		ST774	EL	36-35	黒色土器	壺	
48 3	37	I	380		ST774			土師器	壺	
48 4	38	I	348		ST774	Y	36-35	石製品	砾石	
49 1	38	I	347・347F		ST774	EL	36-35	土師器	壺	

口径 mm	底径 mm	器高 mm	色調	胎土 混入物	内面	外面	底部	備考	図版 番号	遺物 番号
(256)	112	-	褐	普通 赤粒	ハケメ ナデ	ハケメ ナデ			24	8
			褐	普通 赤粒	ハケメ	ハケメ 下半黒 色汚れ	業脈痕		24	9
(178)	62	-	青灰	普通	ロクロナデ ナデ痕	ロクロナデ タタキ			24	10
			白	無釉	無釉				24	11
(156)	90	39	黄白	普通	ロクロナデ 漆付着	ロクロナデ	回転ヘラ切り	焼成不良	25	1
(144)	86	-	灰	普通	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り		25	2
			灰	精良	ロクロナデ	ロクロナデ			25	3
			灰	普通	ロクロナデ	ロクロナデ			25	4
(120)	(52)	46	褐	普通	ミガキ 黒色処理	ミガキ ケズリ		磨滅	25	5
(148)	-	-	褐	普通 赤粒	ナデ	ケズリ ナデ			25	6
			灰	普通	ロクロナデ 輪	ロクロナデ 沈線二条			25	7
脚最大径 54	-	-	褐	普通	ミガキ ケズリ ナデ黒色処理	不明			25	8
(160)	90	-	褐	普通 赤粒	ハケメ	ハケメ ナデ			25	9
			黒褐	やや良	ハケメ ナデ	ハケメ ナデ			25	10
90	-	-	褐	普通	ハケメ		業脈痕		25	11
			黒褐	やや良	ハケメ ナデ	ハケメ ナデ			25	12
76	-	-	褐	普通 赤粒	ケズリ ナデ	ミガキ			25	13
			褐	普通 赤粒	ナデ 輪積痕	ナデ 指頭痕	業脈痕		25	14
88	-	-	褐	普通 赤粒	ハケメ ナデ	まめつで不明	業脈痕		25	15
			長(68)	輪21	厚5			墨痕?下部欠損		25
(98)	74	-			ロクロナデ	ロクロナデ 透明物染付			25	16
					透明物	透明物染付			25	17
(50)	-	-			輪有り	輪有り			25	18
					透明物	透明物	砂付着		25	19
(104)	(54)	20	茶	普通	ロクロナデ 輪	ロクロナデ 輪		唐津	25	20
			168	106	43.5	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り スノコ?圧痕		47
142	80	41.5 (最大)	青灰	良・黒色 吹き出し	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り スノコ?圧痕		47	2
141	84	44	赤灰	普通	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り		47	3
(136)	(76)	40	赤灰	普通	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り		47	4
(70)	-	-	灰	普通	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り		47	5
(140)	(70)	45	褐	普通 赤粒	ミガキ	ミガキ ケズリ ナデ	業脈痕		47	6
130	76	44.5	褐	普通 赤粒	ナデ 黒色汚れ	ケズリ ナデ	ケズリ	内底面磨滅使用痕	47	7
(156)	82	145.5	褐	普通 赤粒	ハケメ	ハケメ ナデ	全周ス付着	業脈痕	47	8
(126)	-	-	褐	普通 赤粒	ハケメ ナデ	ハケメ ナデ			47	9
115	87	93	褐	普通 赤粒		ハケメ ナデ	業脈痕		47	10
28	-	-	青褐	普通 赤粒	ハケメ ナデ	ハケメ ケズリ 丸底 (タタキ出 し?)			47	11
92	-	-	褐	普通 赤粒	ハケメ ナデ	被然で不明			47	12
247	91	338 (測点)	褐	普通 赤粒	ハケメ ナデ 口縁部ス付着	ハケメ ナデ 体部ス付着	業脈痕		48	1
(126)	(83)	155	褐灰~黑	普通	ミガキ 黒色処理	ミガキ ナデ			48	2
(178)	-	-	褐	普通 赤粒	ハケメ ナデ	葉部ス付着			48	3
長さ134	輪38	厚さ29	褐	普通 赤粒	ハケメ ナデ 輪痕	ハケメ ナデ 黒色汚れ		4面使用中底	48	4
(220)	-	-	褐	普通 赤粒					49	1

図版番号	遺物番号	写真図版	出土地区	登録番号 RP・RQ	出土遺構	層位	グリッド	種別	器種
49 2	38	I	347・347F		ST774	EL	36-35	土師器	壺
49 3	38	I	361		ST774	YF	36-35	壺	
50 1	38	I			ST749	F	34-34	須恵器	無台坏
50 2	38	I			ST749南東	F	34-34	須恵器	壺
50 3	38	I	365		SK806・808, ST749	F	34-34 33-34	須恵器	無台坏
50 4	38	I	375		SK806	F	34-34	須恵器	無台坏
50 5	38	I			ST749・SK806	F	34-34	須恵器	無台坏
50 6	38	I			ST749・SK806	F	34-34	須恵器	無台坏
50 7	38	I			ST749・SK806	F	34-34	須恵器	無台坏
50 8	38	I	371		SK806	F	34-34	須恵器	無台坏
50 9	38	I	340		SK806・ST749	F	34-34	赤燒土器	無台坏
50 10	38	I			SK806・807, ST749	F	33-34	土師器	壺
50 11	38	I	364の下 339の下 363附近		ST749, SK806・807・808	F 1・F	33-34	土師器	壺
51 1	39	I	370		ST749南西, SK807・808	F	33-34	土師器	壺
51 2	39	I	370		SK807・808, ST749	F	33-34	土師器	壺
51 3	39	I	370		SK807・808	F	33-34	土師器	壺
51 4	39	I			ST749・SK806	F	34-34	土師器	壺
51 5	39	I	339		ST749, SK807・808	F	33-34	土師器	壺
51 6	39	I	376		SK806	F	34-34	土師器	壺
51 7	39	I	372		ST749・SK806	F	34-34	土師器	壺
52 1	39	I	364		SK808・ST749	F	33-34	須恵器	壺
52 2	39	I	366		SK808	F	33-34	土師器	壺
52 3	39	I	368 364の下		SK806・808, ST749	F 1・F	33-34	土師器	壺
52 4	39	I	368		SK808	F	33-34	土師器	壺
52 5	39	E	312		SK302	F	37-26	須恵器	無台坏
52 6	39	E	304		SK302	F	37-26	黒色土器	鉢
52 7	39	E	313		SK302	F	37-26	黒色土器	鉢
52 8	39	E			SK301	F	40-24	土師器	無台坏
52 9	40	E	323		SK399	Y	40-24	須恵器	有台坏
52 10	39	E	326		SK399	Y	40-24	土師器	無台坏
52 11	40	E	301	SX308・314, SX303, SD408, トレンチ		F	29-25 31-24	須恵器	無台坏
52 12	40	E	307		SK314	F	29-24	須恵器	無台坏
52 13	40	E	320		SK314	F	29-24	黒色土器	無台坏
52 14	40	E・H			SK314・トレンチ	F	29-24	須恵器	無台坏
52 15	40	E			SK314	F	29-24	土師器	無台坏
52 16	40	E	308		SK314	F	29-24	土師器	壺
53 1	40	E			SK697	F	29・30-26	黒色土器	無台坏
53 2	40	E			SK697	F	29・30-26	土師器	無台坏
53 3	40	I			SK809	F	34・35-33・34	土師器	壺

口径 mm	底径 mm	器高 mm	色調	胎 泥入物	内面	外面	底部	備考	図版 番号	遺物 番号
216 長さ121	98 幅92	341 厚さ43	褐	普通 赤粒	ハケメ 体部一部 部黒色汚れ	ハケメ ナデ 体部下半黒色汚れ	業脈痕		49	2
140	37	灰	普通	ロクロナデ	ロクロナデ		被熱痕あり	49	3	
(74)		青灰	黒粒	ロクロナデ	ロクロナデ			50	1	
140	84	青灰	普通 黒色粒	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り		50	2	
62		灰黄	普通	ロクロナデ 一部黒色汚れ	ロクロナデ 一部黒色汚れ	回転糸切り	破損後被熱か?	50	3	
(152)		青灰	普通	ロクロナデ	ロクロナデ			50	4	
(142)		青褐	普通	ロクロナデ	ロクロナデ			50	5	
160		灰	普通 黒色粒	ロクロナデ	ロクロナデ	輪		50	6	
155	72	51	灰	普通	ロクロナデ	ロクロナデ	全体ゆがみ	50	7	
134	75	52	赤褐	粗 赤粒	ケズリ ナデ	ケズリ 業脈痕	被熱痕滅	50	8	
	43		赤褐	普通 赤粒	ハケメ		磨滅	50	9	
(260)		褐	普通	ハケメ	ハケメ スス付着			50	10	
(240)		赤褐	普通 赤粒	ハケメ	ハケメ ナデ			51	1	
(200)		褐	赤粒	ハケメ ナデ			磨滅	51	2	
(241)		褐	普通 赤粒	ハケメ ナデ	ハケメ			51	3	
(124)		赤褐	普通 赤粒	ハケメ ナデ	ハケメ ナデ			51	4	
226		褐	普通 赤粒	ハケメ ナデ	ハケメ ナデ 黒色汚れ			51	5	
(138)		灰白	普通 赤粒	ハケメ ナデ	ハケメ ナデ			51	6	
(138)		褐	普通 赤粒	ハケメ ナデ	ハケメ ナデ			51	7	
154 つまみ 29	28	灰褐	普通	ロクロナデ	ロクロナデ			52	1	
240		褐	普通 赤粒	ハケメ ナデ	ハケメ ナデ 全面黒色汚れ			52	2	
(246)		褐	普通 赤粒	ハケメ	ハケメ ナデ 体部スス付着		ハケメ粗	52	3	
278		褐	普通 赤粒	ハケメ ナデ	ハケメ ナデ 体部スス付着			52	4	
(159) (84)	41	灰 良	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り		52	5	
(150) (66)	66	褐	普通 金ウニモ	ミガキ 黒色処理	ミガキ タヌリナデ			52	6	
(162)	65	褐	普通 赤粒 金ウニモ	ミガキ 黒色処理	ミガキ タヌリナデ			52	7	
(120)		褐 灰	真 良	ナデ	ミガキ			52	8	
(136)		褐 良	普通 良	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り?		52	9	
156	102	46	灰 良	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り		52	10	
(145)		青灰	普通 黒色粒	ロクロナデ	ロクロナデ 火だ下き			52	11	
120 (30)		褐	普通 黒色処理	ミガキ ナデ	ミガキ ケズリ ナデ			52	12	
(156) (114)	76	41	青灰 褐	普通 ナデ	ロクロナデ ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	52	13	
(120)		褐	普通 スス付着	ハケメ ナデ	ハケメ ナデ			52	14	
142		褐	赤粒	ミガキ 黒色処理	ミガキ ケズリ ナデ新唐「×」			52	15	
		褐	普通 赤粒	ミガキ	ミガキ ケズリ 新唐「□」			52	16	
30		基褐	普通	ミガキ	ミガキ ケズリ ナデ			53	1	
								53	2	
								53	3	

図版番号	遺物番号	写真図版	出土地区	登録番号 RP・RQ	出土遺構	層位	グリッド	種別	器種
53 4	40	I			SK809	F	34・35・33・34	土師器	双耳杯?
53 5	40	I			SK824	F	33・34	石製品	砥石
53 6	40	E			SD406	F	27・25	須恵器	無台坏
53 7	40	E			SD408 トレンチ	F	29・25	須恵器	無台坏
53 8	40	E	336		SD409	F	30・26	土師器	甕
53 9	40	E			SD409	F	29・25	土師器	甕
53 10	40	E	335		SD410	F	26・25	須恵器	壺
53 11	41	G			SD683	F	30・31・26・27	須恵器	有台坏
53 12	41	G	337		SD700	F	31・31	土師器	甕
53 13	41	G			EP714	F	31・27	須恵器	無台坏
53 14	41	I			SD810	F	36・31	須恵器	無台坏
53 15	41	I			SD810	F	36・31	黑色土器	無台坏
54 1	41	E		SP495・SX303・ トレンチ	F	32・24 30・25	須恵器	無台坏	
54 2	41	I			SP813	F	36・32	須恵器	無台坏
54 3	41	E	329	SP434・トレンチ	F	28・25	須恵器	有台坏	
54 4	41	G	338		SP656	F	31・29	須恵器	有台坏
54 5	41	E	332		SP393	F	32・25	土師器	鉢
54 6	41	E・H		SX303 SP541 トレンチ	F	31・24 27・26 30・26	須恵器	甕	
54 7	41	E		SP417北東	F	27・26	須恵器	甕?	
54 8	41	I			SP837	F	37・32	須恵器	甕
54 9	41	F			EP576	F	23・26	土師器	甕
54 10	41	E	331		SP490	F	29・25	土師器	甕
55 1	42	E・H		SX303 トレンチ	F	29・24 31・24	須恵器	無台坏	
55 2	42	E・H		SX303 トレンチ	F	31・25	須恵器	無台坏	
55 3	42	E		SX303 トレンチ	F	30・24	須恵器	無台坏	
55 4	42	E		SX303	F	32・24	須恵器	無台坏	
55 5	42	E・H		SX303	F	29・24 30・24	須恵器	無台坏	
55 6	42	E		SX303	F	30・24 31・25	須恵器	無台坏	
55 7	42	E		SX303 トレンチ	F	30・24	須恵器	無台坏	
55 8	42	E		SX303 トレンチ	F	28・30・24	須恵器	無台坏	
55 9	42	E		SX303 トレンチ	F	29・25 30・24	須恵器	無台坏	
55 10	42	E		SX303 トレンチ	F	31・24	須恵器	無台坏	
55 11	42	E		SX303 トレンチ	F	30・24	須恵器	無台坏	
55 12	42	E		SX303 トレンチ	F	30・25 29・25 31・25	須恵器	無台坏	
55 13	42	E		SX303 トレンチ	F	30・24	須恵器	無台坏	
56 1	42	E		SX303 トレンチ	F	30・24	須恵器	無台坏	
56 2	42	E		SX303 トレンチ	F	30・24	須恵器	無台坏	
56 3	42	E		SX303 トレンチ	F	31・24	須恵器	無台坏	
56 4	43	E		SX303 トレンチ	F	30・24	須恵器	無台坏	
56 5	43	E		SX303	F	29・24	須恵器	無台坏	
56 6	43	E		SX303 トレンチ	F	30・24	須恵器	無台坏	

口径 mm	底径 mm	器高 mm	色調	釉土 混入物	内面	外面	底部	備考	図版 番号	遺物 番号
長さ61	幅44	厚さ13	青褐	普通 赤鉄	ハケメ				53	4
(68)			灰	普通	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り	二面使用	53	5
(88)			灰	普通	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り 黒色汚れ		53	6
(156)			褐	粗	ハケメ	ナデ		磨滅	53	7
			普通 赤鉄	ハケメ				磨滅	53	8
(148)	つまみ 27	21	灰	普通 黒色粒	ロクロナデ	ロクロナデ			53	9
		72	灰	良 火はね	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り?		53	10
56			褐	普通 赤鉄	ハケメ スス付着	ナデ スス付着	本葉瓶		53	11
(162)			赤黒灰	普通	ロクロナデ	ロクロナデ	不明		53	12
(146)			青灰	普通	ロクロナデ	ロクロナデ	不明		53	13
(136)			褐	良 ミガキ 黒色処理	ミガキ 輪削痕	ナデ			53	14
(130)	(78)	(48)	青灰	粗	ロクロナデ	ロクロナデ	回転条切り		54	1
125			青灰	普通	ロクロナデ	ロクロナデ		焼成不良	54	2
(136)	(84)	51	灰	普通	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り?		54	3
真 良			灰 黒色粒	ロクロナデ	ロクロナデ				54	4
			褐	ハケメ 赤鉄	ナデ 口縁部黒色汚れ	ナデ 体部黒色汚れ			54	5
(160)			灰	普通	ロクロナデ	ロクロナデ	タタキ (平行) 自然彫		54	6
			灰	普通	カキメ アテ	カキメ タタキ			54	7
			灰	普通	アテ (平行)	タタキ (平行)	不明		54	8
(174)			褐	普通 赤鉄	ハケメ ナデ	ハケメ ナデ			54	9
86			褐	普通 赤鉄	ハケメ ナデ	ナデ	本葉瓶		54	10
136	91	37	灰	粗 黒色粒	ロクロナデ 火だしき	ロクロナデ	回転ヘラ切り		55	1
(152)	(90)	40	青灰	普通	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り		55	2
(144)	74	40	青灰 良 黒色粒	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ 火だしき	回転ヘラ切り 板状灰		55	3
(152)	(90)	39	暗灰黄色	普通	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り		55	4
(149)	(91)	43	灰	普通 白色粒	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り	磨滅	55	5
(138)	(39)	40	青灰	普通	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り		55	6
(140)	(65)	31	灰	普通	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り		55	7
(142)	(80)	41	灰黄	普通	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り		55	8
		70	灰	普通 黒色粒	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り		55	9
154	100	34	青灰	普通	ロクロナデ 黒色汚れ	ロクロナデ 黒色汚れ	回転ヘラ切り 黒色汚れ	焼成不良	55	10
(138)	(58)	32	灰	良 黒色粒	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り	スノコ状灰	55	11
		70	青灰	普通	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り	墨付着	55	12
(90)			灰	普通 黒色粒	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り		55	13
140	58	37	青灰	良	ロクロナデ	ロクロナデ	回転条切り		56	1
(140)	62	37	青灰	粗	ロクロナデ	ロクロナデ	回転条切り		56	2
140	71	42	青灰	普通 黒色粒	ロクロナデ	ロクロナデ	回転条切り		56	3
(142)	74	39	灰	普通	ロクロナデ	ロクロナデ	回転条切り		56	4
(144)	58	40	灰	良 黒色粒	ロクロナデ まつめ	ロクロナデ	回転条切り		56	5
(128)	80	41	灰	褐 黒色粒	ロクロナデ	ロクロナデ	回転条切り		56	6

図版番号	遺物番号	写真図版	出土場所	登録番号 RP・RQ	出土遺構	層位	グリッド	種別	器種
56 7	43	E		SX303	トレンチ	F	31-25	須恵器	無台坏
56 8	43	E		SX303	トレンチ	F	29-24	須恵器	無台坏
56 9	43	E		SX303		F	30-24	須恵器	無台坏
56 10	43	E		SX303	トレンチ	F	30-24	須恵器	無台坏
56 11	43	E		SX303	トレンチ	F	31-24 29-24	須恵器	無台坏
56 12	43	E		SX303	トレンチ	F	31-24	須恵器	無台坏
57 1	43	E		SX303	トレンチ	F	32-24	須恵器	無台坏
57 2	43	E		SX303	トレンチ	F	30-24	須恵器	無台坏
57 3	43	E		SX303	トレンチ	F	31-25	須恵器	無台坏
57 4	43	E		SX303	トレンチ	F	31-24	須恵器	無台坏
57 5	44	H		SX303		F	30-24	須恵器	無台坏
57 6	44	E・H		SX303	トレンチ	F	30-24	須恵器	無台坏
57 7	44	H・E		SX303	トレンチ	F	31-24	須恵器	無台坏
57 8	44	E		SX303	トレンチ	F	31-25 30-25	須恵器	無台坏
57 9	44	E		SX303	トレンチ	F	30-24	須恵器	無台坏
57 10	44	E		SX303		F	31-25	須恵器	無台坏
58 1	44	E		SX303	トレンチ	F	30-25	須恵器	有台坏
58 2	44	E		SX303	トレンチ	F	30-24	須恵器	有台坏
58 3	44	E		SX303	トレンチ	F	31-24	須恵器	有台坏
58 4	44	E		SX303	トレンチ	F	30-24	須恵器	有台坏
58 5	44	E		SX303	トレンチ	F	30-24	須恵器	有台坏
58 6	44	E		SX303	トレンチ	F	30-25	須恵器	有台坏
58 7	44	E		SX303	トレンチ	F	30-25	須恵器	有台坏
58 8	44	E		SX303	トレンチ	F	30-24	須恵器	有台坏
58 9	44	E		SX303	トレンチ	F	30-24	須恵器	有台坏
58 10	45	E		SX303	トレンチ	F	30-24	須恵器	有台坏
58 11	45	E		SX303		F	30-24	須恵器	有台坏
58 12	45			SX303		F	30-24	須恵器	双耳环
58 13	45	E		SX303	トレンチ	F	30-24	須恵器	双耳环
59 1	45	E		SX303	トレンチ	F	30-24	須恵器	高坏?
59 2	45	E		SX303		F	30-24	須恵器	不明
59 3	45	E		トレンチ		F	30-24	須恵器	不明
59 4	45	E		SX303		F	28-24	須恵器	不明
59 5	45			SX303		F	30-24	須恵器	小明
59 6	45	E		SX303	トレンチ	F	30-24	須恵器	蓋
59 7	45	E		SX303	トレンチ	F	30-24	須恵器	蓋
59 8	45	H		SX303		F	30-24	須恵器	蓋
59 9	45	E		SX303	トレンチ	F	31-24	須恵器	蓋

口径 mm	底径 mm	器高 mm	色調	胎 泥	土 入	内面	外面	底部	備考	図版 番号	遺物 番号
	68		灰	良	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り			56	7
(142)			貴灰	良	ロクロナデ	ロクロナデ				56	8
(86)			灰白	普通	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り 墨付着			56	9
(142)	(76)	38	灰	普通	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り 墨書「□」	磨滅		56	10
145	71	39	灰	普通 黒色粒	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り 墨書「」			56	11
(145)	72	41	灰	普通	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り 墨付着			56	12
(150)	(66)	40	貴灰	普通	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り 墨付着			57	1
	(70)	(32)	灰	普通	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り 墨付着			57	2
	(65)		灰	普通	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り 墨付着			57	3
140	75	45	貴灰	普通	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り 墨付着			57	4
	(74)		灰	普通	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り 墨付着			57	5
(114)	(60)	40	灰	良	ロクロナデ 漆付着	ロクロナデ 漆付着		断面漆付着接着痕		57	6
(138)	(82)	43	灰	普通 黒色粒	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り 漆付着			57	7
	62		灰	黒色粒	ロクロナデ	ロクロナデ 黒色汚れ	回転糸切り			57	8
(64)			灰	普通	ロクロナデ	ロクロナデ 黒色汚れ	回転糸切り 黒色汚れ			57	9
			灰	普通 黒色粒	ロクロナデ		回転ヘラ切り 墨書「×」			57	10
84			灰	普通 黒色粒	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り 墨付着	蓋?		58	1
81	23		灰	良	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り 墨付着			58	2
132.5	(79)	51	貴灰	普通	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り 墨付着			58	3
(58)			灰	普通 黒色粒	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り			58	4
(91)			灰	良	ロクロナデ 黒色汚れ	ロクロナデ	回転ヘラ切り	移築の用途検討資 料		58	5
(150)	90	50	灰	良	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	磨滅		58	6
(144)	51		灰	黒色粒	ロクロナデ	ロクロナデ ケズリ	回転ヘラ切り			58	7
86			灰	普通	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	磨滅		58	8
(82)	白赤褐		普通 赤系粒	ロクロナデ	ロクロナデ		回転糸切り			58	9
(83)			灰	普通 黒色粒	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り			58	10
83			灰	普通 黒色粒	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	磨滅		58	11
			灰	良	ロクロナデ	ロクロナデ ケズリ				58	12
			灰	良 黒色粒	ロクロナデ	ロクロナデ ケズリ 指紋				58	13
140			灰	普通	ロクロナデ 一部黒色汚れ	ロクロナデ		蓋? 磨滅		59	1
(73)			貴灰	普通	ロクロナデ	ロクロナデ		器種要検討		59	2
(112)			灰	普通 黒色粒	ロクロナデ	ロクロナデ 自然釉		器種要検討		59	3
(100)			灰	普通 黒色粒	ロクロナデ	ロクロナデ		器種要検討		59	4
(120)			灰	普通	ロクロナデ	ロクロナデ 自然釉		器種要検討		59	5
(154)	つまみ (29)	35	灰	普通 黒色粒	ロクロナデ	ロクロナデ ケズリ				59	6
142	つまみ 27	25	灰	普通	ロクロナデ	ロクロナデ ケズリ				59	7
つまみ 31			灰	普通	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り			59	8
150	つまみ 37	29	貴灰	普通	ロクロナデ	ロクロナデ				59	9

図版番号	遺物番号	写真図版	出土地区	登録番号 R P - R Q	出土遺構	層位	グリッド	種別	器種
59 10	45	E		SX303	トレンチ	F	30-24	須恵器	盃
59 11	45	E		SX303	トレンチ	F	30-24	須恵器	盃
59 12	45	E		SX303	トレンチ	F	30-24	須恵器	盃
59 13	45	E		SX303	トレンチ	F	30-24	須恵器	盃
59 14	45	E		SX303	トレンチ	F	31-24	須恵器	盃
59 15	45	E		SX303	トレンチ	F	30-24	須恵器	盃
59 16	46	E		SX303	トレンチ	F	31-24 31-25	須恵器	盃
59 17	46	E		SX303	トレンチ	F	30-24	須恵器	こね鉢
60 1	46	E		SX303	トレンチ	F	30-24	土師器	無台坏
60 2	46	E		SX303	トレンチ	F	30-24	黒色土器	無台坏
60 3	46	E		SX303	トレンチ	F	29-25	黒色土器	無台坏
60 4	46	E		SX303	トレンチ	F	30-24	土師器	鉢
60 5	46	E		SX303	トレンチ	F	30-24	土師器	鉢?
60 6	46	I					33-28	黒色土器	高环
60 7	46	E		SX303	トレンチ	F	30-24	土師器	高环
60 8	46	E		SX303	トレンチ	F	30-24	土師器	盃
60 9	46	E・H		SX303	トレンチ	F	30-24 31-24	土師器	筒形容器
60 10	46	E		SX303		F	28-30-24	土師器	筒形容器
61 1	47	I					36-29	繩文土器	深鉢
61 2	47	I					34-34	石器	石匙
61 3	47	I						石器	石匙
61 4	47	I					34-35	須恵器	無台坏
61 5	47	I					33-34-34-35	須恵器	無台坏
61 6	47	I					36-33	須恵器	無台坏
61 7	47	G						須恵器	有台坏
61 8	47	I					36-33-34	黒色土器	無台坏
61 9	47	G					31-32	黒色土器	無台坏
61 10	47	E					29-24	黒色土器	無台坏
61 11	47	I					35-35	土師器	ミニチュア土器鉢
61 12	47	I						須恵器	盃
61 13	47	E					24-25	須恵器	盃
61 14	47	G						赤燒土器	盃
61 15	47	E					28-30-24	黒色土器	鉢?

参考文献

- 阿部明彦・水戸弘美 1999「山形県の古代土器編年」『第25回古代城柵官街道路検討会資料』古代城柵官街道路検討会
 長井市教育委員会 1998「市内遺跡発掘調査報告書(6)」山形県長井市埋蔵文化財調査報告書第15集
 長井市教育委員会 2001「市内遺跡発掘調査報告書(9)」山形県長井市埋蔵文化財調査報告書第19集
 長井市教育委員会 2002「市内遺跡発掘調査報告書(10)」山形県長井市埋蔵文化財調査報告書第20集
 山形県教育委員会 2002「分布調査報告書(28)」山形県埋蔵文化財調査報告書第202集

口径 mm	底径 mm	器高 mm	色調	釉土 混入物	内面	外面	底部	備考	図版 番号	遺物 番号
径115			灰	普通 黒色粒	ロクロナデ	ロクロナデ ケズリ			59	10
120			灰	普通 黒色粒	ロクロナデ	ロクロナデ 自然釉			59	11
			灰	青真	ロクロナデ	ロクロナデ 自然釉			59	12
(81)			灰	普通 黒粒	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り		59	13
(192)			灰	普通	ロクロナデ	ロクロナデ タタキ(平行) 自然釉	アテ(青海波) 自然釉		59	14
			灰	普通 黒色粒	アテ(同心円)	タタキ(枝子目)			59	15
(172)			灰	普通 黒色粒	ロクロナデ	ロクロナデ			59	16
(180)			灰	普通 黒色粒	ロクロナデ	ロクロナデ 自然釉			59	17
138	70	62	褐	普通	ミガキナデ	ナデ	まめつ		60	1
	54		灰	良	黒色処理	ケズリ	回転系切り		60	2
(154)			褐	普通 赤粒	ミガキ 黒色処理	ミガキ ケズリナデ			60	3
(160)			褐	粗 赤粒	ハケメナデ	ハケメナデ	タタキ?		60	4
(86)			褐	粗 赤粒	ハケメ	ナデ			60	5
脚最大径 40			黒灰	普通	ケズリ	ケズリ	不明 脚部内面 黑色処理	4分割(?)にス リット入る	60	6
			青湯	普通 赤粒	ミガキ 黒色処理	ミガキ ケズリ			60	7
160			褐	普通 赤粒	ハケメナデ	ハケメナデ			60	8
(140)			褐	普通 金ウニモ	ハケメナデ	ハケメナデ			60	9
(100)			褐	粗 赤粒	輪積痕	ハケメナデ			60	10
			茶褐			施文			61	1
			灰						61	2
長軸87	短軸49	厚9	黑茶						61	3
139	28	40	灰	良	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り		61	4
	(70)		灰	普通	ロクロナデ	ロクロナデ	回転系切り 塗付着	磨減	61	5
			灰	普通	ロクロナデ		回転ヘラ切り 塗付着	底面を円盤状に加 工	61	6
33			灰	良	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り		61	7
			黒	普通 黒色処理	ミガキナデ	ケズリナデ			61	8
(110)	51	(68)	黒	良	ミガキ 黒色処理	ミガキ 黒色処理		器厚薄くミガキ丁 寧に施す	61	9
(138)			褐	普通	ミガキ 黒色処理	ミガキ ケズリ	不明		61	10
34	10	25	黒	良	ナデ	ミガキ ナデ	指頭痕	ナデ	61	11
			灰	普通	ロクロナデ	ロクロナデ 脚端波状			61	12
(220)			灰	普通 黒色粒	ロクロナデ 自然釉	ロクロナデ			61	13
(122)	(36)		赤褐	普通 赤粒	ハケメ ナデ	ハケメ ナデ			61	14
(60)			褐	普通	ミガキ 黒色処理	ケズリ	網代痕		61	15